

遊吉追都見倍之ハ女郎花ハ
多ク女にたさふれハ夕くれ
に行逢んさの意ふるへし

八千島の千元厩本よ十に作
れり

古歌云々拾穂本に下の奴婆
多麻乃の歌の下に次てナリ
さる本有しあるへし
伊久理能母里ハ神名帳に越
後國新原郡伊久理神社あり
禮さ里と通へハ是なるへし
さて妹カ家に行くさいひ下
したり下句ハ藤花のおかぬ
ハ此春のみならず見來ん春
もいつまでもかく又げやさ
んさ也

曾乃可波能倍爾ハ京の中の
川なにいふへし

シラムモ
思良牟母

右一首守大伴宿禰家持作

ヒグラシノナキヌルトキハナミナベシサキタルノベナ
日晚之乃奈吉奴流登吉波乎美奈弊之佐伎多流野邊乎
ユキツトミベシ
遊吉追都見倍之

右一首大目秦忌寸八千島

古歌一首大原高安年月不審但隨聞時記載茲焉

イモガイヘニイクリノモリノフサノハナイマコムハルモツ子
伊毛我伊弊爾伊久理能母里乃藤花伊麻許牟春毛都禰
カクシミム
加久之見牟

右一首傳誦僧玄勝是也

カリガチハツカヒニコムトサワケラムアキカセサムミソノ
鴈我禰波都可比爾許牟等佐和久良武秋風左無美曾乃

カハノベニ
可波能倍爾

ウマナメテイザウチユカナシブタニノキヨキイソマニヨ
馬並底伊射字知由可奈思夫多爾能伎欲吉伊蘇末爾與
スルナミハニ
須流奈彌見爾

右二首守大伴宿禰家持

ヌバタマノヨハフケヌラシタマクシゲフタガミヤマ
婆婆多麻乃欲波布氣奴良之多末久之氣敷多我美夜麻
ニツキカタアキマ
爾月加多夫伎奴

右一首史生土師宿禰道良

ナゴノアマノツリスルフ子ハイマコソハフナダナウ
奈吳能安麻能都里須流布禰波伊麻許曾婆敷奈太那宇
チアアヘアコゴアメ
知底安倍底許藝泥米

大目秦忌寸八千嶋之館宴歌一首

奈吳ハ越中ナリ
敷奈太那ハ和名抄に權和名
不奈太那大船旁板也こあり
宇知底ハこり造るないふ也
海原を見渡して釣舟の浮ふ

敷多我美夜麻ハ大和にもあ
れここれハ越中ナリ

思夫多爾ハ越中にあるへし

さまを見んぞ待意也本居翁云今も世をかしましくうつ事あり其音に魚のよりくる也さといわれき猶考へし海元曆本に波に作れり

安麻射加流云々鄙治めに大王の任し給へるまに此越中へ下れるなま也未ハ末の誤るり

好去而ハ義を以てまさきくてさし訓へし

許之比乃伎波美ハ任に向ふさて立別れ來し日を限にさいふ意也

氣奈我枳物能乎ハ別れて後の日久しきをいふ

家禮婆ハ家ハ來の誤にてもあるへし
於余豆禮能云々卷三に既にヘリたはこハ戲言也
可毛の下婆ハ波の誤なり
奈弟ハ汝弟也

安太須酒吉の變元曆本に波に作れるそよき

安佐爾波爾云々敷美多比良氣受の不の音上の詞にもッカリて朝にも出立ならさす夕にもふみ平けすこ二句へッカリ

白雲爾云々ハ火葬の煙をいへり

佐保山云々十八字古本小字に書り今本行にせるハ誤也
次の歌の前に例によるに反
歌さ有へく思へさ此卷の例
にはなき所も多けれはもさ
のまにてもあるへし
白雲爾ハ白雲の如くにの意
にて火葬の煙をいふ

安里蘇ハ荒磯也卷五に海し
つものくまらませハ青丹よ
しくぬちこそノ見せまし
物をさいへるに似たり

右館之客屋居望蒼海仍主人八千嶋作此歌也

哀傷長逝之弟歌一首并短歌

アマザカルヒササメニトオホキミノマケノマニイデ
安麻射加流比奈乎佐米爾等大王能麻氣乃麻爾未爾出
而許之和禮乎於久流登青丹余之那良夜麻須疑底泉河
伎欲吉可波良爾馬駐和可禮之時爾好去而安禮可弊里
許牟平久伊波比底待登可多良比底許之比乃伎波美多
麻保許能道乎多騰保美山河能弊奈里底安禮婆孤悲之
ケクケナガキモノナミマクホリオモフアヒダニタマツサノツカヒ
家口氣奈我枳物能乎見麻久保里念間爾多麻豆左能使
乃家禮婆宇禮之美登安我麻知刀敷爾於餘豆禮能多婆
コトカモハシキヨシナセノミコトナニシカモトキシ
許登等可毛婆之伎余思奈弟乃美許等奈爾之加母時之

ハアラムチハダス、キホニツルアキノハキノハナニホヘルヤド
波安良牟平波太須酒吉穂出秋乃芽子花爾保弊流屋戸
ナ植於庭院之庭故謂之花花樹而多安佐爾波爾伊泥多知
ナラシユフニハニフミタヒラケズサホノウチノサトチユキスギ
奈良之暮庭爾敷美多比良氣受佐保能字知乃里乎往過
アシビキノヤマノユメニシツラクモニタチタナヒリトアレ
安之比紀乃山能許奴禮爾白雲爾多知多奈妣久等安禮
ニツケツル
爾都氣都流

佐保山火葬故謂之佐保乃字知乃佐刀平由吉須疑
麻佐吉久登伊比底之物能乎白雲爾選知多奈比久登伎
氣婆可奈思物

カ、ラムトカチテシリセバコシノウウミノア、ソノナ
可加良牟等可禰底思里世婆古之能字美乃安里蘇乃奈
美母見世麻之物能乎

越中守云々十字元曆本にな

庭爾敷流云々ハ左註に云る
如く池主京より木任に歸れ
るを歎ひて雪の千重に降し
く如く重々思ひて君を待つ
に也結句麻多奈久爾の奈
久ハ詞にてぬを延たるなく
可治登流さいふまでハた
間無さいん爲の序のみ也

拯ハ採の誤なり

飲樂元曆本に飲宴に作れり

右天平十八年秋九月二十五日越中守大伴宿禰家持遙聞弟喪感傷作之也

相觀歌二首 越中守大伴宿禰家持作

庭爾敷流雪波知敵之久思加乃未爾於母比底伎美乎安
我麻多奈久爾
白浪乃余須流伊蘇未乎榜船乃可治登流間奈久於母保
要之伎美

右以天平十八年八月拯大伴宿禰池主附大帳使赴
向京師而同年十一月還到本任仍設詩酒之宴彈絲
飲樂是日也白雪忽降積地尺餘此時也復漁夫之船

入海浮瀾爰守大伴宿禰家持寄情二眺聊裁所心

寄情二眺とハ雪と海と二つ
のけしきによせて思ふこと
をのへたり也
洗ハ元曆本に沈に作り任ハ
一本に庭よ作れるに従ふへ
比奈爾久太理伎ハ鄙より下り
來りて也

宇知奈妣吉云々ハなよハ
に臥せるさまをいふ
伊多家苦之ハいたつきとい
ふに同し
由久良由久良爾ハ物思ひに
心の動くをいふ
思多吳非爾ハ心に戀ふるを
安氣久禮婆明來れハ也
已呂母泥乎云々ハ袖を折返
し寝れハ夢に見るといふ諺
ありし也

忽洗枉疾殆臨泉路乃作詞以申悲緒一首并短歌
大王能麻氣能麻爾麻爾大夫之情布里於許之安思比奇
能山坂古延底安麻射加流比奈爾久太理伎伊伎太爾毛
伊麻太夜須米受年月毛伊久良母阿良奴爾宇都世美能
代人奈禮婆宇知奈妣吉等許爾許伊布之伊多家苦之日
異益多良知爾乃波波能美許等乃大船乃由久良由久良
爾思多吳非爾伊都可聞許武等麻多須良武情左夫之苦
波之吉與志都麻能美許登母安氣久禮婆門爾餘里多知
已呂母泥乎遠理加弊之都追由布佐禮婆登許宇知波良

伊母毛勢母云々女子も男子もいふ也

問使ハ字の如くま使の意也

乎之家國ハ情しけれとの略なり

安良志乎ハ益荒男といふに同じ

加受奈吉物能可ハ在經る月日の數のすくおきをいふ此下にもよの中ハ數おき物に慰むる事しあらんを卷二十に空蟬ハ數なき身なりともよめり

山河乃云々京より多くの山川を遠放りたる意也曾伎敵ハ既にいへり

比奴波多麻能黒髮之吉底伊都之加登奈氣可須良牟曾
伊母毛勢母和可伎兒等毛波乎知許知爾佐和吉奈久良
牟多麻保已能美知乎多騰保彌間使毛夜流余之母奈之
於母保之伎許登都底夜良受孤布流爾思情波母要奴多
麻伎波流伊乃知乎之家騰世牟須辨能多騰伎乎之良爾
加苦思底也安良志乎須良爾奈氣積布勢良武
世間波加受奈吉物能何春花乃知里能麻可比爾思奴倍
吉於母倍婆
ヤマカハソキヘサトホミハシキヨシイモチアヒミズカ
山河乃曾伎敵乎登保美波之吉余思伊母平安比見受可
クヤナケガム
久夜奈氣加牟

右天平十九年春二月二十日越中國守之館臥病悲

傷聊作此歌

守大伴宿禰家持贈拯大伴宿禰池主悲歌二首

忽沈枉疾累旬痛苦禱恃百神且得消損而由身體疼痛筋
力怯軟未堪展謝係戀彌深方今春朝春花流覆於春苑春
暮春鸞囀聲於春林對此節侯琴罽可翫矣雖有乘輿之感
不耐策杖之勞獨臥惟幄之裏聊作寸分之詞輕奉机下犯
解玉願其詞曰
ハルノハナイマハサカリニニホアラムチリテカガ
波流能波奈伊麻波左加里爾仁保布良牟乎里底加射佐
武多治可良毛我母

策杖ハ杖策とありしを誤れ
寸分之詞ハ思ふ事を聊述
ふる意あるへし
輕奉犯解ハなめけ也さかし
こめる意也
多知可良ハ手力也

拯ハ拯の誤あり
二首の下并序二字目錄にあ
るによりて補ふへし
枉ハ屈の誤あり
且得消損ハたたりさまに
なりたるをいふ
未堪展謝云々ハ謝すへき事
なともさておきつゝまのば
るゝ事の彌まさると也

二十年ハ十九年の誤ならん
 次ニ池主ヨリ家持卿へ答る
 歌并序云いふ標あるへき
 を脱せるあるへし
 倭詩ハ則歌をいへり兼垂
 ハ歌と序文をいへるなる
 能國戀緒ハ心の慰む也
 春可樂の春の下脱字あるへ
 淡交促席ハ淡交ハよき人
 の清らある心もて交る意也
 促席ハ促膝とあるに同じし
 得意忘言ハ心のおひて打解
 けたる也
 物色ハこゝにてハ花鳥の上
 をさざりそれをめてさされハ
 花鳥よあなつられんかこわ
 ふる意也
 以藤續錦ハ藤ハ藤布にて錦
 に藤布を續くを以ていこよ
 き文に拙き詞をなして答へせ
 んハ似けふきわさなりとい
 ふたこへなせり
 有此の有ハ在の誤なるへし
 夜麻可比ハ山峽也可元曆本
 に我に作れり

ウケヒスノナキチラスラムハルノハナイツシカキミトダナ
 宇具比須乃奈枳知良須良武春花伊都思香伎美登多乎
 リカザム
 里加射左牟
 天平二十年二月二十九日大伴宿禰家持
 忽辱芳音翰苑凌雲兼垂倭詩詞林舒錦以吟以詠能獨戀
 緒春可樂暮春風景最可憐紅桃灼灼戲蝶回花儂翠柳依
 依嬌鸞隱葉歌可樂哉淡交促席得意忘言樂矣美矣幽襟
 足賞哉豈慮乎蘭蕙隔叢琴縹無用空過令節物色輕人乎
 所怨有此不能默止俗語云以藤續錦聊擬談笑耳
 ヤマガヒニサケルサクラナタバヒトメキミニミセテ
 夜麻可比爾佐家流佐久良乎多太比等米伎美爾彌西底
 バナナカカオモハム
 婆奈爾乎可於波牟

宇多賀多ハはかなき意にて
 用ひたり上にもいへり

油ハ沾の誤搦ハ又捺の誤也
 更贈の上大伴宿禰家持とあ
 るへき也池主へ贈れる歌也
 舍弘之徳ハ大徳といふ蓮
 体ハ蓮身といへるに同じし
 不賞の賞ハ昔の誤にて置ら
 ざるの意也
 觀荷米春ハ觀荷來春の誤な
 らん也本居翁いれき來春
 といハ池主ハ歌文を贈れるな
 らん也
 遊藝ハ物學ふ事也横翰之
 ハ漢の揚雄が言にてさかし
 らに文ハく小人の藝也さ
 云意也山柿ハ人麻呂赤人を
 觀林ハ觀林の誤ならんか
 觀ハ觀の誤なり

ウケヒスノナキチラスラムハルノハナイツシカキミトダナ
 宇具比須能伎奈久夜麻夫伎宇多賀多母伎美我手敷禮
 ズハナナチラメヤモ
 受波奈知良米夜母
 沾洗二日拯大伴宿禰池主
 更贈歌一首并短歌
 舍弘之徳垂恩蓬體不賞之恩報慰陋心載荷未春無堪所
 喻也但以稚時不涉遊藝之庭橫翰之藻自乏乎彫蟲焉幼
 年未逞山柿之門裁歌之趣詞失乎叢林矣爰辱以藤續錦
 之言更題將石同瓊之詠因是俗愚懷癖不能默止仍捧數
 行式酬嗤咲其詞曰
 オホキミノマケノマニマニシナザカルコシチササメ
 於保吉民能麻氣乃麻爾麻爾之奈射加流故之乎遠佐米

麻須良和禮ハ丈夫我也

宇知奈妣伎云々四句上の長歌にも見ゆ

伊良奈家久契沖云いらふくの意ふらん賀茂翁ハ燃るるなふふならん胸のいれらるる夜須家の下久の字脱たる又ハ可良二字を家一字に誤たるにてもあるへし夜麻伎蘇奈里ハ山を來り隔りて也

春花乃云々以下十八句ハ病に臥して春の面白き時の盛を徒に過せるを歎けり

之氣美登妣久久ハ繁き中を飛ひくゝる也

夜里都禮ハ過じやりつれハのハを略けり

卒流波之美ハ元曆本に宇流波之美とあるに從ふへし之實良附ハ上にもまみらさありてさなから略語也すから同しハ孤の誤り

登母之毛ハうらやましき意也我病て驚なきければ聞入を喚める也

伊尼の尼ハ元曆本に泥とあるに從ふへし許呂度ハ利心といふに同し家の下持の字を脱せり

ニイテハコシマスヲソレヌヲヨノナカノツ子シナケ

爾伊泥底許之麻須良和禮須良余能奈可乃都彌之奈家

禮婆宇知奈妣伎登許爾已伊布之伊多家苦乃日異麻世

婆可奈之家口許已爾思出伊良奈家久曾許爾念出奈氣

久蘇良夜須家奈久爾於母布蘇良久流之伎母能乎安之

比紀能夜麻伎弊奈里底多麻保許乃美知能等保家波間

使毛遺縁毛奈美於母保之吉許等毛可欲波受多麻伎波

流伊能知之家家登勢牟須辨能多騰吉乎之良爾隱居而

念奈氣加比奈具佐牟流許已呂波奈之爾春花乃佐家流

左加里爾於毛敷度知多乎里加射佐受波流乃野能之氣

美登妣久久駕音太爾伎加受乎登賣良我春榮都麻須等

久禮奈爲能赤裳乃須蘇能波流佐米爾爾保比比豆知底

加欲敷浪牟時盛乎伊多豆良爾須具之夜里都禮思努波

勢流君之心乎牟流波之美此夜須我浪爾伊母爾受爾今

日毛之賣良爾抓悲都追曾乎流

安之比奇能夜麻左久良婆奈比等目太爾伎美等之見底

婆阿禮古非米夜母

夜麻扶积能之氣美登妣久久駕能許惠乎聞良牟伎美波

等母之毛

伊尼多多武知加良乎奈美等許母里爲底伎彌爾故布流

爾許已呂度母奈思

繁奈里底安禮許曾といふよ
て句とすへし隔りてあれは
こそたのめれといふを籠め
たり
餘思播安良武曾ハ相見ると
しハあらんそ也

能里多知ハ舟に乗る也

奈須良牟ハ賤らんの意也
安比底早見牟ハ由伎底さあ
りつらんを次の反歌の安比
二字並ひたれハ紛れてく
ふれるなるへし

夜麻受家里ハやまさりけり
の意也

月日餘美都追ハ月日を數へ
ついで也

都奇多都麻泥爾ハ三月の中
に四月の節に入たるをいふ
故に立夏とことわり今つ
いたちといへハ朔日に限れ
とも古ハまにあらず
等毛之美思ハ乏しさにふり
契冲云越申ふれハ柑類少な
き也といはれき

マシチタマホコノミチハシトホクセキサヘニヘナリテア
萬思乎多麻保已乃路波之騰保久關左閉爾弊奈里底安
レコソヨシエヤシヨシハアラムゾホトギスキナカムツキ
禮許曾與思惠夜之餘志播安良武曾霍公鳥來鳴牟都奇
ニイツシカモハヤクナリナムウノハナノニホヘルヤマナ
爾伊都之加母波夜久奈里那牟宇乃花乃爾保弊流山乎
ヨソノミモフリサケミツ、アフミサニイユキノリダチ
余曾能未母布里佐氣見都追淡海路爾伊由伎能里多知
アチニヨシナラノワギヘニヌエドリノウラナケシツ、シタコヒ
青丹吉奈良乃吾家爾奴要鳥能宇良奈氣之都追思多懸
ニオモヒウラアレカドニタチユフケトヒツ、アチマ
爾於毛比宇良夫禮可度爾多知由布氣刀比都追吾乎麻
ツトナスラムイモチアヒテハヤミム
都等奈須良牟妹乎安比底早見牟
アラタマノトシカヘルマテアロミチバココロモシヌ
安良多麻乃登之可弊流麻泥安比見爾婆許已呂母之努
ニオモホユルカモ
爾於母保由流香聞
ヌバタマノイメニハモトナアヒミレドタダニアラチ
奴婆多麻乃伊米爾波母等奈安比見禮騰多太爾安良爾

バコヒヤマズケリ
婆孤悲夜麻受家里
アシビキノヤマキヘナリテトホケドモコ、ロシユケ
安之比奇能夜麻伎弊奈里底等保家騰母許已呂之遊氣
バイメニミエケリ
婆伊米爾美要家里
ハルバナウツツロフマテニアヒミチバツキヒヨミツ、イモマ
春花奈宇都路布麻泥爾相見爾婆月日餘美都追伊母麻
ツラムソ
都良牟曾

右三月二十日夜裏忽今起戀惜作大伴宿禰家持
立夏四月既經累日而由未聞霍公鳥噴因作恨歌二首
アシビキノヤマモチカキチホトギスツキタツマテ
安思比奇能夜麻毛知可吉乎保登等藝須都奇多都麻泥
ニナニカキナカヌ
麻奈仁加吉奈可奴
タマニヌクハナタナバナチトモシコノラガサト
多麻爾奴久波奈多多知奈平等毛之美思已能和我佐刀

三月二十九日の六字古本に
小字に書けるに從ふへし
賦さけるは長歌の事なり
一首の下并短歌あるへし
此山者云々八字古本に小字
に作れるに從ふへし有は在
の誤なるへし

曾許婆ハそこばくを略きい
へる也
須加米能云々賀茂翁ハ此
山神代に神の愛で給ひし故
事なりありしか須蘇米ハ進
にて愛る意ならん云々ハ進
されと穩ならすそハハハ
廻の意にて二上山の麓ハ山
谷といふならんすめ神ハ山
ハ則神といへるならん進谷
ハ二上山の近き地名ならん
ハ略解といへり
阿佐奈藝爾云々四句ハいハ
ましにといはん爲の句中の

ニキナカズアルラシ
爾伎奈可受安流良之

霍公鳥者立夏之日來鳴必定又越中風土希有橙橘也

因此大伴宿禰家持感發於懷聊裁此歌三月二十九日

二上山賦一首 此山者有射水郡也

伊美受河泊伊由伎米具禮流多麻久之氣布多我美山者

波流婆奈能佐氣流左加利爾安吉能葉乃爾保弊流等伎

爾出立底布里佐氣見禮婆可加加良夜曾許婆多敷刀伎

夜麻可良夜見我保之加良武須賣加美能須蘇未能夜麻

能之武多爾能佐吉乃安里蘇爾阿佐奈藝爾餘須流之良

奈美由敷奈藝爾美知久流之保能伊夜麻之爾多由流許

序也

伊爾之弊於毛保由ハ此山
につきて語り傳へし故事あ
りしか又時に感してかくも
いへるにや

登奈久伊爾之弊由伊麻乃乎都豆爾可久之許曾見流比

登其等爾加氣底之努波米

之夫多爾能佐伎能安里蘇爾與須流奈美伊夜思久思久

爾伊爾之弊於毛保由

多麻久之氣敷多我美也麻爾鳴鳥能許惠乃孤悲思吉登

岐波伎爾家里

右三月三十日依與作之大伴宿禰家持

四月十六日夜裏遙聞霍公鳥喧述懷歌一首

奴婆多麻能都奇爾牟加比底保登等藝須奈久於登波流

氣之佐刀騰保美可聞

都奇爾牟加比底云々月の出
る方に向ひてなく聲の遠に
きこゆるハ吾居る里より遠
くしてかき也

右の下元曆本に一首の二字あり

我加勢故波云々是の家持卿の答歌也加和の誤にて和

四月二十日の五字古本に小字に作れるに従ふへし

此海者の下有ハ在の誤也

右大伴宿禰家持作之

大目秦忌寸八千鳥之館餞守大伴宿禰家持宴歌二首
奈吳能字美能意吉都之良奈美志苦思苦爾於毛保要武
可母多知和可禮奈波

我加勢故波多麻爾母我毛奈手爾麻伎底見都追由可牟
乎於吉底伊加婆乎思

右守大伴宿禰家持以正稅帳須入京師仍作此詩聊

陳相別之歎 四月二十日

遊覽布勢水海賦一首并短歌 此海者有射水郡葦江村也

物能乃敷能夜蘇等母乃乎能於毛布度知許己呂也良武

宇知久ハ馬をうち並て來る
の境に市振さいふ所あり
過なりそ是なるへし
茂翁ハいれき本居翁ハ
つりな地名としてハ白浪
らうけたるいふハ打來
彼此撮てをちこりふり
白浪さてる契沖かい下の
もさほりへかかれりこ
れき猶考へし
宇奈比河ハ越中射水郡宇納
郷あり
宇加波多知ハ鶴飼人をた
しめて其樂をする也
曾許母安加爾等ハそれ飽
かすに也
布勢能字彌ハ地名なり
見乃佐夜氣吉加ハ見るか
き哉この意也
由伎波和可禮受ハかた
に別る事なく也
異麻母見流其等ハた今
如くも也見るの胸ハ輕く
得へし
布勢能字美能云々沖浪の常
によせ歸るなもてやめて序
させり

等字麻奈米底字知久知夫利乃之良奈美能安里蘇爾與
須流之夫多爾能佐吉多母登保理麻都太要能奈我波麻
須義底字奈比河波伎欲吉勢其等爾宇加波多知可由吉
加久遊岐見都禮騰母曾許母安加爾等布勢能宇彌爾布
禰宇氣須惠底於伎弊許蕤邊爾已伎見禮婆奈藝左爾波
安遲牟良佐和伎之麻末爾波許奴禮波奈左吉許已婆久
毛見乃佐夜氣吉加多麻久之氣布多我彌夜麻爾波布都
多能由伎波和可禮受安里我欲比伊夜登之能波爾於母
布度知可久思安蘇婆牟異麻母見流其等
布勢能字美能意枳都之良奈美安利我欲比伊夜登偲能

四月廿四日の五字古本に小字に作れるに従ふへし

一絶ハ長歌を賦さけるより短歌を絶さいへる也

字知奈比久ハ心のなひきまなふないふ

宇麻字知半禮底ハ馬並て群れついでく也

多豆佐波理ハ手携て也

須登利ハ洲に在る鳥ないふ

等母之伎爾ハめつらしき故にの意也

波爾見都追思努播牟

右守大伴宿禰家持作之 四月廿四日

敬和遊覽布勢水海賦一首并一絶

フザナミハサキテチリニキウノハナハイマソサカリ
布治奈美波佐岐底知里爾伎字能波奈波伊麻曾佐可理
トアシビキノヤマニモノニモホトギスナキシトヨ
等安之比奇能夜麻爾毛野爾毛保登等藝須奈伎之等與
メバウチナビクココロモシヌニソコチシモウラゴヒ
米婆字知奈妣久許已呂毛之努爾曾已乎之母字良胡非
シミトオモフドチウマウチムレテダツサハリイデタ
之美等於毛布度知宇麻字知半禮底多豆佐波理伊泥多
チミレバイミヅガハミナトノスドリアサナギニカタ
知美禮婆伊美豆河泊美奈刀能須登利安佐奈藝爾可多
ニアサリシシホミテバツマヨビカハストモシキニミ
爾安佐里之思保美底婆都麻欲比可波須等母之伎爾美
ツハスギユキシナタニノアリソノサキニオキツナミ
都追須疑由伎之夫多爾能安里蘇能佐伎爾於枳追奈美

余勢久流多麻母云々ハ古何にて其あるにまかせてつらとせる也
宇良具波之ハ心に愛る意也
麻加治加伊奴吉ハ古ハ今いへるハ今の稱也ハ今
蘇泥布理可邊之ハカチリ
阿等毛比底ハ率めて也

麻爾麻等元曆本一等を附に作れり何れにもあるへし
美母安吉良米々ハ見晴かし
多由流比安良米也ハ春秋に絶のすこしハ人の意也
余能安比太母ハ我世久しき間ないふ

余勢久流多麻母可多與理爾可都良爾都久理伊毛我多
メテニマキモチテウラハシフセノミツウニニアマ
米底爾麻吉母知底宇良具波之布勢能美豆宇彌爾阿麻
フ子ニマカチカイヌキシロタヘノソデフリカヘシア
夫爾爾麻可治加伊奴吉之路多倍能蘇泥布理可邊之阿
トモヒテワガコギユケバチフノサキハナチリマガヒ
登毛比底和賀已藝由氣婆乎布能佐伎波奈知利麻我比
ナギサニハアシガモサワギサレナミタチテモ非テ
奈伎佐爾波阿之賀毛佐和伎佐射禮奈美多知底毛爲底
モコギメグリミレドモアカズアキサラバモミガノト
母已藝米具利美禮登母安可受安伎佐良婆毛美知能等
キニハルサラハナノサカリニカモカクモキミガマ
伎爾波流佐良婆波奈能佐可利爾可毛加久母伎美我麻
ニマトカクシソソミモアキラメハタユルヒアラメヤ
爾麻等可久之許曾美母安吉良米々多由流比安良米也
シラナミノヨセクルタマヨノアヒダモツギテミニ
之良奈美能與世久流多麻毛余能安比太母都藝底民仁
許武吉欲伎波麻備乎

極ハ捺の誤なり
四月云々七字古本に小字
作れるに從ふへし
極ハ捺の誤錢ハ錢の誤あり
井以下五字古本にふし

佐等麻爾美の等の字元曆本
にあきをよしとすまらみ
ハハハ發語にて數多の意也

久爾弊麻之奈婆ハ稅帳使に
てもさつ國の奈長へいにま
しあはさ也

安禮奈之等云々ハ我ふしこ
て作る事ふかれ心慰に橋を
玉にわけさ也

和我夜度能云々は古歌な
から右の歌に叶ひたれハ此
時誦したるならん波奈其米
ハ花共の意也

安久麻底爾云々ハ別て後戀
ふる日多からんに今飽まで
相見てやかんさ也

右拯大伴宿禰池主作 四月廿六日追和

四月二十六日拯大伴宿禰池主之館錢稅帳使守大伴
宿禰家持宴誦并古歌四首

多麻保許乃美知爾伊泥多知和可禮奈婆見奴日佐等麻
禰美孤悲思家武可母

一云不見日久彌戀之家牟加母

右一首大伴宿禰家持作之

和我勢古我久爾弊麻之奈婆保等登藝須奈可牟佐都奇
波佐夫之家牟可母

右一首介内藏忌寸繩磨作之

安禮奈之等奈和備和我勢故保登等藝須奈可牟佐都奇
波多麻平奴香佐禰

右一首守大伴宿禰家持和

石川朝臣水通橋歌一首

和我夜度能花橋平波奈其米爾多麻爾曾安我奴久麻多
婆苦流之美

右一首傳誦主人大伴宿禰池主云爾

守大伴宿禰家持館飲宴歌一首 四月二

美夜故弊爾多都日知可豆久安久麻底爾安比見而由可
奈故布流比於保家牟

阿理吉仁家禮婆ハ在來にけ
れハ也

布可美等ハ谷を深みとての
意あり

吉欲伎可敷知ハかたかひ川
の廻れる所なれハいふ

久毛爲奈須ハたゞ雪の如く
の意なりさて心もまぬに思
ひすくさすハ此山川の常
に見あかの意なり

氣受底和多流波ハ消えすし
て年月を經わたるを云かく
さしふへに雪の消はすあ
るハ神のまゝこそ間傳ふる
さいふ意也

伊麻見流比母等云々河水の
絶えぬ如く今かく來て見る
人々も常に通ひ來りて又も
見んと也

搦ハ撮の誤あり

毛等母延毛ハ幹も枝も也さ
てつ々の木のいわけつき
といふふれハ其意を合みて
大伴氏の代々をいふより家
持卿を幹とし池主を枝とし
てよめるならん
得伎波爾ハ櫻の木の常葉よ
りつりて常盤をいひて池
主を思ふ事さいハリ
安比底許登騰比ハ達て物言
ふないふ

安由能加是ハ此下の歌の註
に越俗語東風謂之阿由乃可
是とあり

能可牟佐備多末伎波流伊久代經爾家牟多知底爲底見
禮登毛安夜之彌彌太可美多爾平布可美等於知多藝都
吉欲伎可敷知爾安佐左良受綺利多知和多利由布佐禮
婆久毛爲多奈毗吉久毛爲奈須已許呂毛之努爾多都奇
理能於毛比須具佐受由久美豆乃於等母佐夜氣久與呂
豆余爾伊比都藝由可牟加波之多要受波
多知夜麻爾布理於家流由伎能等許奈都爾氣受底和多
流波可無奈我良等會
於知多藝都可多加比我波能多延奴期等伊麻見流比等
母夜麻受可欲波牟

右搦大伴宿禰池主和之 四月二十八日

入京漸近悲情難撥述懷一首并一絶

可伎加蘇布敷多我美夜麻爾可牟佐備底多底流都我能
奇毛等母延毛於夜自得伎波爾波之伎與之和我世乃伎
美平安佐左良受安比底許登騰比由布佐禮婆手多豆佐
波利底伊美豆河波吉欲伎可布知爾伊泥多知底和我多
知彌禮婆安由能加是伊多久之布氣婆美奈刀爾波之良
奈美多可彌都麻欲夫等須騰理波佐和久安之可流等安
麻乃平夫彌波伊里延許具加遲能於等多可之會已平之
毛安夜爾登母志美之怒比都追安蘇夫佐香理平須賣呂

乎須久爾奈禮婆ハ次の歌に
 をす國のこさりもちてさ
 いふに同じく官事をうけた
 まはりてさいふ意也
 於久禮多流云々ハ君か後れ
 てある悲しみのあれさもさ
 いふ意也
 古要弊奈利奈婆ハ越え隔り
 あらさ也
 氣乃奈我氣牟會ハ日久しく
 ねほ人さいふ也
 許惠爾安倍奴久ハあへハ合
 せの約言にて邪公のふく比
 桶も實ふれハ聲さ玉さ合せ
 賢くさ也
 於依底ハ池主丸殘し置ての
 意也

孫ハまた孫の誤なり

引元曆本に號に作れり

伎能乎須久爾奈禮婆美許登母知多知和可禮奈婆於久
 禮多流吉民波安禮騰母多麻保許乃美知由久和禮播之
 良久毛能多奈妣久夜麻乎伊波禰布美古要弊奈利奈婆
 孤悲之家久氣乃奈我氣牟會則許母倍婆許已呂志伊多
 思保等登藝須許惠爾安倍奴久多麻爾母我手爾麻吉毛
 知底安佐欲比爾見相追由可牟乎於伎底伊加婆乎思
 和我勢故波多麻爾母我毛奈保等登伎須許惠爾安倍奴
 伎手爾麻伎底由加牟

右大伴宿禰家持贈孫大伴宿禰池主 卅四月

忽見入京述懷之作生別悲兮斷腸萬回怨緒難禁聊奉

於毛比夜流ハ思ひを遣り失ふ意あり

乎須久爾能云々ハ前の歌にかこさしちさいへるに同じ

和可久佐能云々ハ草もて足
 結ささ作れハやくいへる也
 今しちひはやくいへる所
 もありさそいひハ基にて
 麻の類也さ畧解にいへり
 多豆久利ハ手して作れハい
 ぶよし賀茂翁いハれき

宇能波奈夜麻ハ地名にあら

刀奈美夜麻ハ越中彌波那の山なり

所心一首并二絶

安遠爾與之奈良乎伎波奈禮阿麻射可流比奈爾波安禮
 登和賀勢故乎見都追志乎禮婆於毛比夜流許等母安利
 之乎於保伎美乃美許等可之古美乎須久爾能許等登里
 毛知底和可久佐能安由比多豆久利無良等理能安佐太
 知伊奈婆於久禮多流阿禮也可奈之伎多妣爾由久伎美
 可母孤悲無於毛布蘇良夜須久安良禰婆氣奈可久平等
 騰米毛可禰底見和多勢婆字能波奈夜麻乃保等登藝須
 禰能未之奈可由安佐疑理能美太流流許已呂許登爾伊
 泥底伊波婆由遊思美刀奈美夜麻多牟氣能可味爾奴佐

多牟氣能可味ハ道神也
并比能麻久ハ請ひのむ也
多太可ハ既にいへり
安里多母等保利ハ在々て年
月廻り來らハいふ意也
等伎毛可波佐受ハ時易ら
すの意也
阿比見之米等會ハ上の音
ひのまくさいふへ打返して
見るへし
麻比ハ帶也まひなひせん
の意也既に上よしいへり
奈都可之美ハ馴着さいふ意
にて親しむさいふ同し
宇真故非之ハ裏戀しき君さ
つゝくにてきを略きいへり

五月二日四字また古本に小
字に作れるそよき

美可度曾のそもし名爾於弊

流にて結へるかまかれさし
穩ならず誤字あらんか猶考
ふへし

矢形尾ハ矢ハ屋の借字にて
屋の棟の如くいろはかなの
への字の形せる斑文あるを
いふならん賀茂翁云れき
之良奴里能鈴ハ銀沙焼付た
るなるへし
伊保都登里知登理ハ共に敷
多きをいふ
於敷其等爾云々ハ道ふ毎に
かならず揃るをいふ
乎知毛可夜須伎ハなりハ何
にまれ初へ返る事にいふ古
語かやすきのハ發語にて
た易き也
左奈良弊流のさハ發語にて

麻都里安我許比能麻久波之家夜之吉美賀多太可乎麻
佐吉久毛安里多母等保利都奇多々婆等伎毛可波佐受
奈泥之故我波奈乃佐可里爾阿比見之米等會
多麻保許能美知能可未多知麻比波勢牟安賀於毛布伎
美乎奈都可之美勢余
宇良故非之我賀勢能伎美波奈泥之故我波奈爾毛我母
奈安佐奈佐奈見牟

右大伴宿禰池主報贈和歌 五月二日

思放逸鷹夢見感悅作歌一首并短歌

大王乃等保能美可度曾美雪落越登名爾於弊流安麻射

可流比奈爾之安禮婆山高美河登保之呂思野乎比呂美
久佐許曾之既吉安由波之流奈都能左加利等之麻都等
里鶉養我登母波由久加波乃伎欲吉瀬其登爾可賀里左
之奈豆左比乃保流露霜乃安伎爾伊多禮波野母佐波爾
等里須太家里等麻須良乎能登母伊射奈比底多加波之
母安麻多安禮等母矢形尾乃安我大黑爾大黒者若之良
奴里能鈴登里都氣底朝獵爾伊保都登里多底暮獵爾知
登理布美多底於敷其等爾由流須許等奈久手放毛乎知
母可夜須伎許禮乎於伎底麻多波安里我多之左奈良弊
流多可波奈家牟等情爾波於毛比保許里底惠麻比都追

雙ふへき鷹ハなし也
和多流ハ月日を経渡るを云
多夫禮多流云々狂せる醜
翁也左註にいへる山田史
君麻呂をさしていへり
名乃未乎能里底ハ此句の下
狩に出たるよしを畧きた
るあり
三島野ハ地名也

之波夫禮都具禮ハ老人のま
はふきふから告るさま也さ
て告れハさいふへきを略り
呼久ハ招きよふ事をいへり
火佐倍毛要都追ハ思ひやく
るをいふ

乎底母許乃毛ハ彼面此面也
等奈美波里ハ島網を張り設
けて守部をつけおきて也
之都爾等里蘇倍ハ鏡を倭文
ぬきに取副て也
乎登賣良我云々夢にいづく
見しなく處女の來り告くこ

保道多加ハ秀つ鷹にてつハ
助詳也
麻都太要比美乃江多古能之
麻都江こしに地名なり
都奈之等流ハ劍をさるひが
の江こあり和名抄に劍古乃
之呂こあり此のしるを遠
州の人ハつなし云りこそ
このしるの一名ふるへし
等比多毛登保利ハ飛廻る也
知加久安其波云々卷十三に
近くあらハ今七日はかりあ
らんこそさいへるに同し開
なれハ此太未ハはかりさい
ふ開こさい北國の人ハは
かりさいふをだみさいふよ
し或人ハいへり春海云未ハ
實の誤ふるへしこ元曆本に
ハ未を米は作れり猶考へし
伊麻爾ハ麻ハ米の誤なるへ
し歩に告つる也元曆本に
ハ麻を渡に作れり猶誤なり
可良奴日麻爾久云々ハ鷹の
蹄リ來ハ間獵せぬ日の多く
月を經たる也

ワタルアヒダニタブレタルシコツオキナノコトゲニ
和多流安比太爾多夫禮多流之許都於吉奈乃許等太爾
母吾爾波都氣受等乃具母利安米能布流日乎等我理須
等名乃未乎能里底三島野乎曾我比爾見都追二上山登
妣古要底久母我久理可氣理伊爾伎等可弊理伎底之波
夫禮都具禮呼久餘思乃曾許爾奈家禮婆伊敷須弊能多
騰伎乎之良爾心爾波火佐倍毛要都追於母比孤悲伊伎
豆吉安麻利氣太之久毛安布許等安里也等安之比奇能
乎底母許乃毛爾等奈美波里母利弊乎須惠底知波夜夫
ルカミノヤシロニテルカハミシジニトリソヘコヒノミテアガマツ
流神社爾底流鏡之都爾等里蘇倍已比能美底安我麻都
等吉爾乎登賣良我伊米爾都具良久奈我古敷流曾能保

ツカカハマツダエノハマユキクヲシツナシトルヒミ
追多加波麻都太要乃波麻由伎具良之都奈之等流比美
ノエスギテタコノシマトビタモトホリアシガモノスダ
乃江過底多古能之麻等比多毛登保里安之我母能須太
クフルエニナトツヒモキノフモアリツチカクアラバイ
久舊江爾乎等都日毛伎能敷母安里追知加久安良波伊
麻布都可太未等保久安良婆奈奴可乃宇知波須疑米也
母伎奈牟和我勢故爾毛許呂爾奈孤悲曾余等曾伊麻爾
ツゲツル
都氣都流
ヤカタチノタカチテニスエミシマノニカラマヒマチク
矢形尾能多加乎手爾須惠美之麻野爾可良奴日麻爾久
ツギゾヘニケル
都奇曾倍爾家流
フタガミノチテモコノモニアサシテアガマツタカチイ
二上能乎底母許能母爾安美佐之底安我麻都多可乎伊
メニツゲツモ
米爾都氣追母

奈具流ハ和むにてなくさむ
意也すへて都ハ愁ふく鄙
物悲しき事多きよしにて
くいへるなるへし

和須禮底於毛倍也
忘れすこの意也思へん
添たる詞のみ例多し

葦附ハ葦敷をいふなるへし
されハ足突の借字にて
いふ有てさすものなれ
れこふさ賀茂翁いばれ
川にありて水松に似たる
のないふなるへし
邊の字衍文なるへし

宇加波多知ハ其業をするを
いふふり

由吉之波良之毛ハま
々の意にあらす本居翁
の消のハ助辞にてくら
いふハ珍しけれも紀に
なうハ助又乾をふも
れハ消も古言にハくさい
るハ消も古言にハくさい
雪消ハ水増りて乗馬の
つくさ也

アマザカルヒナトモシルクコイダクモシゲキコロカ
安麻射可流比奈等毛之流久許已太久母之氣伎孤悲可
モナケルヒモナク
毛奈具流日毛奈久
コシノウミノシナヌ
故之之宇美能信濃也名乃波麻平由伎久良之奈我伎波
ルビモワスレテオモヘヤ
流比毛和須禮底於毛倍也

右四首天平二十年春正月二十九日大伴宿禰家持

礪波郡雄神河邊作歌一首

チガミガハケレナホフチトメラシアシツキ
乎加未河泊久禮奈為爾保布平等賣良之葦附之水類等流
トセニタノスラシ
登滯爾多多須良之

婦負郡渡鷓鴣坂河邊時作歌一首

ウサカガハワタルセオホミコノアガマノアガキノミ
宇佐可河泊和多流瀬於保美許乃安我馬乃安我枳乃美

ヅニキメレニケリ
豆爾伎奴奴禮爾家里

見潜鷓鴣人作歌一首

メヒガハノハヤキセゴトニカバリサシヤソトモノチ
賣比河波能波夜伎瀬其等爾可我里佐之夜蘇登毛乃乎
ハウカハタチケリ
波宇加波多知家里

新河郡渡延槻河時作歌一首

タチヤマノユキシクラシモハヒツキノカハノラタリ
多知夜麻乃由吉之久良之毛波比都奇能可波能和多理
セアブミツカスモ
瀬安夫美都加須毛

赴參氣比大神宮行海邊之時作歌一首

シナゲカラタコエクレバハクヒノウミアサナギシタ
之乎路可良多太古要久禮婆波久比能海安佐奈藝思多
リフ子カゲモガモ
理船梶母我毛

能登郡の上拾遺本に過の字
あるはいかいさて能登郡に
加島郷熊來郷あり
伊布の伊布の誤なり
神備の神さひを畧きいへる
此歌ハ旋頭歌あり

風至郡ハ和名抄に能登國風
至不布志とあり風ハ風の誤
あり
美奈字良波倍底奈ハみふう
らハ水の占也神武紀に嚴
を以て丹生川ヲ洗めて占ひ
まし事あり其類の占古あ
りしなるへし
珠洲郡和名抄に珠洲須々々
あり大沼郡さいふハ能登越
中になし元暦本に治布に作
れさる地名もさし契沖に云
誤れるなるへしと云れき

作見ハ仰見の誤なるへし

可多麻底波ハ片待にの意也
片心ヲ待つたふ

敷刀能里等ハ神代紀に
大詳此云布斗能理斗さあ
り神祇令に中臣宣祝詞さあ
る義解に謂宣者布也祝者贊
辞也云々式凡祭祀祝詞者贊

能登郡從香島津發船行於射熊來村往時作歌二首
トアサタテフナギハルトイフノトノシマヤマケフミレバコダ
登夫佐多底船木伎流等伊有能登乃島山今日見者許太
ナシゲシモイクヨカミヒソ
知之氣思物伊久代神備曾
カシマヨリクマキチサシテコケフ子ノカゲトルマナク
香島欲里久麻吉乎左之底許具布禰能可治等流間奈久
ミヤコシオホホユ
京師之於母保由

風至郡渡饒石河之時作歌一首

イモニアハズヒサシクナリヌニヤシガハキヨキセゴ
伊毛爾安波受比左思久奈里奴爾藝之河波伎欲吉瀬其
トニミナウラハヘテナ
登爾美奈宇良波倍底奈

從珠洲郡發船還大沼郡之時泊長濱灣作見月光作歌
一首

スハノウミニアサヒラキシテコギクレンバナガハマノ
珠洲能宇美爾安佐比良伎之底許藝久禮婆奈我波麻能
ウラニツキテリニケリ
宇良爾都奇底理爾家里

右件詞者依春出舉巡行諸郡當時所屬目作之大
伴宿禰家持

怨鷲晚暝歌一首

ウグヒスハイマハナカムトカタマテバカスミタナビ
宇具比須波伊麻波奈可牟等可多麻底波可須美多奈妣
キツキハヘニツ
吉都奇波倍爾都追

造酒歌一首

ナカトミノフトノリトゴトイヒハラヘアガフイノチ
奈加等美乃敷刀能里等其等伊比波良倍安賀布伊能知
モタガタメニナレ
毛多我多米爾奈禮

御殿御門等祭齊部祝詞以外
諸祭中臣氏祝詞とあり
安賀布伊能知毛ハ酒を贈物
に於て酒を祈る也結句ハカ
く酒を祈るも誰か爲そ汝
爲にこそあれさいふにてさ
す人ありてよめり見ゆ奈
酒ハ汝もさて古ハ神に奉る
ハ祭ひて盃に醸て其趣
から奉れり見ゆ

右大伴宿禰家持作之

萬葉集卷第十七

萬葉集卷第十八

橘卿云々本文に橘家之使者
造司今史田邊云々あり

天平二十年春三月二十三日左大臣橘卿使田邊史福
鷹饗越中守大伴家持館時新作并誦古詠各述心緒歌

四首

于時期之明日二十四日將遊覽布勢水海仍述懷各作

歌八首

二十五日大伴宿禰家持往布勢水海道中馬上口號二

首

同日至水海遊覽時各述懷作歌六首

二十六日掾久米朝臣廣繩館宴饗田邊史福鷹歌四首

御船云々この目錄の書さ
 ままきらはし契沖のいれ
 たる如く太上天皇御在難
 波宮時歌七首のみにて足
 れりすへて此福麻呂の傳誦
 したる也此二首に限れるに
 あらず本文をわわせ見してし
 るへし

太上皇御在於難波宮時歌七首
 左大臣橘宿禰歌一首
 和左大臣歌御製一首
 於左大臣橘卿宅御船沂江遊宴時御製一首
 河内女王奏歌一首
 粟田女王奏歌一首
 御船以綱手沂江遊宴時史福應傳誦歌二首
 後追和橘大伴家持歌二首
 山上臣射水郡驛館之屋柱題著歌一首
 四月一日掾久米朝臣廣繩館宴歌四首

從館ハ從僧の誤かり

先國師從館欲入京設飲饌饗宴時主人大伴家持詠庭
 中牛麥花歌一首
 大伴家持重作歌二首
 三月十五日越前國掾大伴池主來贈歌三首
 十六日越中守大伴家持報贈歌四首
 姑大伴氏坂上郎女來贈越中守大伴家持哥二首
 大伴家持報歌二首
 又別所心歌一首
 天平感寶元年五月五日饗東大寺占墾地使僧平榮時
 守大伴家持送酒歌一首

同九日諸僚會少目秦伊美吉石竹館飲宴時造百合花
綬捧贈賓客各賦此綬歌三首

十日大伴家持獨居幄裏遙聞霍公鳥喧作歌一首并短
歌

作の上守大伴家持の五字を
脱せり

行英遠浦之日作歌一首

天平感寶元年五月十二日守大伴家持於越中國館賀

陸奥出金詔書歌一首并短歌

幸行芳野離宮時儲作歌一首并短歌

十四日大伴家持爲贈京家願真珠歌一首并短歌

十五日大伴家持教諭史生尾張少昨歌一首并短歌

行幸の上本文に爲の字あり
此に略けるハ誤なり

十七日云々此目錄誤れり史
生尾張少昨前妻不待夫君使
自來大伴家持作歌一首とあ
るへし
廿三日の上本文に閏五月と
あり

十七日大伴家持先妻不待夫君使自來時一首

廿三日大伴家持橘歌一首并短歌

二十六日大伴家持詠庭中花作歌一首并短歌

掾久米朝臣廣繩天平二十年附朝集使入京天平感寶

元年閏五月二十七日還本任時大伴家持作歌一首并

短歌

霍公鳥歌一首

二十八日大伴家持爲向京見貴人及相美人飲宴日述

懷儲作歌二首

六月朔日晚頭守大伴家持忽見雨雲氣作歌一首短歌

霍公鳥の上大伴家持の四字
を脱せり

時の下本文によるに縮設時
酒宴樂飲於時主人守大伴家
持作歌一首并短歌とあるへ
し

拵ハ椽の誤かり

一絶
 四日大伴家持賀雨落歌一首
 七月七日大伴家持七夕哥一首并短歌
 越前國大拯大伴池主來贈戲歌四首
 更來贈歌二首
 天平勝寶元年十二月大伴家持詠雪月梅花哥一首
 少目秦伊美吉石竹館宴守大伴家持作歌一首
 同二年正月二日於國廳給饗諸郡司時大伴家持作歌一首
 五日判官久米朝臣廣繩館宴時大伴家持作歌一首

忽起の上木文によるに十八
 日統按察懸田地事宿禰波郡
 主帳多治比部北里之家于時
 とあるへし

二月十一日守大伴家持忽起風雨不得辭去作歌一首

機家目錄に橘如さあり
子の下元曆本に時の字あり

新歌の上拾穂本に作字あり
井の下使の字元曆本に便に
作れり

各述心緒四字これハ題なれ
ハ本文とはち書くへし
奈吳乃字美ハ越中世布禰云
々ハ船暫し貸せと也

奈美多底波云々上旬ハ間無
さいはん爲の序也

之保能波夜悲波云々ハ早く
干潟になりふハ鶴の求食せ
んさて鳴よと也

保等登藝須云々の歌卷十に
既に出たりそこに注しつ

天平二十年春三月二十三日左大臣橘家之使者造酒
司令史田邊福麿饗于守大伴宿禰家持館爰新歌并使
誦古詠各述心緒

奈吳乃字美爾布禰之麻志可勢於伎爾伊泥氏奈美多知
クヤトミテカヘリコム
久夜等見底可徹利許牟

奈美多底波奈吳能字良末爾余流可比乃末奈伎孤悲爾
ゾトシハヘニケル
曾等之波倍爾家流

奈吳能字美爾之保能波夜悲波阿佐里之爾伊泥牟等多
ヅハイイマゾナクナル
豆波伊麻曾奈久奈流

保等登藝須伊等布登伎奈之安夜賣具佐加豆良爾勢武

日許由奈伎和多禮

右四首田邊史福磨

于時期之明日將遊覽布勢水海仍述懷各作歌

伊可爾世流ハいかにしたる也元曆本世を安に作れりいつれにてもいかに斗面白き浦そさいふ意也

イカニセルフセノウラヅモコ、ダクニキミガミセム
伊可爾世流布勢能字良曾毛許已太久爾吉民我爾世武
等和禮平等登牟流

右一首田邊史福磨

美等母ハ見るとも也さて右の歌のこたへ也

チフノサキコギタモトホリヒ子モスニミトモアクベ
乎敷乃佐吉許藝多母等保里比禰毛須爾美等母安久倍

伎字良爾安良奈久爾

一云伎美我等波須母

右一首守大伴宿禰家持

一三五々ハ二の句あり

多麻久之氣ハ明んさいばん料也比利波牟ハ拾ぼん也

タマクシゲイツシカアケムフセノウミノウラチユキ
多麻久之氣伊都之可安氣牟布勢能字美能字良乎由伎
都追多麻母比利波牟

能保良自ハ京へ上らしこ也

オトノミニキヤ、デメニミヌフセノウラチミズハノホ
於等能未爾伎吉底目爾見奴布勢能字良乎見受波能保
良自等之波倍奴等母

見豆波の波元曆本に婆に作れるそよき見てあらハの意なり

フセノウラチユキアシミテバモ、シキノオホミヤビ
布勢能字良乎由吉底之見豆波毛母之綺能於保美夜比
等爾可多利都藝底牟

宇梅能波奈云々ハ卷十に全くと同しくて載せたる古歌也さて誦へたる意ハ福麻呂の旅箱へ家持卿の使の來んまちなちかてら梅の花をみんさいふにさりなせり

ウメノハナサキナルソノニワレユカムキミガツカヒ
宇梅能波奈佐伎知流曾能爾和禮由可牟伎美我都可比
チカタマチガテラ
乎可多麻知我底良
フゲナミノサキユクミレバホト、ギスナクベキトキ
敷治奈美能佐伎由久見禮婆保等登藝須奈久倍吉登伎
ニチカヅキニケリ
爾知可豆伎爾家里

安須能比能一本の方なる
そよき
伎奈可須の須元曆本に受に
作れりほさきすのなわね
間に藤花の散んかこ惜む也

十首目錄に八首さあるに從
ふへし

二十五日云々目錄に大伴家
持作さすこいへの脱せり

宇知由可波の馬に乗て行く
事によくいへり許奴可ハ來
れかしこ願ふ意也

於伎傲欲里云々二句ハ彌ま
しといはん序也伎見ハ福麻
呂をいふ彼の音思ふ君ハ舟
かもしいふなかくいへり

右五首田邊史福磨

アスノヒノフセノウツラマノフガナミニケダシキナカ
安須能比能敷勢能字良未能布治奈美爾氣太之伎奈可
ズチラシテムカモ
須知良之底牟可母

一頭云保等登藝須

右一首大伴宿禰家持和之

前件十首歌者二十四日宴作之

二十五日往布勢水海道中馬上口號二首

ハマベヨリワガウチエカバウミベヨリムカヘモコス
波萬部余里和我字知由可波宇美邊欲利牟可倍母許奴
カアマンツリブ子
可安麻能都里夫禰

於伎傲欲里美知久流之保能伊也麻之爾安我毛布伎見

我彌不根可母加禮

至水邊遊覽之時各述懷作歌

カムサブルタルヒメノサキコギメグリミンドモアカ
可牟佐夫流多流比女能佐吉許伎米具利見禮登裳安可
ズイカニワレセム
受伊加爾和禮世牟

右一首田邊史福磨

タルヒメノウツラチコギツハケフノヒハタヌシクマソ
多流比賣野字良乎許藝都追介敷乃日婆多奴之久安會
ベイヒツギニセム
徹移比都伎爾勢牟

右一首遊行女婦土師

タルヒメノウツラチコギフチカガマニモナラノロギヘ
多流比女能字良乎許具夫禰可治末爾母奈良野和藝徹
チラスレテオモヘヤ
平和須禮氏於毛倍也

水邊ハ元曆本并に目錄に水
海さあるそよき作歌の上目
録に六首さあり
多流比女能佐吉ハ布勢の湖
の内の名と見ゆ
伊加爾和禮世牟ハあかぬあ
まりにいかにせんと思ふ
なり

日婆の婆一本に波に作れり
移比都伎爾勢牟ハ後のいひ
傳へにせんこ也

夫禰元曆本に不爾さあるよ
從ふへし可治末爾母ハ掛つ
かふ間にてひまなきを云

可徹流末能ハ神名帳に越前
 社ありてハ留神社又鹿野神
 社ありてハ留神社又鹿野神
 地名にて末ハ浦まなこのま
 地抄云越中より越前國へ
 越前國に二の道ありつはた
 越前國津へ出きのめこえハ
 敦賀の津へ出る也
 清足姫天皇ハ元正天皇を申
 す

保里江ハ攝津也皇の下乎ハ
 之の誤なり

和の字ハ後人の書加へたる
 なるへし元正天皇の御こと
 へ歌なり
 伎美我云々君さハ橋をさし
 給へり玉に玉し玉を敷てつ
 悔ていふ堀江に玉を敷てつ

カヘルマノミチユカムヒハイツハタノサカニソデフ
 可徹流末能美知由可牟日波伊都波多野佐加爾蘇泥布
 レレレサシオモハバ
 禮和禮乎事於毛波婆

右二首大伴宿禰家持

前件歌者二十六日作之

太上皇在於難波宮之時哥七首 清足姫天皇也

左大臣橘宿禰歌一首

ホリエニハタマシカマシナオホキミノミフチコガムトカ
 保里江爾波多麻之可麻之乎大皇乎美敷禰許我牟登可
 年豆之里勢婆

御製歌一首和

タマシカズキミガクイテイフホリエニハタマシキミ
 多萬之賀受伎美我久伊豆伊布保理江爾波多麻之伎美

きくみおきし給ほんご答
 へさせ給へる也

古伎之伎豆のこきハかきに
 同し

一首ハ二首の誤なり

登乎能ハ次下の歌にも登能
 乃ちちはさあれハこも
 乎能ハ能之の誤なるへし橋
 卿の殿の橋なれハかくよま
 せ給へる也夜都代ハ彌つ代
 にてつハ助辭ふり請兄卿の
 いそしきを忘れ給はしこの
 給ひて橋によせ給へる也
 河内女王ハ高市皇子の御女
 あり
 之多泥流ハ橋の實の色つき
 て庭に映ないへり本居翁云
 またハ赤く照る事也と云れ
 き
 佐可彌豆伎ハみつさハ水波
 にてやわつて洗む事なりさ
 ハ酒なりされハ洗醉の意に
 てさかみつきさいふならん
 歌の下目錄に一首とあるそ

テハツギテカヨハム
 豆々都藝豆可欲多牟

或云多麻古伎之伎豆

右一首、伴歌者、御船、沂江遊宴之日、左大臣奏、并御製、

御製歌一首

タチバナノトノタチバナヤツヨニモアレハラスレ
 多知婆奈能登乎能多知婆奈夜都代爾母阿禮波和須禮
 シコノタチバナチ
 自許乃多知波奈乎

河内女王歌一首

タチバナノシタテルニハニトノタチハサカミツギイ
 多知婆奈能之多泥爾爾波爾等能多豆天佐可彌豆伎伊
 マスロガガホキミカモ
 麻須和我於保伎美可母

粟田女王歌

和我佐世流ハ挿頭にさせる
をいふ安加良多知婆奈ハ橋
の實の赤く色つけるを云さ
て月影に照らハ興あらんさ
思へハ月待て我家に歸らん
さいふ也結句詞たらひやう
なれど意を殘していひまし
たるか如きも古歌にハあり

水乎妣吉ハ水脈をみちひき
ゆく也之津乎能登母ハ下男
の伴にて賤者をいふ麻宇勢
ハ河瀬をよく仕奉れさいふ
意にて天の下申すなごの申
すに同イ意也

ツキマチテイヘニハユカムヲガサセルアカラタチバ
都奇麻知豆伊徹爾波由可牟和我佐世流安加良多知婆
ナカゲニミエツツ
奈可氣爾見要都追

右件歌者在於左天臣橋卿之宅肆宴御歌并奏歌也

保里江欲里水平妣吉須都追美布爾左須之津乎能登母

波加波能瀬麻宇勢

奈都乃欲波美知多豆多都之布爾爾能里可波乃瀬其等

爾佐乎左指能保禮

右件歌者御船以綱手泝江遊宴之日作也傳誦之人

田邊史福磨是也

後追和橋歌二首

等許余物能ハ枕詞也天皇ハ
橋の實の色ハ彌照る如く
して今見奉る如く未久しく
ましませと祝き奉れる也

比多底里ハひたひたす
なさいふひたにて常さいふ
意也
さて此二首ハ前の河内女王
の歌に追和せる也

都波良都婆良ハつまひら
を略ける詞にて切にこま
に故郷を思ふ意也さて上
ハ梅なつつかふに水の鳴る
んをてつつかふらさいひつ
ん爲也

トコヨモノコナチバナノイヤテリニラゴホキミハ
等許余物能已能多知婆奈能伊夜氏里爾和期大皇波伊
マモミルゴト
麻毛見流其登

オホキミハトキハニマサムタチバナノトノハチバナヒ
大皇波等吉波爾麻佐牟多和婆奈能等能乃多知波奈比
タテリニシテ
多豆里爾之氏

右二首大伴宿禰家持作之

射水郡驛館之屋柱題著歌一首

アサビラキイリエコグナルカゲノオトノツバ
安佐妣良伎伊里江許具奈流可治能於登乃都波良都婆
ラニラギヘシオモホユ
良爾吾家之於母保由

右一首山上臣作不審名或云憶良大夫之男但其正

名未詳也

拯ハ條の誤なり

敷布里ハ一本に敷布美とあ
るそよき卯花ハまた咲つす
してつほめりさもの意也

妓一本に伎に作れり

乎里安加之ハ居明し也明ん
あしたハ郭公のふくへけれ
ハ夜もすから酒飲みつ侍
んさ也

安須余里波ハ右の註にい
る如く明日立夏なれハ也

主張ハ主帳の誤巨ハ巨の誤
なりハに擬といへるハ文
章生の擬生の如きを云ハ

牛麥花ハ聖麥花也契沖云一
切經音義十二に聖此謂云牛
さあり牛を梵語に聖といふ
といハれたり花の下目録に
歌字あるをよじとす
曾能許已呂云々左註による
にその見せんと思ひし僧の
京へゆけハ撫子の徒になる
を惜む也

送ハ贈に通ハし用ふ

吉美能等の能ハれに通ひて
あハむる詞也元曆木に吉美
良等とあり
可豆良枳ハかつらにする事
をいふ

四月一日拯久米朝臣廣繩之館宴歌四首
宇能花能佐久都奇多知奴保等登藝須伎奈吉等與米余
敷布里多里登母

右一首守大伴宿禰家持作之

敷多我美能夜麻爾許母禮流保等登藝須伊麻母奈加奴
香伎美爾妓可勢牟

右一首遊行女婦土師作之

乎里安加之許余比波能麻牟保登登藝須安氣牟安之多
波奈伎和多良牟會

二日應立夏節故謂之明日將噴也

右一首守大伴宿禰家持作之

安須余里波都藝豆伎許要牟保登登藝須比登欲能可良
爾古非流多流加母

右一首羽咋那擬主張能登巨乙美作

詠庭中牛麥花一首

比登母等能奈泥之故字惠之曾能許已呂多禮爾見世牟
等於母比會米家牟

右先國師從僧清見可入京師因設飲饌饗宴于時主

人大伴宿禰家持作比哥詞送酒清見也

之奈射可流故之能吉美能等可久之許會楊奈疑可豆良

茅ハ元曆本に弟に作れるに
従ふハへし

奴波の波ハ元曆本ハ婆に作れ
るハよき余美都追ハ數ハつ
なり

拯ハまた條の誤なり

彼北方ハ越中府ハ越前の北
力ハにあたれハ也

キタヌシクアソバメ
枳多努之久安蘇婆米

右郡司已下子茅已上諸人多集此會因守大伴宿禰
家持作此歌也

ヌバタマノコソタルツキチイクヨフトヨミツトイモ
奴波多麻能欲和多流都奇乎伊久欲布等余美都追伊毛
ハワレマツラムチ
波和禮麻都良牟曾

右此夕月光遲流和風稍扇即因屬目聊作此歌也

越前國拯大伴宿禰池主來贈歌三首

以今月十四日到來深見村望拜彼北方常念芳德何日能
休兼以隣近忽增戀加以先書云暮春可惜促膝未期生別
悲兮夫復何言臨紙悽斷奉狀不備

三月十五日大伴宿禰池主

一古人云

ツキミレバオナジクニナリヤマコソハキミガアタリ
都奇見禮婆於奈自久爾奈里夜麻許曾波伎美我安多里
チヘダテタリケリ
乎敵太豆多里家里

一屬物發思

サクラフバナイマツサカトヒトハイヘドワレハサアシモキミトシアラチバ
櫻花今曾盛等雖人云我佐夫之毛伎美止之不在者

一所心耳

アヒガモハズアルラムキミチアヤクモサガキヲタ
安必意毛波受安流良牟伎美平安夜思苦毛奈氣伎和多
ルカヒトノトフマデ
流香比登能等布麻泥

越中國守大伴家持報贈歌四首

一古人云ハこれハ古歌の時
よめハるを書て贈れる也

都奇見禮婆云々卷十一人麻
呂家集の歌に月見れハ國ハ
同しそ山へたてうつくし妹
ハへたてたるかもしさあるを
少し引直したるやう也

櫻花云々これハ池主ハ歌也
我の下波の字を脱せるカ

耳拾穂木に哥に作れるに從
ふハへし

安必意毛波受云々ハ男女相
聞のさまによめる也

安之比奇能云々は是に古歌
にあらず家持卿の歌なり

和我勢故の池主をさす可伎
都の垣内也具の濁音かれの
俱の誤なるへし

衣毛名豆氣多理ハ淺くも名
つけたり也えもハえから
づのえに同じきて是も男女
相聞の古歌をかり用ひたる
なるへし

美之麻野ハ射水郡三嶋郷
北國のれハ三月なつはあ
れさ猶雪ふれるなるへし

奈里爾多良受也ハありにて
あらずやさいふにて死ぬへ
くなりたりとの意也
布都麻爾ハ太馬に也後の軍
記なごにふさくたくましき
馬さいへる是也
加多波牟ハかさふに同じく
今カサハすなごいふ如く
すめぬすむ事也重き荷を馬
に負せやらハ盗人にさらる
へしと戯れてよめり
報歌二首また所心一首と目
録にあり下に別所心一首と
舉たれハ報歌二首として非
以下の五字削去るへし
比奈能都夜故ハ國府をいふ
へし都ハ美の誤ハ元曆本に
ひなつみやことかな付て能
字ふし誤字あるへし水居大

一答古人云

安之比奇能夜麻波奈久毛我都奇見禮婆於奈自伎佐刀
乎許已呂徹太底都

一答屬目發思兼詠云遷任舊宅西北隅櫻樹

和我勢故我布流伎可吉都能佐具良波奈伊麻太敷布賣
利比等目見爾許彌

一答所心即以古人之跡代今日之意

故敷等伊布波衣毛名豆氣多理伊布須徹能多豆伎母奈
吉波安賀未奈里家利

一更囑目

美之麻野爾可須美多奈妣伎之可須我爾伎乃敷毛家布
毛由伎波敷里都追

三月十六日

姑大伴氏坂上郎女來贈越中守大伴宿禰家持歌二首

都彌比等能故布登伊敷欲利波安麻里爾豆和禮波之奴
倍久奈里爾多良受也

可多於毛比遠宇萬爾布都麻爾於保世母天故事部爾夜
良波比登加多波牟可母

越中守大伴宿禰家持報歌并所心三首
安萬射可流比奈能都夜故爾安米比度之可久古非須良

平云都夜故ハ夜都故の誤
るへし附ハなの意也妹にこ
ひのに1同し安来比度ハ皇
都の人をさす
古非須良波ハ戀するならハ
さいふを畧ける也
都禰能孤悲云々ハ我常1戀
る心のやむ時ふき上に太馬
に負せ來らハ荷ひ堪へかた
からんさ也

安可登吉爾云々上句ハ其時
のさまをしてもつらしさい
はん序させりさて耶女の贈
れる歌をめぐつる意也

感寶聖武紀に感寶を改めて
勝寶となすよし見えたり
古目錄に占に作れるそよき

毛利散云々ハ關守部を遣そ
へてさ也

豆器ハ高杯をいふ又豆
の意ハ大平云歌に二首まで
燈の事をよめれハ豆ハ燈の
誤かさいハり考へし元曆
本に枝に作れり作の下歌の
字を脱せり
安夫良火ハ燈火をいふ利我
可豆良云々ハ木のくハ花
つらせれハくハりさ
花の咲たるをよむさいへハ
花よりふまハしきさいひ下
したり

由利云々ハ後もあハんの
意也上句ハ折からのさまを
もてゆりさいふに重ねたり

左由理波奈云々ハ右の歌の
答なり元曆本に波奈を波奈
に作れりさて後もあハんさ
思へハんこ今よりかくうる
ハしみすれさ也

波伊ケルシルシリアリ

都禰能孤悲伊麻太夜麻奴爾美夜古欲利宇麻爾古非許

婆爾奈比安倍牟可母

別所心一首

安可登吉爾名能里奈久奈流保登等藝須伊夜米豆良之
久於毛保由流香母

右四日附使贈上京師

天平感寶元年五月五日、饗東大寺之古墾地使僧平榮

等、于時守大伴宿禰家持送酒僧歌一首

夜岐多知平刀奈美能勢伎爾安須欲里波毛利散夜里蘇

倍伎美平等登米牟

同月九日、諸僚會少目、奏伊美吉石竹之館、飲宴於時主

人造百合花縵三枚、盪置豆器、棒贈賓客、各賦此歌、作三首

安夫良火能比可里爾見由流和我可豆良佐由利能波奈

能惠麻波之伎香母

右一首守大伴宿禰家持

等毛之火能比可里爾見由流佐由利婆奈由利毛安波牟

等於母比曾米豆伎

右一首介内藏伊美吉細磨

左由理波奈由利毛安波牟等於毛倍許曾伊未能麻左可

高御坐ハ内匠寮式註に蓋作
ハ角別上立小風像下懸以玉
幡一面懸一鏡三而當項著大
鏡一面蓋上立大風像搥鳳像
七隻鏡二十五面云々あり
さて大極殿の正殿にありて
即位朝賀客拜朝等の時飾
る事也されハ其高御坐に
ハしすすを以てかくハつ
けいふなり伎巳之乎須ハ開
しめすに同し此句までハ只
天皇のまろしめす事を云リ
久爾能麻保良ハ既にいヘリ
これより越中國の事をいフ
佐波爾於保美等ハさいハ
多き事あるを重れいヘリ
可奈之母ハ愛る詞也
比流久其之欲和多之ハ日
ら一夜もすつらの意也
許巳呂の下豆ハ字の誤也
安波禮能登里ハたしるき
鳥也

母宇流波之美須禮

右一首大伴宿禰家持和

獨居幄裏遙聞霍公鳥喧作歌一首并短歌

タカミクラアアマノヒツギトスメロギノカミノミコトノキコ
高御座安麻能日繼登須賣呂伎能可未能美許登能伎巳
シナスクニノマホラニヤマナシモサハニオホミトモト
之乎須久爾能麻保良爾山乎之毛佐波爾於保美等百鳥
ノキ非テナクコエハルサヲレバキキノカナシモイヅレナ
能來居豆奈久許惠春佐禮婆伎吉能可奈之母伊豆禮乎
カワキテシヌバムウノハナノサクツキタテバメヅラシク
可和积豆之努波無宇能花乃佐久月多豆婆米都良之久
ナクホト、ギスアヤメグサタヌクマデニヒルクラシヨ
鳴保保登藝須安夜女具佐珠奴久麻泥爾比流久良之欲
ワタシキケドキクコトニコ、ロウゴキテウチナゲキ
和多之伎氣騰伎久許等爾許巳呂豆吳伎豆宇知奈氣伎
アハレノトリトイハヌトキナシ
安波禮能登里等伊波奴登积奈思

反歌

由具敵奈久云々ハ郭公ハ鳴
て行方まらぬ物なれハハク
いヘリ具ハ俱の誤敵ハ敵の
誤なり

開元曆本に登開に作れハ
もこの方まさりてはほやま
て卯花の開と共に鳴く故に
かくいヘリ

伊登禰多家口波ハ橘のちる
を惜む頃ふきて聞く人に物
思はするかれたき也治ハ
知の誤ふらんか

英遠浦ハ越中さハしるけれ
と唯こいよのみ出たり

ユクヘナクアアリワタルトモホト、ギスナキシワタラ
由具敵奈久安里和多流登母保等登藝須奈积之和多良

バカクヤシヌバム
婆可久夜思努波牟

ウノハナノサクニシナケバホト、ギスイヤメツラシモナ
宇能花能開爾之奈氣婆保等得藝須伊夜米豆良之毛名

ノリナクナヘ
能里奈久奈倍

ホト、ギスイトチタケクハタチバナノハナチルトキニキナ
保登等藝須伊登禰多家口波橘能播奈治流等吉爾伎奈

キトヨムル
吉登余牟流

右四首十日大伴宿禰家持作之

行英遠浦之日昨歌一首

アチノウラニヨスルシラナミイヤマシニタナシキヨ
安乎能宇良爾餘須流之良奈美伊夜末之爾多知之伎世

安由の東風をいふ卷十七に
自註あり

陸奥國出金詔書ハ續紀聖武
天皇天平廿一年丁巳陸奥國
始賀黃金同四年甲午朔天
皇幸東大寺御座舍那佛前殿
云々勅遣左大臣橘宿禰諸兄
白佛云々さある詔書的事を
いふ
美豆保國保の下乃字を脱せ
るか又ハ短句にて有へし
安麻久太利云々先皇孫瓊々
杵尊を申奉りてさて君の御
代々々さいふまて次々の天
皇をさし奉れり
山河乎云々ハ山を厚み河を
廣み也
御調寶ハ貸せる寶物を云
善乎乎云々諸のよき事をな
ししめ給ひて也
久我禰可毛云々諸のよき事
の中にも黄金を得ハ國民樂
からんと思ひて御心のうち
に思ひなやます也
小田在山爾ハ陸奥國小田郡
の山也神名帳ハ小田郡黃金
神社あり
麻字之多麻徹禮ハ奏したれ
ハ也也たまふハ上へ對して

敬ふ制にも自の上にも古く
いへる海あり
御心乎云々ハ下惜み給ひし
御心を晴けませり也
安比字豆奈比ハ相語なふさ
いふも同し
可々里之ハ上の可ハ奈の誤
なるへしなかりしとなく
ハ解し難し
御食國波元曆本に御の字な
き方調さハのへり
可牟奈我良云々ハ其時の天
皇をさし奉る
麻都呂倍乃云々治め給ふま
まよさいハんか如し
之我ハ巴かいふも同し
心太良比ハ心足りを延へい
へるあり
於母比豆さいふまてハ治め
給ふまよ老たるも若きも
皆歡ひ喜むよしして大伴能
といへるよりハ我遠祖の事
をいひて大御孫を恐む也
大來目主神代記一書天孫降
臨の條に于時大伴連遠祖天
忍日命神來目部遠祖天孫津
大來目云々とありて久來部
を主る故といふあり
海行者云々右の天平の詔書
に汝多知乃祖止母乃云來久
海行波美内久屍山行波草牟

セクアユチイタミカモ
世久安由乎伊多美可聞

右一首大伴宿禰家持作之

賀陸奥國出金詔書哥一首并短歌

アシハラノミヅホグニチアアマクダリシラシメシケルスメロ
葦原能美豆保國乎安麻久太利之良志賣之家流須賣呂
伎能神乃美許等能御代可佐禰天乃日嗣等之良志久流
伎美能御代御代之伎麻世流四方國爾波山河乎比呂美
アツミトタタマツルミツギダカラハカクヘエズツクシモカ
安都美等多豆麻豆流御調寶波可蘇倍衣受都久之毛可
禰都之加禮騰母吾大王能毛呂比登乎伊弉奈比多麻比
ヨキコトナハツメタマヒテクガ子カモタノシケクアラム
善事乎波自米多麻比豆久我禰可毛多能之氣久安良牟
トオモホシテシタナヤマスニトリガナクアヅマノクニニチノクノ
登於母保之豆之多奈夜麻須爾鷄鳴東國能美知能久乃

チダナルヤマニクガチアイトマウシタマヘレシコ、ロチアキラメタ
小田在山爾金有等麻字之多麻徹禮御心乎安吉良米多
マヒアメツチノカミアヒツツナヒス、メロヤノ、ミタマタスケテトホキ
麻比天地乃神安比字豆奈比皇御祖乃御靈多須氣豆遠
ヨニカカリシコトチアガミヨニアラハシテアレバミチス
代爾可可里之許登乎朕御世爾安良波之豆安禮婆御食
グニハサカエムモノトカムナガラオモホシメシテモノ
國波左可延牟物能等可牟奈我良於毛保之賣之豆毛能
ノフノヤソトモノナ、マツロヘノムケノマニマニオイビトモ
乃布能八十伴雄乎麻都呂倍乃牟氣乃麻爾麻爾老人毛
メノワラハコモシガ子カフコ、ロダラヒニナタマヒササマヘバコ、ナシモア
女童兒毛之我願心太良比爾撫賜治賜婆許已乎之母安
ヤニタフトミウレシケクイヨ、オモヒテオホトモノトホツ
夜爾多敷刀美字禮之家久伊余與於母比豆大伴能遠都
カムオヤノソノナチバオホクソメシトオヒモチテツカヘシツカサウミ
神祖乃其名乎婆大來目主登於比母知豆都加倍之官海
ユカバミヅクカバ子ヤマユカバクサムスカバ子オホキミノヘニコソシナメカ
行者美都久屍山行者草牟須屍大皇乃徹爾許曾死米可
ヘリミハセツトコトダマスマラナノキヨキソノナナイニシ
弊里見波勢自等許等大豆大夫乃伎欲吉彼名乎伊爾之

ま屍王乃幣附去曾死來能行
母波不死云來流人等止奈
爾附召須云々とおるか其ま
須にさわり
許等の下大ハ太の誤なり
奈我佐徹流ハ流せるにて其
未流といふ意也
大伴等佐伯氏者云々讀紀天
平寶字元年七月詔に又大伴
佐伯宿禰等波自遠天皇御世
内乃兵止爲而仕奉る見む世
り人祖乃云々惣ての人を差
て遠祖の名を斷たす仕奉れし
言繼言教ふへき氏そ也
安佐麻毛利云々ハ大伴佐伯
二氏衛門の開闢を掌るよし
ないふ
伊夜多豆ハ上にこたてて
あるをうけたり豆の下氏の
字あるへしと契沖云れき
於毛比之麻左流ハ彌増に思
ふかり
御言能左吉乃ハ御言の幸に
てハの詔書に大伴佐伯云々
一治賜さある是大伴を幸
ハへ給ふ也乃ハ一書の乎と
あら方よし
聞者貴美ハ上の思ひしまさ
るの句へ返して意得へし
一云云々かくてハ御言の幸

へヨイマノヲツ、ニナカサヘルカヤノコドモソホトモ
倣欲伊麻乃乎追通爾奈我佐徹流於夜能子等毛曾大伴
トサヘキノウヤハヒトノオヤノタツルコトタヒトノコハオヤノナタ、ズオホキミニ
等佐伯氏者人祖乃立流辭立人子者祖名不絶大君爾麻
マツロフモノトイヒツケルコトノツカサアツサユミテニト
都呂布物能等伊比都雅流許等能都可佐曾梓弓手爾等
リモチテツルカタチコシニトリハキアサマモリユフノマ
里母知豆劔大刀許之爾等里波伎安佐麻毛利由布能麻
モリニオホキミノミカドノマモリワレサオキテマタヒトハア
毛利爾大王能三門乃麻毛利和禮乎於吉豆且比等波安
ラツトイヤタテガモヒシマサルオホキミノミコトノサキノ
良自等伊夜多豆於毛比之麻左流大皇乃御言能左吉乃
一云 聞者貴美
一云 貴久之安禮婆
反歌三首
マストラサノコ、ロカモホユオホキミノミコトノサキノ
大夫能許已呂於毛保由於保伎美能美許登能佐吉乎云

のさある方によるへし

之米多底ハそれといちしる
く人の知る斗に標たてよこ
の意也

美知能久夜麻ハ陸奥の山よ
て小田原なる山といふへし
金花佐久ハ山よくさく
花さくになそらへて金の出
たるな花咲といひなせり

能 聞者多布刀美

一云 貴久之安禮婆

オホトモノトホツカムオヤノオクツキハシルクシメタテ
大伴能等保追可牟於夜能於久都奇波之流久之米多底
ヒトノシルベク
比等能之流倍久

スメロギノミヨサカエムトアヅマナルミチノクヤマ
須賣呂伎能御代佐可延牟等阿頭麻奈流美知能久夜麻
ニクガ子ハナサク
爾金花佐久

天平感寶元年五月十二日於越中國守館大伴宿禰
家持作之

爲幸行芳野離宮之時儲作歌一首并短歌
多可美久良安麻能日嗣等天下志良之賣師家類須賣呂

波自米多麻比豆ハ密明紀に
二年吉野宮を作るとある是
なり
安里我欲比ハ次々の天皇の
幸し給へるをいふ

賣之多麻布ハ見し給ふなり
於能我名負名負ハ名負豆
有しをかく誤れるなるへし
さ本居窮いハれき先祖より
負へる家の職を賣てさ也
麻氣能麻久麻久ハまくハま
かせの約言ハ任せ給へる任
々山に隨ひて河の絶えさる如
く山の續ける如く遠長く仕
へんさ也或ハ麻久ハ麻爾の
誤ならんか

賣須ハ見させ給ふをいふ

與之努河波ハ此川の如くの
意なり

伎乃可未能美許等能可之古久母波自米多麻比豆多不
刀久母左太米多麻做流美與之努能許乃於保美夜爾安
里我欲比賣之多麻布良之毛能乃敷能夜蘇等母能乎毛
於能我於做流於能我名負名負大王乃麻氣能麻久麻久
此河能多由流許等奈久此山能伊夜都藝都藝爾可久之
許曾都可倍麻都良米伊夜等保奈我爾

反歌

伊爾之做乎於母保須良之母和期於保伎美余思努乃美
夜乎安里我欲比賣須
物能乃布能夜蘇氏人毛與之努河波多由流許等奈久都

可倍追通見牟

爲贈京家願眞珠哥一首并短歌

珠洲ハ能登國あり
於伎都美可未ハ海と則海神
さしてよめり
伊保知ハ五百千かまたハち
ハ千ちもちなさいふち
てたハ五百さいふか
等吉欲ハ時より也
加多古里の古ハ左の誤なら
んさ契沖いハれたり共賤せ
すして妻の片よりて獨臥せ
るを片去さいふ也
安佐爾我美云々妻ハ獨ある
ありさまをいふ
心奈具佐余ハ心慰めに也余
ハ元曆本に波に作れハ猶
爾の誤ふるへし

珠洲乃安麻能於伎都美可未爾伊和多利豆可都伎等流
登伊布安波妣多麻伊保知毛我母波之吉餘之都麻乃美
許登能許呂毛泥乃和可禮之等吉欲奴婆玉乃夜床加多
古里安佐爾我美可伎母氣頭良受伊泥氏許之月日余美
都追奈氣久良牟心奈具佐余保登等藝須伎奈久五月能
安夜女具佐波奈多知波奈爾奴吉麻自倍可頭良爾世餘
等都追美氏夜良牟
白玉平都々美氏夜良波安夜女具佐波奈多知婆奈爾安

安部母ハ合も也

具ハ俱の誤ならんか

多麻母我のハハびもにて願ふ詞なり

伊保都々度比ハ五百箇御統
の結代紀にいへるよ同し玉
結ないふへしさて手に結
ひさしいへり
幸賀思久母安流香ハ向ハま
ほしきにて愛る意也心よか
らぬに背向さいふにうらう
への意あり
一云云々これハよむへきや
うなし誤字有へし

倍母奴久我禰

於伎都之麻伊由伎和多里豆可豆具知布安波妣多麻母

我都々美豆夜良牟

和伎母故我許已呂柰具左爾夜良無多米於伎都之麻奈

流之良多麻母我毛

思良多麻能伊保都都度比乎手爾牟須妣於許世牟安麻

波牟賀思久母安流香

一云我家牟伎波母

右五月十四日大伴宿禰家持依興作

教諭史生尾張少昨歌一首并短歌

七出例云、

但犯一條即合出之、無七出、輒棄者徒一年半、

三不去云、

雖犯七出、不合棄之、違者杖一百、唯犯姦惡疾得棄之、

兩妻例云、

有妻更娶者徒一年、女家杖一百、離之、

詔書云、

愍賜義夫節婦、

謹案、先件數條、建法之基、化道之源也、然則義夫之道、情存無別、一家同財、豈有忘舊愛新之志哉、所以綴作數行之歌、

七出例云ハハ令云凡棄妻須
有七出之狀一無子二妬嫉三
不事舅姑四口舌五盜竊六妬
忌七惡疾皆夫手書棄之云々
さあり

三不去云云の上例の字を脱
せり戸令云雖有棄狀有三不
去一經持舅姑之喪二娶時賤
後貴三有所受無所歸云々さ
あり

家良之の之ハ久の誤なるヘ
 さらして下への續きよ
 らす本居翁いハれたリ
 許等大豆のハ太の誤ナリ
 曾能都末能古ハ故郷の妻を
 惠美々惠末須毛ハみもし
 るますもあてて也
 可多里家末久波ハ語りけん
 ハさいふ也
 等已之部能云々ハいつも
 賤くてハあらし也次ハ
 盛もあらんさいふに對へて
 見るヘ
 安良多之家奉ハ本居翁佐
 可里安良奉等末多之家奉
 さきのさ有しハ奉等末の三
 字脱たる也盛もあらん
 て待たしけん今その盛なり
 さいふ也曾ハ乎の誤なるヘ
 波居豆の波ハ放の誤なるヘ
 心左夫之善ハ娶の心さひし
 くてなるなふ也
 南吹以下三句ハよるヘふみ
 盗の誤なりさて旅にてよる

へもふきまに遊行女婦に
 おれそめしさいふ也左夫流
 其兒ハうらさふる見さいふ
 意ハ註に女婦之字さあるハ
 誤なりんか賀茂翁いハれた
 べし証もふけれハ註に
 移都我利ハハハの略なりん
 かりハつふかりの略なりん
 比毛能緒能ハいつかりさい
 ハん料あり
 左度波世流ハ迷はせる也

之可爾波安良司ハ思ハす
 待つらんをさ思ハす
 之喻示す意也司ハ自の誤
 美夜泥ハ宮出ハ之理夫利ハ
 後ふりにて後に出して
 いへるか如しさて宮出さい
 ふへきしなし本居翁ハ美
 ハ尼の誤にて出入ハさい
 れき考ふへし出入ハさい
 ハ思ハるハさいひて少昨を
 いさむる也
 久禮奈爲波ハ遊女にたさへ
 常流波美ハ本妻をいへり

令悔棄舊之惑其詞曰、
 於保奈牟知須久奈比古奈野神代欲里伊比都藝家良之
 父母乎見波多布刀久妻子見波可奈之久米具之宇都世
 美能余乃許等和利止可久佐末爾伊比家流物能乎世人
 能多都流許等大豆知左能花佐家流沙加利爾波之吉余
 シソノツマノコトアサヨヒニエミトエマズモウチナ
 之曾能都未能古等安沙余比爾惠美々惠末須毛宇知奈
 ゲギカカタリケマクハトコシヘニカクシモアラメヤアメ
 氣伎可多里家未久波等已之部爾可久之母安良米也天
 ツチノカミコトヨセテハルバナノサカリモアラダシケムト
 地能可未許等余勢天春花能佐可里裳安良多之家牟等
 キノサカリゾサカリ非テナゲカスイモガイツシカモツカヒ
 吉能沙加利會波居豆奈介可須移母我何時可毛都可比
 ノコムトマタスラムコトロサアシクミフキユキゲハフリテイミツガハ
 能許牟等末多須良無心左夫之苦南吹雪消益而射水河

ナガルミナワノヨルベナミサアルソノコニヒモノサノイツガ
 流水沫能余留弊奈美左夫流其兒爾比毛能緒能移都我
 アヒヒテニホドリノフタリナラヒサゴノウミノガキチ
 利安比豆爾保騰里能布多理雙坐那具能宇美能於伎乎
 フカメテサドハセルキミガココロノスベモスベナサ
 布可米天左度波世流伎美我許已呂能須敵母須弊奈佐
 言佐夫流者遊行女婦之字也、

反歌三首

アチニヨシナラニアアルイモガタカダカニマツラムコ
 安乎爾與之奈良爾安流伊毛我多可多可爾麻都良牟許
 巳呂之可爾波安良司可
 サトビトノミルメハヅカシサアルコニサドハスキミ
 左刀妣等能見流目波豆可之左夫流兒爾佐度波須伎美
 ガミヤデシリブリ
 我美夜泥之理夫利
 クレナサハツツロフモノツルバミノナレニシキメ
 久禮奈爲波宇都呂布母能會都流波美能奈禮爾之伎奴

夫妻目錄に夫君さあるに従
 伊都伎ハ上にいへるいつ
 リを約めたる謂ふるへし等
 能ハ少作ハ官舎をいふ也
 須受可氣奴云々ハ孝徳紀に
 驛馬傳馬をわき鈴契を造る
 昨見ハその驛鈴をいふ少
 越中へ下れるを鈴かけし
 ひさしくなかく戯て人のい
 なり婆一本に波に作れるそ
 田道間守云々垂仁紀九十年
 二月田道間守を常世國に遣
 今非時香葉を求めしめ給ふ
 九十九年天皇崩給ひて明年
 三月田道間守常世國より來
 物非時香葉八尋八尋見ハ
 此れ後田道間守ハ天日槍
 の後也
 時の下支ハ敷の誤ふるへし

孫枝毛伊都道ハ枝より又出
 ハ萌えつハ枝云はしいつハ
 波都婆奈の婆ハ一本に波さ
 あるそよき延太爾多乎理豆
 ハ花を枝から折てこ也
 夜里美可良之美ハ道りもし
 枯らしもしにてふりみ降ら
 寸みのみに同し
 安由流波ハ熱せる實にて
 卷八橋の歌に既にいへり
 久禮奈爲爾或本久爾の間二
 三字爾字ありしハ仙覺ハ考
 にて禮奈爲の三字を補ハる
 よし抄に見ゆいさまにも
 くれらぬにさふくてハかな
 はわふり
 常盤奈須ハ常しき磐の如く
 さいふ意にて常葉さいへる
 さ遠へりまかふへらす
 佐加波延爾ハ榮に也
 神乃御代欲理ハ垂仁の御代
 をさしていへり

爾奈保之可米夜母

右五月十五日守大伴宿禰家持作之

先妻不待夫妻之喚使自來時作歌一首

左夫流兒我伊都伎之等能爾須受可氣奴婆由麻久太禮

利佐刀毛等騰呂爾

同月十七日大伴宿禰家持作之

橋歌一首并短哥

可氣麻久母安夜爾加之古思皇神祖能可見能大御世爾

田道間守常世爾和多利夜保許母知麻爲泥許之登吉時

支能香久乃菓子乎可之古久母能許之多麻徹禮國毛勢

爾於非多知左加延波流左禮婆孫枝毛伊都追保登等藝
 須奈久五月爾波波都婆奈乎延太爾多乎理豆乎登女良
 爾都刀爾母夜里美之路多倍能蘇泥爾毛古伎禮香具播
 之美於伎豆可良之美安由流實波多麻爾奴伎都追手爾
 麻吉豆見禮騰毛安加受秋豆氣婆之具禮能雨零阿之比
 奇能夜麻能許奴禮波久禮奈爲爾仁保比知禮止毛多知
 波奈能成流其實者比太照爾伊夜見我保之久美由伎布
 流冬爾伊多禮波霜於氣騰母其葉毛可禮受常磐奈須伊
 夜佐加波延爾之可禮許曾神能御代欲理與呂之奈倍此
 橋乎等伎自久能可久能木實等名附家良之母

移夜時自久爾ハ非時香葉
いふより爾時さなく常に見
まほしきさいひふせり

反歌一首
橋波花爾毛實爾母美都禮騰母移夜時自久爾奈保之見
ガホシ

閏五月二十三日大伴宿禰家持作之

庭中花作歌一首并短哥

庭の上目録に詠の字あるに
よけて補ふへし
末伎太末不ハ任せ給ふを約
めいへる也
末爾末ハまにくさいへる
下の爾を署ける也

於保伎見能等保能美可等々末伎太末不官乃末爾末美
ユキフルコシニクダリキアラタマノトシノイットセシキ
由伎布流古之爾久太利來安良多未能等之能五年之吉
タヘノタマクラマカズヒモトカズマロチチスレバイブセ
多倍乃手枕末可受比毛等可須末呂宿乎須禮波移夫勢
ミトコ、ロナッサニナデシコチヤドニマキホシナッノ
美等情奈具左爾奈泥之故乎屋戸爾末積於保之夏能能
ノサユリヒキウエテサクハナチイアミルゴトニナデシコ
之佐由利比伎字惠天開花乎移低見流其等爾那泥之古

波奈豆末爾ハ爾夢を愛て花
妻さいひさて其妻にゆりも
逢んさいひ下さんさてゆり
花さいへり

安禮也ハあらめやな約めい
へるなり

我乃波奈豆末爾左由理花由利母安波無等奈具佐無
ルコ、ロシナクハアマザカルヒナニヒトヒモアルベク
流許己呂之奈久波安麻射可流比奈爾一日毛安流部久
モアレヤ
母安禮也

反歌二首

爾保比ハ麗をいふ

奈泥之故我花見流其等爾乎登女良我惠末比能爾保比
ガモホユルカモ
於母保由流可母

之多波布流ハ下思ふより
にて例多し
今日母倍米夜母今日の日も
在經るに堪へんやと也

佐由利花由利母相等之多波布流許己呂之奈久波今日
モヘメヤモ
母倍米夜母

同閏五月二十六日大伴宿禰家持作

國拯久米朝臣廣繩以天平二十年附朝集使入京其事

拯ハ操の誤ふり

長官の下也ハ一本に之に作れるそよき

末伎ハ上の歌にいへり等里毛知ハ官事を執持て也許等可多禰母知ハ負事を俗よけたけるさいふを北國にハ猶かたれるさいふこそ末爲之ハ参りし也

左加美都伎ハ沈酔の意にて既にいへり奈具禮止ハ慰れさい也多豆我奈久ハ鶴が鳴く也

末川つの假名に川を用ひたるハふいのみ也すへてつハ門の草書からんと賀茂翁のいれき猶考へし爾布夫ハにこよかさも又俗にこくさいふも同し阿波之多流ハ達ひたるを延へいへるふり

末々爾元曆本に末爾末さ有於毛夜のつひよに通ひて助辞ならんか本居翁ハ面彌の意也さいハれき考へし須久奈久母ハ結句へかけて意得へし戀しき事の少からんやこの意なり

畢而天平感寶元年閏五月二十七日還到本任仍長官也館設詩酒宴樂飲於時主人守大伴宿禰家持作歌一

首并短歌

ガホキミノマキノマニトリモチテツカフルクニ於保伎見能末伎能末爾未爾等里毛知底都可布流久爾能年内能許登可多禰母知多末保許能美知爾伊天多知イハチフミヤマコエノユキミヤコベニマ井シワガセ伊波禰布美也末古衣野由伎彌夜故敵爾末爲之和我世平安良多末乃等之由吉我做理月可佐禰美奴日佐未禰美故敷流會良夜須久之安良禰波保止止支須支奈久五ツキノアヤメグサヨモギカヅラキサカミヅキアソビナ月能安夜女具佐余母疑可豆良伎左加美都伎安曾比奈具禮止射水河雪消溢而逝水能伊夜未思爾乃未多豆我

ナクナゴエスノゲノチモゴロニガモヒムスボレナゲ奈久奈吳江能須氣能根毛已呂爾於毛比牟須保禮奈介伎都都安我末川君我許登乎波里可敵利未可利天夏野能佐由利能波奈能花咲爾々布夫爾惠美天阿波之多流ケフチハジメテカガミナスカクシツチミムオモガハリセズ今日乎波自米氏鏡奈須可久之都禰牟於毛我波利世須

反歌二首

コゾノアキアロミシマハニケフミレバガモヤメヅラシミ許序能秋安比見之末末爾今日見波於毛夜目都良之美ヤコガタビト夜古可多比等カクシテモアヒミルモノチスクナクモトシツキレバゴ可久之天母安比見流毛能乎須久奈久母年月經禮婆古非之家禮夜母

聞霍公鳥喧作歌一首

伊爾之傲欲云々古より人の
 盛ふ鳥なれ今鳴聲き
 て思しき也こひ未だ相見
 すして慕ひしく思ひし人
 達てよめる譬喩歌ふらん
 此界解にいへり
 相いあふさまんか或は誤
 字ならん
 加都良賀氣の本居翁云山蘇
 日隆也さくくはしさい
 人枕詞也さいはれき
 香具波之の香の發語にて細
 し君の意か又此頃ハ既
 に後さまの如くかうはしき
 君さよめるにや是ハ美人に
 逢へるをよめる也
 朝參乃ハ四言か宮中へ參る
 ないふ本居翁ハ誤字にて朝
 戸出なさにやさいはれたり
 猶考へし是ハ貴人に見はし
 なよめる也

一頭云云々かくてハこれハ
 美人にあへる歌さすへし

起ハ此の誤か
 稍一本に縮に作り六の上今
 の字あり短歌の上井の字あ

宇麻乃都米云々新年祭祝詞
 に青海原者棹不干舟體能
 至留極大海南舟都々氣底
 自隨往道者街緒都々氣底
 木根履佐久彌豆馬爪至留根
 長道無問久立都々氣底さ
 るに同し伊都久須伊波都流
 の伊ハ發語あり
 萬調云々稻ハ萬の實に奉る
 ものハ中て専らさする物
 ふれハまかいへり
 奈里波比ハ業也

波多氣和名抄に櫻搜神記云
 江南島種豆島一云陸田和名
 八太介さあり
 知許布我其登久ハ小兒の乳
 を乞ひ求むるか如くさ也
 安麻都美豆ハ即雨をいふ
 許能見由流云々ハ只今見ゆ
 る白雲さいふ也
 於根都美夜徹ハ上にたきつ
 神さいへるよ同しく海神の
 宮さいふ

イニシヘヨシメビニケレバホト、ギスナクコエキ、
 伊爾之傲欲之奴比爾家禮婆保等登伎須奈久許惠伎吉
 テコヒシキモノナ
 氏古非之吉物能乎

爲向京之時見貴人及相美人飲宴之日述懷儲作歌二首

見麻久保里於毛比之奈倍爾加都良賀氣香具波之君乎

安比見都流賀母

朝參乃伎美我須我多乎美受比左爾比奈爾之須米婆安

禮故比爾家里

一頭云波之吉與思伊毛我須我多乎

同閏五月二十八日大伴宿禰家持作之

天平感寶元年閏五月六日以來起小旱百姓田畝稍有

凋色也至千六月朔日忽見雨雲之氣仍作雲歌一首短

歌一絶

須賣呂伎能之伎麻須久爾能安米能之多四方能美知爾
 ハウマノツメイツクスキハミフナノヘノイハツルマ
 波宇麻能都米伊都久須伎波美布奈能倍能伊波都流麻
 デニイニシヘユイマノチツ、ニヨロツ、キマツルツカサト
 泥爾伊爾之傲由伊麻乃乎都頭爾萬調麻都流都可佐等
 ツクリタルソノナリハヒチアメアラズヒノカサナレ
 都久里多流會能奈里波比乎安米布良受日能可差奈禮
 パウエシタモマキシハタケモアサゴトニシホミカレ
 波字惠之田毛麻吉之波多氣毛安佐其登爾之保美可禮
 ユクソチミレバコ、ロチイタミミドリコノチコフガ
 由苦會乎見禮婆許己呂乎伊多美彌騰里兒能知許布我
 ゴトクアマツミツアコギテソマツアシビキノヤマノ
 其登久安麻都美豆安許藝豆會麻都安之比奇能夜麻能
 タチリニコノミユルアマノシラクモワタヅミノオキ
 多乎理爾許能見由流安麻能之良良母和多都美能於积

等能具毛利安比豆ハ棚引合
てさいふ意かり

保妣許里ハたほひ廣こりに
て今はびこりさいふにたな
し許已呂太良比爾ハ上にも
出たり飽足る斗にさいふ意
あり

保利ハ欲せし也
許登安氣云々こいに天地
の神に祈りまうすこさを云
登思波ハ祝詞に稻を奥津御
年さありてこいも専ら稻を
いへるなり

都美夜徹爾多知和多里等能具毛利安比豆安米母多麻
波禰

反歌一首

許能美由流久毛保妣許里豆等能具毛理安米毛布良奴
可許已呂太良比爾

右二首六月一日晚頭守大伴宿禰家持作之

賀雨落歌一首

和我保里之安米波布里伎奴可久之安良波許登安氣世
受杼母登思波佐可延牟

右一首同月四日大伴宿禰家持作之

安麻泥良須可美能ハ日の神
を申すへし夜洲能河波ハ神
代紀に八十万神會合於天安
川邊さあれハかくいへり
伊吉能乎爾ハ息の緒にて命
のきつふさいふに同じし
奈氣加須古良ハ短句也さて
布禰毛麻字氣受にて句を切
るべし
曾能借由毛ハ其上よりしも也
字奈我既利爲底ハ項に手を
懸て親く並ひ居をいふさ賀
茂翁いハれき

等毛之伎古良また短句也
許已の下字ハ乎の誤なる事
まろし
久須之彌ハ奇しき事にして
さいふ意なり
伊比都藝爾須禮ハ世人の代
々語繼をいふ此結禮と結ひ
たるハいハれなれこいハ通
ふ例ありま本居翁いハれき

七夕歌一首並短哥

安麻泥良須可未能御代欲里夜洲能河波奈加爾敵太豆
々牟可比太知蘇泥布利可波之伊吉能乎爾奈氣加須古
良和多理母理布禰毛麻字氣受波之太爾母和多之氏安
良波曾能倍由母伊由伎和多良之多豆佐波利字奈我既
利爲氏於母保之吉許登母加多良比那具左牟流許已呂
波安良牟乎奈爾之可母安吉爾之安良禰波許等騰比能
等毛之伎古良字都世美能代人和禮母許已字之母安夜
爾久須之彌往更年能波其登爾安麻能波良布里左氣見
都追伊比都藝爾須禮

許半可比太知豆のこ此の
器にてこいに向ひ立てこ也
等之能古非の年中の懸こい
ふ意なり
表裏の袋に縫ひたるさいて
の事あり作策の謀の意にて
貿易せる事を云率爾の袋を
作りたる故に表裏をふさ誤
て引たるかへたらん事ハ池主
か推量の言の如く明らよて何
らに外のわけあらんやさ自
らこさわる也
凡貿易本物云々以下殊に戯
言なり前に池主より袋にす
るさいてを遣りて縫ひしむ
るに夫を用ひすして他物に
て縫たるを咎むる也
正職の盗める物を其ま
にて償はするを云ふ倍職さ
ハ其盗物既に他人へ渡り失
せぬれハ倍よして償する也
宜急并滿ハ正職倍職を并せ
めつたる意にていへり
勸風雲ハ風の便雲の使な
はいやつて其賊物を取返す使

反歌二首
アマノガハシシヲタセラバソノヘユモイラタラサム
安麻能我波々志和多世良波曾能倍由母伊和多良佐牟
チアキエアラズトモ
乎安吉爾安良受得物
ヤスノカハコムカヒタチテトシノコヒケナガキコラ
夜須能河波許牟可比太知豆等之能古非氣奈我伎古良
ガツマドヒノヨソ
河都麻度比能欲曾

右七月七日仰見天漢大伴宿禰家持作之

越前國掾大伴宿禰池主來贈戲歌四首

忽辱恩賜驚欣已深、心中含咲、獨座稍開、表裏不同、相違何
異、推量所由、率爾作策、欺明知加言、豈有他意乎、凡貿易本
物、其罪不輕、正職倍職、宜急并滿、今勸風雲、發遣徵使、早速

をいふ延回ハ延引さいふに
たなし
物所貿易下吏ハ我物を引き
て池主也
貿易人ハ物を引たかへたる
盗人にて家持卿をささり官
司も家持卿をさす言にて盗
人ハ他人にて家持卿へ訴る
様に設て書なせり
別日ハ別日の誤准ハ唯の誤
なり唯擬睡覺ハ目さましぐ
さにこよせたるさいふに
て俗にわらひくささいふに
意あるへし
波里曾多麻敷云々ハ池主
より家持卿へ針袋を縫て賜
らん事をこひたるハ針をも
入て給へせたるなるへし
針ハ給へれど縫ふへき物も
なけれハ衣も照へさ戯れて
よめるか買ハ元曆本に賀に
作れるそよき
可邊佐倍波ハ裏かへして見
れハ也可於能等母云々能と
母さ通へハたもなるへ
てし意ハ針袋を取扱て前に置
さへに返して見れハ表も裏も
いへるなるへし契沖ハわたの

返報不須延回

勝寶元年十一月十二日

物所貿易下吏

謹訴 貿易人斷官司 廳下

別日、可憐之意、不能默止、聊述四詠、准擬睡覺、

久佐麻久良多比能於伎奈等於母保之天波里曾多麻敷

流奴波牟物能毛負

芳理夫久路等利安宜麻敷爾於吉可邊佐倍波於能等母

於能夜字良毛都藝多利

波利夫久路應婢都都氣奈我良佐刀其等邇天良佐比安

流氣騰比等毛登賀米授

れがさもたのれさ云れたれ
 さいかあらん
 應都々氣奈我其契沖云
 帯續けなから也いハれき
 されき應の字異様ある假
 字書ふり誤ならんか畧解
 にいへり天良佐比ハ街に
 俗にひけらかし歩くをいふ
 さてわゆるき袋なれハ街に
 これも誰も心つけてめて皆
 むる人もふしと也
 布佐倍宜しからぬをふさは
 幸をえにやかん云也左
 爾ハ實也これハ東國の任を
 認めさも其よしふきとよめ
 るなるへし
 部下云々池主初ハ越中掾に
 て家持卿に屬せられたるハ
 後ハ越前掾になりて加賀
 郡より更ニ此書を家持卿へ
 贈れる也加賀ハ弘仁十四年
 に越前より割て置れたるハ
 勝寶元年に部下といへるハ
 勿論也
 曾無所爲ハ戀情のせんすへ
 なき意ふり
 著者云々十一字ハ家持卿よ
 りの來書の辞と見ゆされと
 脱誤あるへし或人ハ著者ハ

トリガナクアヅマチサシテフサヘシニユカムトオモ
 等里我奈久安豆麻乎佐之天布佐倍之爾由可牟登於毛
 倍騰與之母佐彌奈之
 右歌之返報歌者脱漏不得探求也
 更來贈歌二首
 依返驛使事今月十五日到來部下加賀郡境面陰見射水
 之鄉戀緒結深海之村身異胡馬心悲比風乘月徘徊曾無
 所爲稍開來封其辭云著者先所奉書返畏度疑歎僕作囑
 羅且惱使君夫乞水得酒從來能口論時合理何題强更乎
 尋誦針袋詠詞泉酌不渴抱膝獨吟能獨旅愁陶然遣日何
 慮何思短筆不宣

勝寶元年十二月十五日 徵物下司

謹上 不仗使君紀室

別奉云云歌二首

多多佐爾母可爾母與己佐母夜都故等曾安禮波安利家
 流奴之能等能度爾
 ハリアクコロコレハタバリヌスリアクロイマハエテシ
 波里夫久路已禮波多婆利奴須理夫久路伊麻婆衣天之
 可於吉奈佐備勢牟
 宴席詠雪月梅花哥一首
 ユキノウヘニテレルツクヨニウメノハナチリテオク
 由吉能宇倍爾天禮流都久欲爾鳥梅能播奈乎理天於久
 ラムハシキコモガモ
 良牟波之伎故毛我母

昔者の誤ならんといへり元
 曆本に其辞云々者ハ作れり
 僕作囑羅ハ羅ハ羅の誤なり
 池主より家持卿へ袋を縫ひ
 てと誦へたるをいふこれよ
 りハ其厚意を謝するなり
 乞水得酒と誦へたるより
 よく袋の出來たるをいへり
 針袋詠ハ家持卿よりたこ
 せたる答歌にいふなるへし
 不仗使君の誤なり
 不仗使君本に不仗とありさ
 らハ彼徵物なれとせれハ實
 めてもかしこまり伏せぬ使
 君と誦ていふ意なるへし
 紀室ハ紀室の誤なり侍史な
 るハんか如し
 多々佐爾毛云々契沖堅さま
 にも横さまにもさにもかく
 の意ありといわれき
 等能度ハ殿月なり
 須理夫久路ハ禮袋也於吉奈
 佐備勢牟ハ翁進せんにて禮
 袋ハ老人のみ著るものにか
 あられさ自ら翁ふれハかく
 いへるなり

家持の下元曆本に作の字ありによりて補ふへし

和我勢故我云々此宴に石竹琴彈けるなるへし都禰比等能云々ハ古より琴の音ハ感て歎く事させり卷七よ琴これハあけき先立つ蓋しくも琴の下極につまやこもれるなともよめり

保與和名抄に寄生一名寓生和名夜止里木一云保夜さあるこれなるへし老木に生るものなれハ祝事に是をさせるならん保久ハ祝ふ也

安比之云々の相笑みてあらハ常ならんといふ也

右一首十二月大伴宿禰家持

ワガセコガコト、ルナヘニツ子ビトノイフナゲキシ
和我勢故我許登等流奈倍爾都禰比登能伊布奈宜吉思
モイヤヤシキマヌモ
毛伊夜之伎麻須毛

右一首少目秦伊美吉石竹館宴守大伴宿禰家持作

天平勝寶二年正月二日於國廳給饗諸郡司等宴歌一首

アシビキノヤマノコヌレノホヨトリテカザシツラク
安之比奇能夜麻能都奴禮能保與等里天可射之都良久
ハチトセホククトゾ
波知等世保久等會

右一首守大伴宿禰家持作

判官久米朝臣廣繩之館宴歌一首

ムツキタツハルノハジメニカクシツ、アヒシエミテ
牟都奇多都波流能波自米爾可久之都追安比之惠美天

婆等積自家米也母

同月五日守大伴宿禰家持作之

縁檢察墾田地事宿禰波郡主張多治比部北里之家于

時忽起風雨不得辭去作歌一首

ヤブナミノサトニヤドカリハルサメニコモリツム
夜夫奈美能佐刀爾夜度可里波流佐米爾許母理都追牟
トイモニツゲツヤ
等伊母爾都宜都夜

二月十八日守大伴宿禰

十八日一本に十一日と作れり宿禰の下官本に家持作の三字あるによりて補ふへし

夜夫奈美ハ地名なり許母理都追牟等ハ雨つとみさいふに同じく雨につとみみこもり居るをいふ

萬葉集卷第十八

萬葉集卷第十九

天平勝寶二年三月一日之暮詠桃李歌二首

見翻翔鳴作歌一首

二日攀柳黛思京師歌一首

攀折壁香子草花歌一首

見歸鴈歌二首

夜裏聞千鳥噓歌二首

聞曉鳴鳩歌二首

遙聞沂江船人唱歌一首

三日越中守大伴宿禰家持之館宴歌三首

見の下本文に飛の字あり

八月本文に八日とあれハ改むへし

過の上例によるに九日とあるへし

預本文に豫に作れり

暮ハ暮の誤なり

花の上本文に時の字あるによりて補ふへし

八月詠白大鷹歌一首并短歌

潜鷗歌一首并短歌

過澁溪崎見巖上樹歌一首

悲世間無常歌一首并短歌

預作七夕歌一首

暮振勇士名歌一首并短歌

詠霍公鳥并花歌一首并短歌

爲家婦贈在京尊母所詠作歌一首并短歌

二十三日詠霍公鳥作歌二首

贈京丹比家歌一首

二十七日追和筑紫太宰之時春花梅歌一首

詠霍公鳥歌二首

四月三日贈越前判官大伴池主霍公鳥歌不勝感舊之意述懷歌一首并短歌

不飽感霍公鳥之情述懷作哥一首并短歌

四月五日從京師贈來歌一首

詠山振花歌一首并短歌

六日遊覽布勢水海作歌一首并短歌

九日贈水鳥越前判官大伴池主歌一首并短歌

詠霍公鳥并藤花二首并歌短

鳥ハ鳥の誤なり

海の下船泊多枯樽の三字あり

更怨霍公鳥咲晚歌三首

贈京人歌二首

十二日遊覽布勢水海望見藤花各述懷詩四首

恨霍公鳥不喧歌一首

見攀折保寶葉歌二首

守大伴家持仰見月光歌一首

二十二日大伴家持贈判官久米廣繩霍公鳥怨恨歌一首并短歌

首并短歌

二十三日掾久米廣繩和家持作歌一首并短歌

五月六日大伴家持同處女墓歌一首并短歌

仰見の上本文に還時濱上の四字あり

廣繩の下本文詠霍公鳥さあり
同處女墓本文に追和處女云々あり

予ハ昂の誤あり
母の下本文に愚の字あり

贈京丹比家歌一首

二十七日大伴宿禰家持予聳南右大臣家藤原二郎之

喪慈母挽歌一首并短歌

霖雨晴日作歌一首

見漁夫火光歌一首

六月十五日見芽子早花歌一首

大伴氏坂上郎女從京師來賜女子大嬢歌一首并短歌

九月三日宴歌二首

幸吉野宮時皇后藤原皇右御作歌一首

十月十六日餞朝集使少目秦伊美吉石竹時大伴家持

并ハ芽の誤也

皇后二字衍文にて皇右ハ皇
后の誤なり

大伴の上守の字あるへし

三形云々此目錄誤れり左註に三形沙彌承贈左大臣藤原北郷之語作誦之也云々此あれは其まにありへき也

拯ハ接の誤かり本文に于時種雪云々の端詞ありこいハ署ける也

作歌一首

十二月大伴家持雪日作歌一首

三形沙彌贈左大臣歌二首

天平勝寶三年正月二日零雪殊多守大伴宿禰家持館

宴歌一首

三日介内藏忌寸繩麻呂館宴樂時大伴家持作歌一首

同日拯久米朝臣廣繩作歌一首

遊行女婦蒲生娘子歌一首

同日酒酣更深鷄鳴内藏伊美吉繩麻呂作歌一首

守大伴家持和歌一首

太政大臣藤原家之縣犬養命婦奉天皇歌一首

悲傷死妻歌一首并短歌

二月二日判官久米廣繩以正稅帳應入京師仍大伴家

持作歌一首

四月十六日大伴家持詠霍公鳥歌一首

春日祭神日藤原太后賜入唐大使藤原朝臣清河御作

歌一首

大使藤原朝臣清河歌一首

大納言藤原家餞入唐使歌三首

天平五年贈入唐使歌一首并短歌

二日本文に三日とあり

守の下大伴二字あるほし

錢の上饗の字あるべし

五日平旦の下文に上道仍
國司次官以下云々の端詞あ
りこゝにハ畧ける也

阿倍朝臣老人遣唐時奉母悲別歌一首

七月十七日越中守家持時遷任少納言作悲別歌贈貽

朝集使掾久米廣繩館二首

八月四日内藏伊美吉繩麻呂館設國厨之餞大帳使大

伴家持時家持作歌一首

五日平旦大帳使大伴家持和內藏伊美吉繩麻呂捧盞

歌一首

正稅使掾久米朝臣廣繩事畢退任遇越前國掾大伴池

主館時久米廣繩詠芽子花作歌一首

大伴家持和歌一首

作の下歌の字を脱せり

閏三月の上天平勝寶四年さ
あるへ古慈悲の上大伴の
氏を脱せり

澤蘭の下文より一株抜取令
持内侍佐々山君云々さあ
るなこゝにハ略ける也

向京路上依與預作侍宴應詔歌一首并短歌

爲壽左大臣橘卿預作一首

十月二十二日於左大辨紀飯麻呂朝臣家宴哥三首

壬申年亂平定以後歌二首

閏三月於衛門督古慈悲宿禰家餞之入唐副使同胡麻

呂等歌二首

高麗朝臣福信遣難波賜肴酒入唐使藤原朝臣清河等

御歌一首并短歌

大伴家持爲應詔儲作歌一首并短歌

天皇后共幸於大納言藤原卿家時賜黃葉澤蘭於大

大雪の下文に積尺有二寸
さあるをこいには略ける也

納言藤原卿并陪從大夫御歌一首

十一月八日太上天皇於左大臣橘朝臣宅肆宴歌四首

二十五日新嘗會肆宴應詔歌六首

二十七日林王宅餞但馬按察使橘奈良麿朝臣宴歌三首

五年正月四日於治部少輔石上朝臣宅嗣家宴歌三首

十一日大雪述拙懷歌三首

十二日侍内裏聞千鳥喧歌一首

二月十九日於左大臣橘家宴見攀折柳條歌一首

二十三日依輿作歌二首

二十五日詠鶴鳴歌一首

春苑紅爾保布云々花の如
き少女の桃花の下に出立た
るも花も少女も艶をました
るさま也
波太禮能云々ハ雪の斑に殘
りたる也

羽の字一本になし
羽振ハ羽を振るをいふ下に
羽扇も羽たれハこももは
ふりさも羽へし須牟元曆本
に順牟さありはむと訓へし
張流ハ柳の芽の張りいでた
るをいふ京の大略の柳を思
ひ出てよめる也
抱亂ハあまたの女の汲むさ
て往かふさまをいふ寺井ハ
寺の井かまたハ地名也
聖香子之花六帖木の部に
たつしの花さよみて載たり
仙覺抄云々たかこさ訓へし
春花咲草也其花の色ハ紫也
さいへり賀茂翁云越の國に
てハかた陸奥の國よてハ
の如く葉ハたいへり根ハ百合
の如く葉ハたいへり根ハ百合

天平勝寶二年三月一日之暮眺隔春苑桃李花作歌二首

春苑紅爾保布桃花下照道爾出立妓孀

吾園之李花可庭爾落波太禮能未遠有可母

見飛翔鳴作歌一首

春儲而物悲爾三更而羽振鳴志藝誰田爾加須牟

二日攀柳黛思京師歌一首

春日爾張流柳乎取持而見者京之大路所思

攀折堅香子草花歌一首

物部能八十乃媼孀等之抱亂寺井之於乃堅香子之花

見歸鴈歌二首

て花も一もさ立て董の如く
 うす紫也これかき云はれた
 る物あり六帖に木の部に入
 れたるはたはつかなし
 燕來云々月令に孟春之月
 雁來是月也支鳥至註云支鳥
 燕也さあり和名抄に燕和名
 豆波久良米自雁小鳥也さ見
 夜具多知爾ハ夜更けたるに
 也情毛之奴爾ハ聞人の心も
 句へかけて見るべし
 字倍之許會云昔より千鳥
 の聲をあげられさひ來れる
 今よふかく聞て思ひあは
 せたる也
 相野越中なるへし左乎騰流
 乎さの發語よて踊る也本居
 翁云四の句の語勢を思ふに
 煙のいちしるく鳴をさかめ
 たる意にて際要さハ設てい
 へる也腰なれハいかし思
 へハさてもかくいちらるく
 鳴へさ事ハさささいはるく
 たるさもあるへし
 八峯ハ峰の重れるをいふ
 浙ハ浜の誤なり

ツバメクレトキニナリメトカリガ子ハケニオモヒツトクモガクリナク
 燕來時爾成奴等鴈之鳴者本郷思都追雲隱喧
 ハルマケテカクカヘルトモアキカゼニモミテムヤマチコエコザラメヤ
 春設而如此歸等母秋風爾黄葉山乎不超來有米也
 一云春去者歸此鴈
 ハルサレバカヘルコノカ
 夜裏聞千鳥喧歌二首
 ヨグタチニ子ザンテナレバカハセトモコロモシメニナクチドリカモ
 夜具多知爾寢覺而居者河瀬尋情毛之奴爾鳴知等理賀毛
 ヨグタチテナリカハチドリウベシコソムカシノヒトモシメビキニケリ
 夜降而鳴河波知登里宇倍之許會昔人母之奴比來爾家禮
 聞曉鳴鳩歌二首
 スキノヌニサチナドルキシイチシロク子ニシモナカムコモリツマカモ
 相野爾左乎騰流鳩灼然啼爾之毛將哭已母利豆麻可母
 アシビキノヤツチノキバシナキトヨムアサケノカスミレバカナシモ
 足引之八峯之鳩鳴響朝開之霞見者可奈之母
 遙聞浙江船人唱歌一首

朝床爾ハあしたまた超出さ
 るほごふるをいへり

アサドコニキケバハルケシイミツガハアサコギシツウタフフナビト
 朝床爾聞者遙之射水河朝已藝思都追唱船人

三日守大伴宿禰家持之館宴歌三首

ケフノタメトオモヒテシメシアシビキノナノヘノサクラカクサキニケリ
 今日之爲等思標之足引乃峯上之櫻如此開爾家里

オクヤマノヤツチノツバキツバカラカニケフハクヲサ子マストラチ
 奥山之八峯乃海石榴都婆良可爾今日者久良佐禰大夫

ノトモ
 之徒

カラビトモフチウカベテアソアトフケフソラカセコハナガツラセヨ
 漢人毛絨浮而遊云今日曾和我勢故花縵世余

八日詠白大鷹歌一首并短歌

安志比奇能云々二句ハウキ
 カへるさいハん序也

アシビキノヤマサカコエテユキカヘルトシノチナガクシナザカルコシニシ
 安志比奇能山坂超而去更年緒奈我久科坂在故志爾之

スメバオホキミノシキマスリニハミヤコチモコハモオヤシトコロニ
 須米婆大王之敷座國者京師平母此間毛於夜自等心爾
 ハオモフモノカラカタリサケミサクルヒトメトモシミトオモヒシシゲシソ
 波念毛能可良語左氣見左久流人眼乏等於毛比志繁會

語左氣云々ハ言ひて心を遣
 り見て心なやると云意也

馬太伎由吉氏ハ馬に乗り手綱をたくりせきて也

毛由其附ハハ真にて白ハ玉の鳴る音をいふハの詞下ハつくへし

伊伎藤保流ハ字鏡に怕伊支度保留又伊多彌字禮不又怡伊支止呂志とあり

字禮之備奈我其ハ嬉しく思ふまにさいふ意にてなからハ隨の意なり

都麻屋之内爾云々ハ奥深く屋の内にとくら立てすゑれくさ也白部ハ白節の意よて今切生ささいへり

飼久ハかふなのへてかばくさいふさり

花耳ハ耳ハ開の誤なるへし

群ハ越中ふり等母奈倍伴ふハしむる意也さて越前越中にてハ多川へたりたりて鶴を飼ふも今武藏の多摩川荒川なも川瀬渡けれハまかせりよりてなつさひひけハさいひひ衣の裾もさほりてぬれぬさよめり

看元層本に眷に作れるをよじす眷一にみれさあわぬ吉野の河の常滑のたのむるこさなくまたカヘリ見んさいへるよりよまれし也

磯上之ハ石をいそさもいへさこハ磯のあたりをいふ都萬麻ハ知られず樹名云々と註せるからハ越にのみある木さ見ハ年深有之ハ年久しきないふ

コユエニコトコナグヤトアキツクバハギサキニホフイハセメニウマ
巳由惠爾情奈具也等秋附婆芽子開爾保布石瀬野爾馬
太伎由吉氏乎知許知爾鳥布美立白漆之小鈴毛由良爾
安波勢也里布里左氣見都追伊伎騰保流許已呂能字知
平思延字禮之備奈我良枕附都麻屋之内爾鳥座由比須
惠氏會我飼真白部乃多可

反歌

矢形尾乃麻之路能鷹乎屋戸爾須惠可伎奈泥見都追飼
久之余志毛

潜鷗歌一首

荒玉能年往更春去者花耳爾保安布之比奇能山下響墮

多藝知流群田乃河瀬爾年魚兒狹走嶋津鳥鷗養等母奈
倍可我理左之奈津左比由氣波吾妹子我可多見我氏良
等紅之八鹽爾染而於已勢多流服之欄毛等寶利氏濃禮奴

反歌

紅衣爾保波之群田河絶已等奈久吾等看牟
每年爾結之走婆左伎多河鷗八頭可頭氣氏河瀬多頭禰牟
季春三月九日擬出學之政行於舊江村道上屬目物花
之詠并與中所作之歌

過澁溪埜見巖上樹歌一首樹名都萬麻

磯上之都萬麻乎見者根乎延而年深有之神佐備爾家里

奈我其倍伎多禮ハ卷十八に
きよき其名を古よ今のなつ
つにながさへるご云るに同
しくまか習ひ來れるご云意
けりさて來たれハのハを略

紅能云々紅顏の變るなにいふ

朝之咲云々ハ榮えたるハ衰
ふる習ひをいふ
吹風能云々卷十五挽歌に行
水のハへらぬ如くふく風の
見ぬわか如くごもよめり

常乎奈美許曾ハ世の常をさ
にこそまかハあれごいふ意
なり

情都氣受氏ハ則執着せぬ意
念ハ世間の有様を觀念す
る意なり

刀爾ハ時にの略也本居翁云
さハ此詞集中に多し刀ハ
外にて俗言に内さいふに同
意也外さい内さい反對なるよ
同意さいへる故ハ彼方此方
より主としていへハ同意
になりましてゆく也こハ管
の方を内にしてふけゆくを
外さいいへりご猶考へし

寶ハ寶の誤なり
於保呂可爾ハ疎かになり
其子奈禮夜母ハ家持卿みつ
からなまされていへり
し投矢ハなくるささいふに同
し投る射道也

悲世間無常歌一首并短歌

アメツチノトホキハツメヨノナカハツ子ナキモノトカタリツギナガラヘキタレ
天地之遠始欲俗中波常無毛能等語續奈我良倍伎多禮
アマノハラフリサケミレバテルツキモミチカケシケリアシビキノヤマノコ
天原振左氣見婆照月毛盈吳之家里安之比奇能山之木
メレモハルサレバハナサキニホヒアキツケバツユシモオヒテカセマヅリモミヤ
未毛春去婆花開爾保比秋都氣婆露霜負而風交毛美知
チリケリウツセモカクノミナラシクナ井ノイロモウツロ
落家利宇都勢美母如是能未奈良之紅能伊呂母宇都呂
ヒメバタマノクロカミカハリアサノエミユフベカハラヒラケカヒノミエ
比奴婆多麻能黑髮變朝之咲暮加波良比吹風能見要奴
ガゴトクユクミツノトマラメゴトクツ子モナクウツロフミレ
我其登久逝水能登麻良奴其等久常毛奈久宇都呂布見
バニハタヅミナガルナミダトドメカ子ツモ
者爾波多豆美流滯等騰米可爾都母

反歌

コトハメキスラハルサキアキツケバモミヤハラクハツ子チナミ
言等波奴木尙春開秋都氣波毛美知遲良久波常平奈美

許會

一云常無牟等會
ツチナケムトソ

宇都世美能常無見者世間爾情都氣受氏念日曾於保伎

一云嘆日曾於保吉
ナゲクヒソオホキ

豫作七夕歌一首

妹之袖和禮枕可牟河湍爾霧多知和多禮左欲布氣奴刀爾

慕振勇士之名歌一首并短歌

チチノミノチノミコトハハソバノハノミコトオホロ
知智乃寶乃父能美許等波播蘇葉乃母能美已等於保呂
カニコ、ロツクシテオモフラムソノコナレヤモスラヤムナシクアルベキ
可爾情盡而念良牟其子奈禮夜母丈夫夜無奈之久可在
アツサユミスエフリガコシナグヤモチチヒロイワタシツルギタチコシ
梓弓須惠布理於許之投矢毛知千尋射和多之劔刀許思

左之席久流ハ差任る也さて
さし任る情障らすの二句
ならす句の脱たるならん
後代乃の後の代の人さ
んが如し

追加云々卷六憶真の歌に
のこりし空しりるへき萬世
に語續くへき名いたすし
てさいへるに追和せる也

有争波之爾ハ争ふ間に也
て花鳥をめてあらそふ中
専らものには郭公をい
さてなり有ハ相の誤なら
かさ畧解いへり水居翁
争ハ來の誤にてありくる
ふしさいはれき猶考へし

許能久禮罷ハ木の暗闇なり
水居翁ハ罷ハ能の誤ならん
といはれたり
欲其母理爾ハ夜籠也
別之云々卷九に驚のかひ
の中郭公ひり生れて
し詠り宇都之ハ愛くしの畧
ふるへし本居翁ハ現しなら
んさいはれたり眞子ハまな
子さいふに同じく實の子を
いふ

不相日ハ開かぬ日さいはん
か如し
毎年云々此注元暦本活本に
なくて元暦本にハさしこ
にさ点せり

家婦ハ坂上大娘房母ハ大伴
坂上耶女也
笑ハ笑の誤なり
於夜能御言ハ字の如く親の
御言ふり賀茂翁の御言ハ命

ニトリハキアシビキノヤツチ
爾等理波伎安之比奇能八峯布美越左之麻久流情不障
ノチノヨノカタリツグベクナナタツベシモ
後代乃可多利都具倍久名乎多都倍志母

反歌

丈夫者名乎之立倍之後代爾聞繼人毛可多里都具我爾

右二首追和山上憶良臣作歌

詠霍公鳥并時花謂一首并短歌

トキゴトニイヤメヅラシクヤチケサニクサキハナサキナクトリノコエ
毎時爾伊夜目都良之久八千種爾草木花左伎喧鳥乃音
モカハラフミニキメニミルゴトニウチナゲキシナエウラア
毛更布耳爾聞眼爾視其等爾宇知歎之奈要宇良夫禮之
ヌビツ、アラソフハシニコノクレヤミウツキシタテバヨゴモリ
努比都追有争波之爾許能久禮罷四月之立者欲其母理
ニナクホト、ギスムカシヨリカタリツギツルウケヒスノウツシマコカ
爾鳴霍公鳥從古昔可多理都藝都流罵之宇都之眞子可

モアヤメグサハナタチバナチナトメラヤタマヌクマデニアカチサスヒルハツメラ
母菖蒲花橘乎嫩嬌良我珠貫麻泥爾赤根刺晝波之賣良
ニアシビキノヤツチトビコエヌバタマノヨルハスガラニアカトキノツキニ
爾安之比奇乃八丘飛超夜于玉之夜者須我良爾曉月爾
ムカヒテユキカヘリナキトヨムレドイガバアキタラム
向而往還喧等余牟禮杼何如將飽足

反歌二首

トキゴトニイヤメヅシクサクハナチナリモナラズモミミラクシヨシモ
毎時爾米頭良之久咲花乎折毛不折毛見良久之余志母
トシノハニキナクモノユエホト、ギスキケバシヌバクアハヌヒチガ
毎年爾來喧毛能由惠霍公鳥聞婆之努波久不相日乎於
ホミ保美毎年爾之等之乃波

右二十日雖未及時依與豫作也

爲家婦贈在京尊母所詠作歌一首并短歌

ホト、ギスキナクサツキニサキニホフハナタチバナノカガハシミカヤノミコトアサ
霍公鳥來喧五月爾笑爾保布花橘乃香吉於夜能御言朝

にて聞ハ關の誤にてかけぬ
日まねくさ訓んさいはれた
るハ中々にわろし

真珠乃ハうるはしき面をい
はんとて冠らせたり
松柏ハ和名抄に柏一名柏
和名加開柏實一名榧子なご
いへるにて今かやさいへる
木也へさやさいは通はさるな
後に訛れるなるへしさて唐
土にてハ松柏さついでて常
葉ある事にいへハ今かくよ
める也

君乎ハ親をさしていへり
伊家流等毛奈之集中多く
けりともふしよめるに同
し水居翁ハそれハ異にて
等ハ利心のさし同しく集中
心神もふしよめけるもいけ
るさもふしよめけるもいけ
き猶考へし

常人毛ハ我のみならず世の
人もさいふ意也さて立夏に
必鳴へきものさしてよめり
草等其半云々ハ水居翁云凡
て鳥の木の枝にさまるを草
さるさいひてこハ郭公のさ
まるへき花橘を宿にうめん
物を植ゑすして今海る意也
さいハれき巻十月夜よみ鳴
郭公見まくほり吾草されり
見人人もさある所にも
いへり合せ見るへし
奈具流ハ慰むなり

花ハ苑の誤なり
樂終者ハこハ樂しき事の
きハみハこハ愈あるへし
呼伎ハ水居翁云置きてハ
かな違へり且ハ理もきこハ
す毛致の誤よてたをりも
つハならんの歌多かる中
む五梅の宴の歌多かる中
こそ梅を折つて来らさくし
め又梅の花折つてささる諸
人ハ今日の間に答たる也
へしこれら歌に答たる也

ヨヒニキカマヒマ子クアアマザカルヒナニシチレバアシビキノ
暮爾不聞日麻福久安麻射可流夷爾之居者安之比奇乃
山乃多乎里爾立雲乎余曾能未見都追嘆蘇良夜須家久
奈久爾念蘇良苦伎毛能乎奈吳乃海部之潜取云眞珠乃
見我保之御面多太向將見時麻泥波松柏乃佐賀延伊麻
佐禰尊安我吉美御面謂之美於毛和

反歌一首

シラタマノミガホシキミチミズヒサニヒナニシチレバ
白玉之見我保之君乎不見久爾夷爾之乎禮婆伊家流等
毛奈之

二十四日應立夏四月節也因此二十三日之暮忽思霍
公鳥曉喧聲作歌二首

ツ子ビトモオキツキクツホトギスコノアカトキニキナクハツコエ
常人毛起都追聞會霍公鳥此曉爾來喧始音

ホトギスキナキトヨマバクサトラムハナタチバナチヤドニハウエズテ
霍公鳥來鳴響者草等良牟花橘乎屋戸爾波不殖而

贈京丹比家歌一首

イモチミズコシノクニベニトシフレバワガコロドノナグルヒモナシ
妹乎不見越國徹爾經年婆吾情度乃奈具流日毛無

追和筑紫太宰之時春花梅詞一首

ハルノウチノタメシキチハバウメノハナタチリチキツアソブニアルベシ
春裏之樂終者梅花手折乎伎都追遊爾可有

右一首二十七日依興作之

詠霍公鳥歌二首

ホトギスイマキナキソムアヤメガサカラクマデニカルヒヒアラ
霍公鳥今來喧會無葛蒲可都良久麻泥爾加流流日安良
米也

毛能波云々此の三の首を除きてよめる也古今集に同しもしなき歌ふさいふ類ありさて次の歌も六言歌になしされはれつからにあらはて殊更に除たる也此六言専ら助辞に用ふる言にてこれを除てはよみかたき故にへりて除きたるにやあらん

念鴨ハ元曆本に念鴨に作りてれもひのへさ点せり然るへし見奈疑之ハ見て心を利せしといふ意也
八峯附波云々ハ家持卿池主も同しく越中に在りしな今池主越前椽にて隔り居るよしをかくいへり
利波山ハ越中なり
萬浦云々ハ五月まで鳴けさふ意なり
安寝不令宿云々ハ獨ほささすを聞てさひしさに堪へぬあまりに池主か住む方へ飛行て池主心なをも動さ

しめよと郭公にまほする如くによめる也

丹生之山越前丹生郡丹生郷あり鴨附毛の附ハ奈の誤にてなかなもさあるへし
由米情在ハつこめて心ありて鳴けしと也右の長歌の末句と意同し

昌浦の昌ハ昌の誤あるへし可頭良の下沼ハ衍文あり麻の下の字元曆本に泥に作れるそよきさて此ハ六帖の小長歌さいへる類なり

毛能波三箇辭闕之

ワガカドユナキスギワタルホトトギスイヤナツカシクキケドアキタラズ我門從喧過度霍公鳥伊夜奈都之久離聞飽不足

毛能波氏爾乎六箇辭闕之

四月三日贈越前判官大伴宿禰池主霍公鳥歌不勝感

舊之意述懷一首并短歌

ワガセコトテタツサハリテアケクレバイデタチムカヒユフサレバフリサケミツトオモ和我勢故等手携而曉來者出立向暮去者振放見都追念
ヒノベミナギシヤマニヤツチニハカスミタナビキタニベニハツバキ
鳴見奈疑之山爾八峰爾波霞多奈婢伎谿敵爾波海石榴
ハナサキウラガナシハルシスグレバホトトギスイヤシキナキメヒトリノミケケバサア花咲宇良悲春之過者霍公鳥伊也之伎喧奴獨耳聞婆不
シロキミトワレヘダテコフルトナミヤマトヒコユキテアケタマツノサエダ
伶毛君與吾隔而戀流利波山飛超去而明立者松之佐枝
ニホフサラバツキニムカヒテアヤメグサタマクマテニキトヨメヤスイシナザス爾暮去者向月而萬浦玉貫麻泥爾鳴等余米安寝不令宿

君乎奈夜麻勢

反歌

ヒトリノミケケバサアシモホトトギスニフノヤマベニイユキナクニモ吾耳聞婆不伶毛霍公鳥丹生之山邊爾伊去鳴爾毛
ホトトギスヨナキナシツワガセコナヤスイシナスナユメコノロアレ
霍公鳥夜喧乎爲管我世兒平安宿勿令寢由米情在

不飽感霍公鳥之情述懷作歌一首并短歌

ハルスギテナツキムカヘバアシビキノヤマヨヒトヨメサヨナカニナクホトト春過而夏來向者足檜木乃山呼等余米左夜中爾鳴霍公
ギスハツコエチケケバナツカシアヤメグサハナタチバナチヌキマツヘカツラクマ鳥始歸乎聞婆奈都之昌浦花橋乎貫交可頭良沼久麻
テニサトヨミナキワタレドモナホシメバユ而爾里響喧渡禮騰母尙之努波由

反歌三首

サヨフケテアカトキクニカゲミエテナクホトトギスケケバナツカシ左夜深而曉月爾影所見而喧霍公鳥聞者夏借

網取爾ハ網にてさるをいふ
來向夏ハ來ん年の夏をいふ

從京師云々ハ此末に此答歌
二首ありてその註は此歌
ハ京の家より越中の家持卿の妻
へ贈れるよし見ゆ
妹乎ハ家持の妻則娘をさせ
るなりされハ女ハ互いも
さいふ例ふるへし男さち互
に吾せこさいふか如し
留の下女ハ郷々京の誤ふる
へし良ハ耶の誤なり

折毛不折毛云々山吹を折て
も愛て折らすしても見て心
を慰まんさ也さてかく情を
慰まんとして植れハ中々に見
る毎に念ハやむことなかくて
教のまけきさ也

ホトトギスキケドモアカズアミドリニトリテナヅケナカレズナクガ子
霍鳥公雖聞不足網取爾獲而奈都氣奈可禮受鳴金
ホトトギスカヒトホセラフコトシヘテキムカフナツハマツナキナムナ
霍公鳥飼通良婆今年經而來向夏波麻豆將喧乎

從京師贈來歌一首

ヤマアキノハナトリモテツレモナクカレニシイモナシメビツル
山吹乃花執持而都禮毛奈久可禮爾之妹乎之努比都流
カモ
可毛

右四月五日從留女之女良所送也、

詠山振花歌一首并短歌

ウツセミハコヒナシゲミトハルマケテオモヒシゲケバヒキヨゲアチリモチ
宇都世美波戀乎繁美登春麻氣氏念繁波引攀而折毛不
ラズモミルゴトニコ、ロナギムトシゲヤマンタニベニオフルヤマアキチヤドニ
折毛每見情奈疑牟等繁山之谿敵爾生流山振乎屋戸爾
ヒキウエテアサツユニホヘルハナチミルゴトニオモヒハヤマズコヒシシゲシモ
引植而朝露爾仁保敵流花乎每見念者不止戀志繁母

江家二字元曆本にふし尤削
去るべし

江家

反詠

ヤマアキチヤドニウエテハミルゴトニオモヒハヤマズコヒコソマサレ
山吹乎屋戸爾植氏波見其等爾念者不止戀己曾益禮

六日遊覽布勢水海作歌一首并短歌

許能久禮ハ木の下暗を云禮
の下乃を脱せるかきて木の
暗の如くといふをこめて繁
き思さいひ下したり
都良奈米ハ連並也
乎布能浦垂姫共越中也
及々爾云々ハ此所を重々に
見まほしく戀ふる心ハまさ
れども飽くよしハなし也

オモフドチマストラナノコノクレンシゲキオモヒサミアキラメコ、ロヤラムトフ
念度知大夫能許能久禮繁思乎見明良米情也良牟等布
セノウミニナアチツヲナメマカイカケイコギメグレバナ
勢乃海爾小船都良奈米真可伊可氣伊許藝米具禮婆乎
フノウラニカスミタナヒキタルヒメニフヤナミサキテハマキヨクシラナミサラ
布能浦爾霞多奈妣伎垂姫爾藤浪咲而濱淨久白浪左和
ギシクノ、ニコヒハマサレドケフノミニアキタラメヤモカクシコソイヤ
伎及及爾戀波未佐禮杼今日耳飽足米夜母如是已曾彌
トシノハニハルバサノシゲキサカリニアキノハノモミゲノトキニアリガヨヒミ
年能波爾春花之繁盛爾秋葉能黃色時爾安里我欲比見
ツ、シメバメコノフセノミナ
都追思努波米此布勢能海乎

こゝにも反歌さあるへし
花也の也ハ添て書るのみ

吾聞都我受ハ一たひ聞て後
間繼ぬさいよ也よりて端詞
に更怨さ書り花波ハ上の藤
の花ないへり
伊頭敵ハいつれにむふし
月立之ハ立夏よて四月の節
四月ついたちにあらずさ契
沖いハれたり
乎伎ハ招くの古語なり郭公
の來へき舞なを設けて招
くないへるにやあらんさ畧
解にいへり自ハ四の誤なる
へし
贈京人ハ上に從京師贈來さ
いへる歌あり其答歌なり
妹爾似云々卷七に君に似る
草と見るよりわかまめし野

山の淺茅人なかりそれさあ
るに似たり
都禮母奈久云々吾をつれな
しと妹ハいへさの意也上
の贈歌の三四の句にあて
こたへたり
留女の女ハ上にもいへる如
く郷の京の誤ふるへし家婦
ハ家持類の妻也

多祐ハ元曆本に多祐に作れ
るに従ふへし

影成ハ陸なる也

祐また祐の誤なり

ホト、ギスナクハアリニモチリニケリサカリスグラシフサナミノハナ
霍公鳥鳴羽觸爾毛落爾家利盛過良志藤奈美能花

一云落奴倍美袖爾古伎禮都藤浪乃花也

同九日作之

更怨霍公鳥咲晚歌三首

ホト、ギスナキワタメトツグレドモワレキ、ツガズハナハスギツ、
霍公鳥喧渡奴等告禮騰毛吾聞都我受花波須疑都追
ワガコ、ダシメバクシラニホト、ギスイツベノヤマチナキカユコラム
吾幾許斯奴波久不知爾霍公鳥伊頭敵能山乎鳴可將超
ツキマナシヒヨリナギツ、ウチシメヒマテドキナカヌホト、ギ
月立之日欲里乎伎都追敵自努比麻低騰伎奈可奴霍公
鳥可母

贈京人歌二首

イモニニルクサトミシヨリワガシメシノベノヤマアキタレカタナリシ
妹爾似草等見之欲里吾標之野邊之山吹誰可手乎里之

ツレモナクカレニシモノトヒトハイヘドアマヒマ子ミオモヒ
都禮母奈久可禮爾之毛能登人者雖云不相日麻爾美念
ゾワガスル
曾吾爲流

右爲贈留女之女郎所詠家婦作也

女郎者即大伴家持之妹

十二日遊覽布勢水海船泊於多祐灣望見藤花各述懷

作歌四首

フサナミノカゲナルウミノソコキヨミンツクイシチモタマトゾワガミル
藤奈美能影成海能底清美之都久石乎毛珠等曾吾見流

守大伴禰宿家持

タコノウラノソコサヘニホフフサナミチカザシテユカムミメ
多祐乃浦能底左倍爾保布藤奈美乎加射之氏將去不見
ヒトノタメ
人能爲

伊佐左可爾ハカリのソメにノ意ナリ祐また祐の誤なり

海の波をさするさまなくもて書りさて藤の陸を假慮ひなして流なさするみやひなもまらずして世の常の海人と人の見るらんこ也

家爾去而云々是も右に同し時の歌なるへし

保寶葉和名抄に本草云厚木一名厚皮楊氏漢語抄云厚木保々加之波乃木とあり今ほをのきこいふ也

安多可毛ハ甚く似たる事三位以上蓋なり青蓋儀制令にて一位ハ深緑とあり事見ゆ葉廣きものされはく云り御代三世ハ御代々の意なり射布折ハいハ御代々の意なり物を盛るに木の葉を折敷し也本居翁云布折下上に誤れるカそれも猶酒飲むにハまくこいふ事いハ二の句ハ布ハ誤らんカ又二の句波ハいふ音も穩なられハ三の句へつきて猶誤字あるへしこいはれき猶考へし

月夜安伎氏半ハ月をあくまて見んこ也停息ハさめよの意也此例古言に多し未ハ末の誤なり

怨恨の上の歌の字官本にふきなしこす

次官内藏忌寸繩麻呂

伊佐左カニ可爾オモヒ念テ而来之乎多祐乃浦爾開流藤見而一夜可經

判官久米朝臣廣繩

藤奈美フナミ乎ナ借カ盧ホ爾ニ造ツ灣ク廻リ爲ス流ヒ人ト等ハ波シ不知ラ爾ニ海部等カ見ラ良牟

久米朝臣繼麻呂

恨霍公鳥不喧歌一首

家爾去而奈爾乎將語安之比奇能山霍公鳥一音毛奈家

判官久米朝臣廣繩

見攀折保寶葉歌二首

吾ガ勢セ故コ我ガ棒サ而持流テ保モ寶ル我ノ婆ハ安タ多カ可モ似ル加カ青キ蓋ガ

講師僧惠行

皇祖スメロ神ギ之ノ遠ト御ホ代キ三ミ世ヨ波ハ射イ布シ折キ酒リ飲サ等ケ伊ト布イ曾フ此コ保ホ寶イ我ガ之ハ波ハ

守大伴宿禰家持

還時濱上仰見月光歌一首

之シ夫ア多タ爾ニ乎ナ指サ而テ吾ワ行カ此ユ濱ク爾ノ月ハ夜マ安ニ伎ク氏ヨ半ア馬キ之テ未ム時ウ停マ息シ

守大伴宿禰家持

二十二日贈判官久米朝臣廣繩霍公鳥歌怨恨歌一首

并短歌

垣津能給くれなごひ廻
らしたる所をいふなるへし
櫛ほりさ訓て今は人の木さ
いふものありと畧解にいへ
り或云はきさ訓へしと
殖木橋の庭に種ふたる櫛を
いふなり
時乎麻多之美は此時四月さ
れは櫛の花の咲散時を待さ
てなつわの恨みそこいふ意
か本居翁云後世に未しきさ
いふと同言さきとさいはれ
たり猶考へし

許太加久氏ハ木高くてなり
伎可麻久保理登ハ聞かん事
を欲すてと也

安之太附の太ハ濁音に用ふ
る字あるを此ハ清音に用ひ
たりすへて比卷清濁みたり
なり

元曆本にこい反歌の二字
あるよりて補ふへし

志氣里ハ繁りにて盛さいは
んか如し

拯ハ條の誤あり

久須婆之伎ハあやしき也奇
しきさいふも同し
知勢ハ和泉宇奈比ハ攝津冤
原なり
相争附上に競争登さありて
また相争さあるはいふかし
争ハ具なごの誤にてあひさ
もにさありしと
嬬嬬等之云々其男さもの妻
問たりし少女が事をきけい
悲しきと也
爾太要ハ志奈要の誤にてし
なえさかえてなるへしと賀

此間爾之氏會我比爾所見和我勢故我垣都能給爾安氣
左禮婆榛之狹枝爾暮左禮婆藤之繁爾美遙遙爾鳴霍公
鳥吾屋戸能殖木橋花爾知流時乎麻多之美伎奈加奈久
會許波不美之可禮杼毛谷可多頭伎氏家居有君之聞都
都追氣奈久毛宇之

反歌一首

吾幾許麻氏騰來不鳴霍公鳥比等里聞都追不告君可母

詠霍公鳥歌一首并短歌

多爾知可久伊徹波乎禮騰母許太加久氏佐刀波安禮騰
母保登等藝須伊麻太伎奈加受奈久許惠乎伎可麻久保

理登安志太爾波可度爾伊氏多知由布徹爾波多爾乎美
和多之古布禮騰母比等已惠太爾母伊麻太伎已要受
敷治奈美乃志氣里波須疑奴安志比紀乃夜麻保登等藝
須奈騰可伎奈賀奴

右二十三日拯久米朝臣廣繩和

追和處女墓歌一首并短歌

古爾有家流和射乃久須婆之伎事跡言繼知勢乎登古宇
奈比壯子乃宇都勢美能名乎競争登玉剋壽毛須底氏相
爭爾嬬問爲家留嬬等之聞者悲左春花乃爾太要盛而
秋葉之爾保比爾照有惜身之莊尙大夫之語勞美父母爾

茂翁いはいれたれさうつな
 くひ定め難し考へき事也
 壯の誤あり
 火夫の云々九長歌に母
 に語らく賤手巻賤しき音
 ら大夫の争ふ見れは生り
 もあふへくあれやましくし
 るよみに待んま云々まよめ
 るよ同じ意なり
 節間毛の暫の間云々如し
 過麻之爾家禮の例のけれ
 のいを署けり
 黄楊小櫛云々小女かつけの
 櫛を土にさしたるか生榮わ
 なるへし
 生更生而枯ても又生か
 り生ひかりしてはまの如
 く麻くさ也
 安由の東風をいふさて上句
 は千重まきさいはん爲の序
 なり

マナシワカレタイヘサカリウナビニイデタチアサヨヒニミチクルシホナヤナニヒクダ
 啓別而離家海邊爾出立朝暮爾滿來潮之八隔浪爾靡珠
 モノフシノマモナシキイノチナツエツモノスギマシニケレカクツキチコトサダメ
 藻乃節間毛惜命乎露霜之過麻之爾家禮與慕乎此間定
 テノチノヨノキツグヒトモイヤトホニシメビニセヨトツゲチゲシ
 而後代之間繼人毛伊也遠爾思努比爾勢餘等黃楊小櫛
 シカサシケラシホテナビケリ
 之賀左志家良之生而靡
 ナトメラガノチノシルシトツゲチゲシホヒカハリオヒテナヒケケラシモ
 平等女等之後能表跡黃楊小櫛生更生而靡家良思母
 右五月六日依興大伴宿禰家持作之
 アユチナイタミナゴノウラフニヨスルナミイヤチヘシキニコヒ
 安由乎疾美奈吳能浦迴爾與須流浪伊夜千重之伎爾戀
 ワタルカモ
 渡可母

右一首贈京丹比家

挽歌一首并短歌

夷放云々ハ家持卿の任國に
 在るをいふ治の誤なり
 風雲爾云々かくいひて使の
 事なり
 君者云々の君ハ左註による
 に右大臣の二耶君をさせり
 宇良佐備氏云々ハ母の喪を
 愁へ歎くをいふ
 守都勢美の守ハ宇の誤なり
 珠緒之ハ命にたこへたり
 狂言ハ上々にいひ來し如く
 狂言の誤あり
 逆音の下乎ハ例によるに可
 の誤にてれよつれかこある
 へし

アメツチノハツメノトキユツソミノヤソトモノチハホキミニマツロフ
 天地之初時從宇都會美能八十伴男者大王爾麻都呂布
 モノトサダメタルツカサニシアレバスメロキノミコトカシコヒナサカルグニチサトアヒキ
 物跡定有官爾之在者天皇之命恐夷放國乎治等足日本
 ヤマカハヘダテカセリモニコトハカヨヘドタニアハズヒノカサナレバホモヒコヒキツキナルニ
 タマホコノミチケルヒトノツテゴトニソレニカタラクハシキヨシキミハコノ
 玉杵之道來人之傳言爾吾爾語良久波之伎餘之君者比
 ゴロウラサビテナゲカヒイマスヨノナカノウケクツツラケクサクハナ
 來宇良佐備氏嘆息伊麻須世間之厭家口都良家苦開花
 モトキニウツツロフウツセミモツチナケアリケリタラチ子ノミカ
 毛時爾宇都呂布守都勢美毛無常阿里家利足千根之御
 モノミコトナニシカモトキシハアラムチマツカバミミンドモアカズタマノチ
 母之命何如可毛時之波將有乎真鏡見禮杼母不飽珠緒
 ノチシキサカリニダツキリノウセメルゴトクガクツユノケメルガゴトクダマモナサナヒキコ
 之惜盛爾立霧之失去如久置露之消去之如玉藻成靡許
 イフシユクミツノトハメモエズトハコトヤヒトノイヒツルオヨツレチヒトノツゲ
 伊臥逝水之留不得常枉言哉人之云都流逆言乎人之告
 ツルアツサニミツマヒクヨトノトホトニモキケバカナシミニハタツミナガルトナミダ
 都流梓孤爪夜音之遠音爾毛聞者悲彌庭多豆水流涕留

梓弧云々梓弓爪引とありし
なつておやまれのなるへし
或は弧の字に弓別名又木
弓さあれ爪の下引の字脱し
るからん巻四に梓弓爪引夜
音の違音にもさあり遙にき
く意なり

予の吊の誤なり南の南家也
右大臣の藤原豊成にて二耶
さいへるはまられす

令國霖雨ハ長雨降て卯の花
を腐しむるを云始水逝ハ水
の出はしまる意にて始の字
なつて逝ハ義をもて添たる
か春海云逝ハ逝の誤あらん
さされと猶別へきやうある
へく誤字もあらんか考へし
木積ハ既にいへり今俗へみ
さ云ハこつみの畧也さて四
の句までハよるさいはん爲
の序也
鮪衛等云々上句ハほさいは
ん序のみ

秋風之云々六月ハ咲たる秋
なれハ秋風の吹んハ猶遠し
と也

多波比於伎底ハ貯置て也
海神ハ寶珠をいつくよしを
もてかくよめり

麻須其乎能云々其夫家持卿
の任に率て行しまいにさ也
和禮の我が何の字なこの
誤れるか我ハ濁音なれハ也
於吉都奈美云々涙のうれの
たわむ如くなるをもてかく
冠らせたるか等乎率麻欲比
伎ハ眉の形のたわみたるを
いふさて下の面影さいふへ
ついでて見へるし
意伊豆久ハ老著にて秋つく
なこのつくに同じ漸く老に
及ふないふ

トマメカ子ツモ
可禰都母

反歌二首

トホトニモキミガナゲクトキ、ツレバ子ニノミナカユアヒオモフワレハ
遠音毛君之痛念跡聞都禮婆哭耳所泣相念吾者

ヨノナカノツ子ナキコトハシルラムチコ、ロツクスナマストラチニシテ
世間之無常事者知良牟乎情盡莫大夫爾之氏

右大伴宿禰家持予聳南右大臣家藤原二郎之喪慈

母患也 五月二
十七日

霖雨晴日作歌一首

ウノハナナクダスナガメノミヅハナニヨルコツミナスヨラムコモガモ
宇能花乎令腐霖雨之始水逝縁木積成將因兒毛我母

見漁夫火光歌一首

シビクアマノトモセルイザリヒノホニカイデナムアガシタモヒチ
鮪衛等海人之燭有伊射里火之保爾可將出吾之下念手

右二首五月

ワガヤドノハギサキニケリアキカセノフカムチマタバイトトホミカモ
吾屋戸之茅子開爾家理秋風之將吹乎待者伊等遠彌可母

右一首六月十五日見茅子早花作之

從京師來贈歌一首并短歌

ワタヅミノカミノミコトノミクシゲニタクハヒガキ
和多都民能可味能美許等乃美久之宜爾多波比於伎
テイツクトフタマニマサリテガモヘリシアガコニハ
氏伊都久等布多麻爾未佐里氏於毛徹里之安我故爾沙
アレドウツセミノヨノコトワリトマスラチノヒキノ
安禮騰宇都世美乃與能許等和利等麻須良乎能比伎能
マニマニシナザカルコシガサシテハフツタノワカ
麻爾麻爾之奈謝可流古之地乎左之氏波布都多能和我
レニシヨリガキツナミトチムマヨヒキガホア子ノユ
禮爾之欲理於吉都奈美等乎牟麻欲比伎於保夫禰能由
クラユクヲニオモカゲニモトナミエツトカクコヒバ
久良由久良耳於毛可宜爾毛得奈民延都都可久古非婆

安倍平可母ハ逢まての命ハ
え堪へしこ也

之久の下志の字元曆本よふ
美奴比等吉奈久ハ見の目も
見ぬ時もなくの意ふり

宴ハ廣繩カ家の宴ふるへし

等里氏率ハ折取りてんこ也

拯ハ様の誤なり

奈良比等ハ家持卿自らない
ひ利我世故ハ廣繩なとせり

カイヅクアガミケダシアヘムカモ
意伊豆久安我未氣太志安倍平可母

反歌一首

カクバカリコヒシクシアアラバマソカバミミヒトキ
可久婆可里古非之久志安良婆未蘇可我彌美奴比等吉
ナクアラマシモノナ
奈久安良麻之母能乎

右二首大伴氏坂上郎女賜女子大嬢也

九月三日宴歌二首

コノシグレイトクナフリソラギヨコニミセムガタメ
許能之具禮伊多久奈布里曾和藝毛故爾美勢牟我多米
ニモミガトリテム
爾母美知等里氏牟

右一首拯久米朝臣廣繩作之

アチニヨシナラビトミムトワガセコガシメケムモミ
安乎爾與之奈良比等美牟登和我世故我之米家牟毛美

ナツチニガチメヤモ
知都知爾於知米也母

右一首守大伴宿禰家持作之

アサギリノタナビクタ井ニナクカリナト、メエムカモワガヤドノハギ
朝霧之多奈引田爲爾鳴鴈乎留得哉吾屋戸能波義

右一首歌者幸於吉野宮之時、藤原皇后御作、但年月

未審詳

十月五日、河邊朝臣東人傳誦云爾

アシビギノヤマノモミガニシヅクアヒテチラムヤマザナキミカコエマク
足日本之山黄葉爾四頭久相而將落山道乎公之越麻久

右一首同月十六日餞之朝集使少目秦伊美吉石竹

時、守大伴宿禰家持作之

雪日作歌一首

朝霧之云々た雁の鳴行く
を惜みて吾宿の秋ハこいむ
こもさめ得しこよみ給へ
るのみ外に深き意をこめた
るにあらず

十月云々十四字今左の歌よ
風るハ誤ふり此日東人カ家
の宴なごに誦せしこいふな
るへし
四頭久相而ハ紅葉のちる頃
時雨の翠も共に落るをいふ
越麻久ハ越えん也

此雪之云々卷二十にけのこ
りの雪にあへてん足曳の山
橋をつさにつみこなさいへ
るに大かた同し

此廻ハ大殿のめぐりないふ
敷毛ハ度々もふらぬ雪さ也
縁勿人哉ハ其めぐりにな
り近づきさ也

此廻ハ北卿の誤にて房前卿
をいふ

作元曆本ハ依り作れり
極ハ様ノ誤あり

コノユキノケノコルトキニイザユカナヤマタチ、バ、ナノミノテルモミム
此雪之消遣時爾去來歸奈山橋之實光毛將見

右一首十二月大伴宿禰家持作之

カホトノ、コノモトホリノユキナフミソ子シバノ、モフラザルユキノヤノニフリユキノ
大殿之此廻之雪莫踏禰數毛不零雪曾山耳爾零之雪曾
ユメヨルナヒトヤナフミソ子ユキハ
由米縁勿人哉奈履禰雪者

反歌一首

アリツ、モミシタマハムツカホトノ、コノモトホリノユキナフ
有都都毛御見多麻波牟曾大殿乃此母等保里能雪奈布
ミソ子
美曾禰

右二首歌者三形沙彌承贈左大臣藤原此卿之語作
誦之也聞之傳者笠朝臣子君復後傳讀者越中國極
久米朝臣廣繩是也

天平勝寶三年

アタラシキトシノハシメハイヤトシニユキフミナラシツ子カクニモガ
新年之初者爾年爾雪陷平之常如此爾毛我

右一首歌者正月二日守館集宴於時零雪殊多積有

四尺焉即主人大伴宿禰家持作此歌也

フルユキチコシニナヅミテマサリコシシルシモアルカトシノハシメニ
落雪乎腰爾奈都美氏參來之印毛有香年之初爾

右一首三日會集介内藏忌寸繩麻呂之館宴樂時大

伴宿禰家持作之

于時積雪彫成重巖之起奇巧綵發草樹之花屬此掾久

米朝臣廣繩作歌一首

ナデシコハアキサケモノナキミカイヘノユキノイハホニサケリケルカモ
奈泥之故波秋咲物乎君宅之雪巖爾左家理家流可母

常如此爾毛我ハ如此さし毎
に集宴せん事を願ふ意也

落雪乎云々訊來し勢をいふ
印毛有香ハ其かひもあるか
なノ意にて集宴にあへるを
歎ふなり
大伴の上一本に守の字あり

奈泥之故波云々雪を巖の如
く作りそれ草木の花を色
さりつくりたてたるにふり
てかくよめる也

雪嶋の池の中鳥の雪の積れ
るをいふからん右の歌と同
し時作りたる花を見て祝て
よめる也開奴可いさきてあ
れかし願ふ意也

伊麻左米也母の去よまさん
やのこ也
彌及鳴杼の重りて鳴けよ也
積許曾のつめはこそそのはな
畧きたり立可氏禰立去るに
たへす也主人に名残を惜
みて立去難くするを雪にか
こちていへるなり
縣大養の大の犬の誤なり
天皇のつれの天皇を申す
とも知れかたし
富呂爾の本居翁云散をいら
いかすさいふはらに同し
安多之の散らす意也是た
雷の勢をつよくいへる言也
さいはれき命婦大御前にて
畏り承る事ありてよめるな
るへし

無可禮もなくあるかの意也
愛うつくしき尋解に別り
吾妻離れ死せるを云きて此
句より將首爲便さいふへ續
け見るへし
光神の枕詞鳴波多盛嬌は此
妻の名を機娘といひしや
機物の音を物なれは雷の
鳴るさいふよりいひ續けた
り冠辞考に委しく云れき
又はさるいはためくさいふ
いはたさいふはたさいふへ
りさらなりはたさいふへし
木耕手次さいふより別詞さ
いふまでいふの病るより
て神に祈りし事を立返りて
いへりさて父の文の誤弊の
幣の誤なり
雲爾多奈妣久の火葬の烟を
いふ
寢爾等元曆本一層に作れる
そよきさて初二句の袖まき
てぬる事の現にてあれかし
願ふ意なり

遊行女婦浦生娘子歌一首

雪嶋巖爾殖有奈泥之故波千世爾開奴可君之挿頭爾

于是諸人酒酣更深鷄鳴因此主人内藏伊美吉繩麻呂

作歌一首

打羽振鷄者鳴等母如此許零敷雪爾君伊麻左米也母

守大伴宿禰家持和歌一首

鳴鷄者彌及鳴杼落雪之千重爾積許曾吾等立可氏禰

太政大臣藤原家之縣大養命婦奉天皇歌一首

天雪乎富呂爾布美安多之鳴神毛今日爾益而可之古家

米也母

右一首傳誦掾久米朝臣廣繩也

悲傷死妻歌一首并短歌作主未詳

天地之神者無可禮也愛吾妻離流光神鳴波多盛嬌携手
共將有等念之爾情違奴將言爲便將作爲便不知爾木綿
手次肩爾取掛倭父弊乎手爾取持而勿令離等和禮離雖
禱卷而寢之妹之手本者雲爾多奈妣久

反歌一首

寢爾等念氏之可毛夢耳爾手本卷寢等見者須便奈之

右二首傳誦遊行女婦浦生是也

二月三日會集于守館宴作歌一首

梅柳云々をかきし柳をかつ
ついでたり

許毛爾之波爾ハ里の誤にて
こもりしハハ籠りしハハの
意ならん或云爾の上里の字
を脱し波の字ハ行文にてこ
もりにしおらんさいへり

春日祭神ハ遣唐使の爲に春
日の地にて神を祭り給ひし
也此時春日四所の神社ハ未
たおき時ふれハ二月十一月
の祭をいふにあらす
参議云々九字古本になし後
人の香加へしなるへし
香子の下乎古本に等に作れ
り清河ハ皇后の御爲に御勞
なれと親しみてかくの給り

三諸ハ御室にて神をいはへ
る所をいふ四の句ハ皇后の
御事を申せり
大納言ハ契沖云魚名ハ未考
さいはれ本居翁ハ仲麻呂
らんさい云れたり
即主人云々六字古本にふし
毛能由惠爾ハ物なから意
なり
多治の下比の字を脱せり古
ハ拾遺本に土に作れるよ從
ふへし
神言等ハ恙かからん事を祈
りまなす祝詞の語の如くこ
也さいはれにの意又如くこ
いはんか如し

荒玉之云々年月長く思ひて
在りし妹に別れて戀へき時
の近つきたり也近つきハ
ハ船を發する時の近づく也
入唐使此大使ハ多治比真人
廣成也
作主未詳四字古本にふし

日入國ハ唐國をいふ唐國ハ
日彼國へ遣はしたる密に致
春日没處天子さあり

君之往若久爾有婆梅柳誰與共可吾蕩可牟

右判官久米朝臣廣繩以正稅帳應入京師仍守大伴

宿禰家持作此歌也但越中風土梅花柳絮三月初咲耳

詠霍公鳥歌一首

フタガミノナノヘノシニモニシハホトギスマテドイマダキナカズ
二上之峯於乃繁爾許毛爾之波霍公鳥待騰未來奈賀受

右四月十六日大伴宿禰家持作之

春日祭神之日藤原太后御作歌一首即賜入唐大使藤

原朝臣清河從四位

大船爾具梶繁貫此吾子乎韓國邊遣伊波敝神多智

大使藤原朝臣清河歌一首

春日野爾伊都久三諸乃梅花榮而在待還來麻泥

大納言藤原家餞之入唐使等宴日歌一首即主人卿作之

天雲乃去還奈牟毛能由惠爾念會吾爲流別悲美

民部少輔多治真人古作歌一首

住吉爾伊都久祝之神言等行得毛來等毛舶波早家無

大使藤原朝臣清河歌一首

荒玉之年緒長吾念有兒等爾可戀月近附奴

天平五年贈入唐使歌一首并短歌作主未詳

虛見都山跡乃國青丹與之平城京師由忍照難波爾久太
里住吉乃三津爾舶能利直渡日入國爾所遣和我勢能君

船乃倍爾ハ船の舳に也船騰毛爾ハ船舳なり

國家爾ハ國方也此歌の詞も大方上に出たり卷五卷六の長歌を合せ見るへし

莫越ハ起の誤にてふたちそさありしにあらざるか

天雲能云々天地の間につる斗思へる君にさなり

チカケマクノユ、シカシコキスミノエノワガホミカミフナノヘニウシ
乎懸麻久乃由由志恐伎墨吉乃吾大御船舶乃倍爾宇之
ハキイマシフナドモニミタ、シマシテサシヨラムイソノサキ、ユギハ
波伎座船騰牟爾御立座而佐之與良牟磯乃崎々許藝波
テムトマリ、ニアラキカゼナミニアハセズタヒラケケ非テカヘリマセモ
底牟泊々爾荒風浪爾安波世受平久率而可倣理麻世毛
トノクニヘニ
等能國家爾

反歌一首

オキツナミヘナミナコシソキミガフチコギカヘリキテツニハツルマデ
奥浪邊波莫越君之舶許藝可倣里來而津爾泊麻泥

阿倍朝臣老人遣唐時奉母悲別歌一首

アマゲモノソキヘノキハミワガモヘルキミニワカレムヒハチカツキヌ
天雲能曾伎能伎波美吾念有伎美爾將別日近成奴

右伴歌者傳誦之人、越中大目高安倉人種麻呂是也、
但年月次者隨聞之時、載於此焉、

極ハ條の誤なり

六載之期ハ天平十八年七月
に下り勝寶三年七月に上る
前後六年にわたれり此時國
司交替四年なるを故有て六
歳にわたれりしふるへし
勿一本に忽さあるに従ふへ
心引ハ稱徳紀宣命に天下政
方君乃勅仁在乎已可心乃比
伎比其外にも已可比伎比
伎なさあれハ心引さもいふ
へし本居翁いハれたり
始鷹狩ハ時八月ふれハ小鷹
狩ふり

以七月十七日遷任少納言仍作悲別之歌、贈貽朝集使
極久米朝臣廣繩之館二首

既滿六載之期、勿值遷替之運、於是別舊之悽心、中爵結、拭
滯之袖、何以能旱、因作悲歌二首、式遣莫忘之志、其詞曰、

アラタマノトシノチナガクアヒミテシカノコトロヒキワスラエメヤモ
荒玉乃年緒長久相見氏之彼心引將忘也毛

イハセヌニアキハギシメギウマナメテハットガリグニセズヤウカレム
伊波世野爾秋芽子之努藝馬並始鷹獵太爾不爲哉將別

右八月四日贈之

便附大帳使、取八月五日、應入京師、因此以四日、設國厨
之饌、於介内藏伊美吉繩麻呂館、餞之、于時大伴宿禰家
持作歌一首

五箇年ハ前の端詞に滿六載之期あるハ六年にわたれるをいひ今ハまさしく五年にみつるをいへり

麻呂捧盞之歌ハこゝにも事跡ハ字の加くまわさざれば其の公ハ國にての政務の事跡ハ京ハ行て申上ん事跡ハ也古事記神代ハ各對本居翁ハ古事記神代ハ各對立而度事ハ絶つ事ハ思ふ此の交ハ絶つ事ハ思ふ此の交ハ絶つ事ハ思ふ此の交ハ絶つ事ハ思ふ

立而居而云々ハ廣繩カ家持卿を待わけて主の館まで出來りて共に萩をかきしつる也也挿こゝも挿の誤也

洛ハ路の誤なり天雲爾云々神代紀に天盤船に乘りて飛降る者あり云々此の誤速日の厚の事をいへる事ハ申すなり國君之勢志氏ハ見しハ助辭にて國見し給ひて也安母里ハ天降なり安天左波受ハ天ハ夫の誤に安天左波受ハ天ハ夫の誤に安天左波受ハ天ハ夫の誤に

シナザカカルコシニイツトセスミクテタチラカレマクチシキヨヒカモ之奈謝可流越爾五箇年住々而立別麻久惜初夜可毛五日平旦上道仍國司次官已下諸僚皆共視送於時射水郡大領安努君廣嶋門前之林中預設饌餼之宴于時大帳使大伴宿禰家持和內藏伊美吉繩磨捧盞之歌一首王梓之道爾出立往吾者公之事跡乎負而之將去正稅帳使拯久米朝臣廣繩事畢退任適遇於越前國拯大伴宿禰池主之館仍共飲樂也于時久米朝臣廣繩囑芽子花作歌一首

立而居而待登待可爾伊泥氏來之君爾於是相掉頭都流波疑

向京洛上依與預作侍宴應詔歌一首並短歌蜻島山跡國乎天雲爾磐船浮等毛爾倍爾良可伊繁貫伊許藝都追國看之勢志氏安母里麻之掃平千代累爾嗣繼爾所知來流天之日繼等神奈我良吾皇乃天下治賜者物乃布能八十友之雄乎撫賜等登能倍賜食國之四方之人乎母安天左波受慈賜者從古昔無利之瑞多婢未彌久申多麻比奴手拱而事無御代等天地日月等登聞仁萬世爾記續牟曾八隅知之吾大皇秋花之我色色爾見賜明米多

を明らめ給ふをよせていへ
酒見附ハ醜醉也上に云り
江の字削り去るへし

秋時花云々長歌の末句の意
に同じ

古昔爾云々ハ諸兄卿の母夫
人縣大養ハ天武持統文武の
三代に仕奉りしをいふ君之
ハ天皇をさし奉る者大王ハ
諸兄卿也も葛城王なれハ
いへりさて今より七代政申
し給へることほきてよめり
七八の数の多きをいふのみ

手束弓ハ手よ握る故にいふ
立去一本に立之とあるをよ
しとす
多奈久良能野神名帳に山城
縣喜那棚倉神社ありそこふ
るへし

河月乎清美ハたゞ其地のけ
しきのよきをいへるのみ也
遠會伎奴ハ遠さがるさいふ
に同じさて淨見原より藤原
に都を遷されし時飛鳥に遠
り居て思ふ人ふこの便も遠

くふりし時よみておくれ
なるへし
常可時雨の常のふらハし
さいふ意にゆされと古言の
さまにあらず大平ハ常ハ零
の誤にてふれかなるへしと
いれき

壬申年之乱ハ天武天皇元年
大伴皇子との乱をいふ
赤駒之腹婆布ハ放ちけ
る馬をいふ
贈右大臣大伴卿ハ御行卿也

須太久ハ聚る也

マヒサカミヅキサカユルケフノアヤニタフトサ
麻比酒見附榮流今日之安夜爾貴左江

反歌一首

アキノハナクサハナレドイロゴトニミシアキラムルケフノタフトサ
秋時花種爾有等色別爾見之明良牟流今日之貴左

爲壽左大臣橋卿預作歌一首

イニシヘニキミガミヨヘテツカヘケリワガホキミハナ、ヨマナサ子
古昔爾君之三代經仕家利吾大王波七世申禰

十月二十二日於左大辨紀飯麻呂朝臣家宴歌三首

タツカユミテニトリモチテアサガリニキミハタ、シメタナクヲノメニ
手束弓手爾取持而朝獵爾君者立去奴多奈久良能野爾

右一首治部卿船王傳誦之、久邇京都時歌、未詳作主也、

アスカガハカハトナキヨミオクレ井テコフレンバミヤコイヤトホヅキヌ
明日香河河戸乎清美後居而戀者京爾遠會伎奴

右一首、左中辨中臣朝臣清麻呂傳誦、古京時歌也、

カミナツキシゲレノツチカワガセコガヤドノモミチバチリメベクミユ
十月之具禮能常可吾世古河屋戸乃黃葉可落所見

右一首、少納言大伴宿禰家持、當時曬梨黃葉、作此歌也、

壬申年之亂平定以後歌二首

オホキミハカミニシマセバアカゴマノハラバフタ井チミヤコトナシツ
皇者神爾之座者赤駒之腹婆布田爲乎京師跡奈之都

右一首大將軍贈右大臣大伴卿作

オホキミハカミニシマセバミツトリノスダクミヌマチミヤコトナシツ
大王者神爾之座者水鳥乃須太久水奴麻乎皇都常成都

作者不詳

右件二首、天平勝寶四年二月二日聞之、即載於茲也、

閏三月於衛門督大伴古慈悲宿禰家、餞之入唐副使同

胡曆宿禰等歌二首

由伎多良波之氏ハ足り満る
意にて行こきてさいはん
カ如し

カラクニユキタラハシテカヘリコムマストラダケナニ
韓國爾由伎多良波之氏可徹里許牟麻須良多家乎爾美
伎多氏麻都流

梳毛見自云々仙覺云人の物
へありきたる跡にハ三日ハ
家の庭をばかすつふ櫛を
見すさいふ事のおる也とい
へり

右一首多治比真人應主壽副使大伴胡磨宿禰也
クシモミツヤメチモハカシクサマクラタビユクキミチイ
梳毛見自屋中毛波可自久左麻久良多婢由久伎美平伊
ハフトモヒテ
波布等毛比氏

作主未詳

右伴歌傳誦大伴宿禰村上同清繼等是也

勅從四位上高麗朝臣福信遣於難波賜酒肴入唐使藤

原朝臣清河等御歌一首並短歌

ソラミツヤマトノクニハミシノハツチユクゴトクフ子ノハトコニナルゴトオホカミ
虛見都山跡乃國波水上波地往如久船上波床座如大神

四船ハ大使副使判官主典の
御歌ありて未句似つきたれ
ハ合せ見るへし
白香着云々本居翁云四三五
香着ハ次て心得へしさて白
くも白髪の意にハあらす白
紙をそへ付る木綿の意ふる
へし奈其の頃より木綿に
り添て白紙の切つて着
紙ふるへし云々の歌もその白
賀茂翁ハ白香付木綿を冠へし
綿の事さし着ハ御頭よ着
垂てはしませそな御頭よ着
て待んこの給ふ也鎮ハよて
今ハ前説に由るへしはれつれ
見爲ハ上に國君之勢志底ミ
あるに同し

ノイハヘルクニツヨツフ子フナノヘナラベダヒラケクハヤワタキテカヘリゴトマチヤ
乃鎮在國會四船舶能倍奈良倍平安早渡來而還事奏日
ムヒニアヒノマムミキノコトヨミキハ
爾相飲酒會斯豐御酒者

反歌一首

ヨツノフ子ハヤカヘリゴトシラガツケワガモノスソニイハヒテマタム
四船早還來等白香著朕裳裾爾鎮而將待

右發遣勅使并賜酒樂宴之日月未得詳審也

爲應詔儲作歌一首并短歌

安可流櫛ハ赤ら櫛ともよみ
て其の色付きたるを云或云
山櫛をいふへし古今集榮雅
抄に山櫛ハ世俗やぶかうじ
る草也さありと云り考へし
宇受ハ辭華よて既にいへり

アシビキノヤツチノウヘノツガノキノイヤツギクニマツガ子
安之比奇能八峯能宇倍能都我能木能伊也繼繼爾松根
能絶事奈久青丹余志奈良能京師爾萬代爾國所知等安
美知之吾大皇乃神奈我良於母保之賣志氏豐宴見爲今
フハモノノフノヤツトモノチノシマヤマニアカシタチバナウズニサシ
日者毛能乃布能八十伴雄能嶋山爾安可流櫛宇受爾指

細解放而古ハ禁中にて宴樂の時細を放ち祖きなせしなるへし
保伎吉ハほきくこ重れいふを略したるハ本居翁ハ吉ハ音の誤り云れき考へし
愚良々々附ハ神代紀に嗜樂をふるくこ訓り唯ハ大笑也
さ字書に見ゆ
江説二字後人の撥入也

天皇ハ孝謙太后ハ光明后を申す
藤原の下目録に卿の字あるに
藤原の補ふへし
深淵和名抄に陶隱居本神註云
深淵和名佐波阿良々木一之
阿加未久佐生澤傍故以名之
さあり或人葉ハ藤蔭の如く
花ハ白く岸の如く見ゆる
めもなきもの也さいへり猶考へし
御の下作の字あるへし此ハ太后の御歌歟さたつからす

ヒモトキサケテサトセホギホキトヨモシエラエラニツカマツルナ
紐解放而千年保伎保伎吉等餘毛之惠良惠良爾仕奉平
ミルカダフトラ
見之貴左 江説

反歌一首

スメロギノミヨロツヨニカクシコソシミシアキラメメタツトシ
須賣呂伎能御代萬代爾如是許會見爲安伎良目米立年
ノハニ
之葉爾

右二首大伴宿禰家持作之

天皇太后共幸於大納言藤原家之日黃葉澤蘭一株拔
取令持内侍佐佐貴山君遣賜大納言藤原卿并陪從大
夫等御歌一首

命婦誦曰

命婦誦曰

此里者云々夏の野にてさきに
見させ給ひし草の色付たる
此里ハ冬より打つとき
て霜のおけるか也
肆宴歌左の歌ハ御製ふるな
た歌さのみかけるハすへ
たをいへれハふり
余曾能未爾云々ハ此家をよ
そにのみ見てハさてありし
な也
太上天皇ハ聖武天皇也

清濱邊ハ奈良の都にての事
ふれハまこの海濱にハあ
らす橋脚の庭のけしきを云
君伎麻佐牟可ハ又も來ます
らんか也
之伎座婆可母ハ此橋脚の宅
に幸せるハ小里ハ則此
宅をいふハ小利瀬もこの
小也

コノサトハツギテシモヤオクナツノノニワガミンクサハモミゲタリケリ
此里者繼而霜哉置夏野爾吾見之草波毛美知多里家利

十一月八日在於左大臣橋朝臣宅肆宴歌四首

ヨソノミニミテハアリシナケフミレバトシニワスレズオモホエルカモ
余曾能未爾見者有之乎今日見者年爾不忘所念可母

右一首太上天皇御歌

ムグラハフイヤシキヤドモオホキミノマサムトシラバタマシカ
牟具良波布伊也之伎屋戸母大皇之座牟等知者玉之可

麻思乎

右一首左大臣橋卿

マツカゲノキヨキハマベニタマシカバキミヤマサムカキヨキハマベニ
松影乃清濱邊爾玉敷者君伎麻佐牟可清濱邊爾

右一首右大辨藤原八束朝臣

アメツチニタラハシテリテラガホホキミシキマセバカモタヌシキチサト
天地爾足之照而吾大皇之伎座婆可母樂伎小里

新嘗會職員令云大嘗會解云
 謂新嘗會以祭神祇也朝則諸
 神之神祇祭夕則供新穀於世
 尊也神祇令云凡大嘗會每世
 一年國司行事以外大嘗會所
 行事さあり古ハ大嘗會も新
 嘗さし御一世に一度あるを大
 嘗といひ毎年にあるを新嘗
 さいへり御宴ハ大嘗會畢の
 る明日群臣を召して遊宴し
 給ふを云ふ
 天地與々々ハ天地と大御代
 と共に榮えまさんさ也大宮
 乎云々大嘗宮を造る事を仕
 奉るをいふ
 巨勢朝臣ハ奈麻呂卿也
 天爾波母ハ禁中をいふはも
 ハ助辭也是ハ大嘗宮に注連
 なさばへたるを綱ハふさい
 へるなるへし其綱の長きを
 以て大御代にたさへたるを
 居翁ハ天ハ大嘗宮の屋根の木
 居翁ハ上の方をほきて云り
 二の句ハ其宮の上の方を結
 ひ固めたる綱をいふ大殿祭
 詞また神代紀天日廬宮の祭
 なさに綱根綱考ふさあるに
 て知らるさいハれき此歌然
 るへくはほい
 似古歌云々後人の書入也

右一首少納言大伴宿禰家持 未奏
 二十五日新嘗會肆宴應詔歌六首
 アンツナトアヒサカエムトオホミヤナツカヘマツレバタフトクウレ
 天地與相左可延牟等大宮乎都可倍麻都禮婆貴久宇禮
 シキ
 之伎

右一首大納言巨勢朝臣

アメニハモイホツツナハフヨロツヨニクニシラサムトイホツナ
 天爾波母五百都綱波布萬代爾國所知牟等五百都々奈
 ハフ
 波布

似古歌而未詳

右一首式部卿石川年足朝臣

アメツナトヒサシキマアニヨロツヨニツカヘマツラムクロキシロキチ
 天地與久萬氏爾萬代爾都可倍麻都良牟黑酒白酒乎

右一首從三位文屋智奴麻呂真人

シマヤマニテレルタチバナウズニサシツカヘマツルハマヘツギミタチ
 島山爾照在橘宇受爾左之仕奉者卿大夫等

右一首右大辨藤原八束朝臣

ソダタレテイザラガソノニツグヒスノコツタヒチラスウメノハナミニ
 袖垂而伊射吾苑爾器乃木傳令落梅花見爾

右一首大和國守藤原永平朝臣

アシヒキノヤマシタヒカケカヅラケルヤヘニヤサラニウメ
 足日木乃夜麻之多日影可豆良家流宇倍爾也左良爾梅

乎之奴波牟

右一首少納言大伴宿禰家持

二十七日林王宅饌之但馬案察使橘奈良麿朝臣宴歌

三首

黒酒白酒白常のすめ
 酒也黒酒ハ常山の灰を入る
 る事もあり大嘗會に用ふる
 酒也式に委し
 照在橘此もあかるさ訓へけ
 れささてハ在の字あまれり
 者ハ爲の誤にてまつらす歟
 本居翁ハ布の誤にてまつら
 ふならんさいハれき
 利垂而ハサノニツグヒスノ
 也さて此ハ國司新嘗の事
 を執て肆宴の後諸卿大夫を
 誘へる歌まるへき事次の歌
 にしてしらる
 永平ハ永手の誤なり
 夜麻之多日影ハ日陰受也山
 に生ふる物なれいへりさ
 て今日影かつらけりて肆宴
 に侍る上に何そや梅を慕ハ
 んさ右の歌に答へたる也

案察使續紀に養老三春秋七
 月始置按察使と見たり

能登河ハ添上郡に在て春日山より流出る川也登知通へハのさ河の後にハさいひ下したる也

伊麻左婆ハ去にまさハふリ之奇島能此ころはや大和一の別名さふれるあり和禮自久ハ之の誤にてわれしハ已かしいふ意也本居翁いれたり

伊吉能乎爾念ハ命にかけて思ふさの意也

能登河乃後者相牟之麻之久母別等伊倍婆可奈之久母在香

右一首治部卿船王

立別君我伊麻左婆之奇島能人者和禮自久伊波比氏麻多牟

右一首京少進大伴宿禰黑麻呂

白雲能布里之久山乎越由可牟君乎曾母等奈伊吉能乎爾念

左大臣換尾云伊伎能乎爾須流然猶喻曰如前誦之也

右一首少納言大伴宿禰家持

辭繁云々事の繁さに客人もあるしの人互にさハさりし程にさ也

布敷賣流波云々ハ梅の猶つほめる花のあるハ客人を待戀ふる心のこもれるハ又開て後雪のふらんをたそれて猶まぢて開かざるハ許の下の活本に母さあるに從ふへし

伊牟禮氏ハいば發語にて群てなり

乎之ハ惜しきなり

五年正月四日於治部少輔石上朝臣宅嗣家宴歌三首

辭繁不相問爾梅花雪爾之乎禮氏宇都呂波牟可母

右一首主人石上朝臣宅嗣

梅花開有之中爾布敷賣流波戀哉許爾禮留雪乎待等可

右一首中務大輔茨田王

新年始爾思共伊牟禮氏乎禮婆宇禮之久母安流可

右一首大膳大夫道祖王

十一日大雪落積尺有二寸因述拙懷歌三首

大宮能内爾毛外爾母米都良之久布禮留大雪莫踏爾乎之御苑布能竹林爾鸞波之波奈吉爾之乎雪波布利都都

布禮々之誤字なるへし、
詞あるへからず本居翁ハ
之ハ也の誤あらん云れ
宮乃裏云々まことに宮の内
にあくにあらす近く開
るなかくなさふくよめり

保久等曾ハこまほくさてそ
の意なり

宇良悲ハ心に愛る意也

伊佐左村竹ハ小群竹也
可蘇氣伎ハ幽也上にも云り

ウグヒスノナキシカキツニニホヘリシツメコノユキニウツフロフラムカ
懸能鳴之可伎都爾爾保做理之梅此雪爾宇都呂布良牟可

十二日侍於内裏聞千鳥喧作歌一首

カハスニモユキハフレレシミヤノウチニチドリナクラシ井ムトコ
河渚爾母雪波布禮禮之宮乃裏智杼利鳴良之爲牟等已
呂奈美

十二月十九日於左大臣橋家宴見攀折柳條歌一首

アチヤギノホヅエヨザトリカヅラクハキミガヤドニシチトセ
青柳乃保都枝與治等理可豆良久波君之屋戸爾之千年
保久等曾

二十三日依興作歌二首

ハルノニカスミタナビキウラガナシコノユフカゲニウケヒスナクモ
春野爾霞多奈妣伎宇良悲許能暮影爾駕奈久母
ワガヤドノイサムラタケフクカセノオトノカソケキコノ
和我屋度能伊佐左村竹布久風能放等能可蘇氣伎許能

ユフベカモ
由布做可母

二十五日作歌一首

ウラウラニテレルハルビニヒバリアガリロ、ロカナシモヒトリシ
宇良字良爾照流春日爾比婆理安我里情悲毛比登里志
於母倍婆

春日遲々、鶴鳩正啼、悽惻之意、非歌難撥耳、仍作此歌、

式展締緒、但此卷中、不備作者名字、徒錄年月所處緣

起者、皆大伴宿禰家持裁作歌詞也、異本左注也、

春日云々活本に此注ふし

比婆理ハ和名抄に紫登和名
比波里揚氏漢語抄云爾婦
あり

萬葉集卷第十九終

萬葉集卷第二十

王の下卿の字を脱せり

幸行於山村之時先太上天皇詔陪從王賦和歌之時天

皇御口號一首

舍人親王應詔奉和歌一首

天平勝寶五年八月十二日二三大夫等各提壺酒登高

圓野聊述所心作歌三首

同六年正月四日氏族人等賀集于少納言大伴家持宅

宴飲歌三首

同七日天皇太上天皇皇后在東常宮南大殿時播磨

國守安宿王奏歌一首

置始連云々前に二首さあるにこもれい此目なくてありなん

同三月十九日家持之庄門槻樹下宴歌二首

置始連長谷歌一首

長谷攀花提壺到來因是大伴家持和長谷歌一首

同二十五日左大臣橘卿宴于山田御母之宅時少納言

大伴家持囑時花作歌一首

同四月大伴家持詠霍公鳥歌一首

七夕歌八首

同月二十八日大伴家持作歌一首

大伴宿禰家持憶秋野聊述拙懷作歌六首

同七歲乙未二月相替遣筑紫諸國防人等歌七首

七首これハ惣標なれハ歌數ありてハまさらハシ

三首さあるハ誤ナリ

同六日防人部領使遠江國史生坂本朝臣人上進歌三首

同七日相模國防人部領使守從五位下藤原朝臣宿奈

磨進歌一首

同八日兵部少輔大伴家持追痛防人悲別之心作歌一

首并短歌

同九日大伴家持作歌三首

同七日駿河國防人部領使守從五位下布勢朝臣人主

進歌十首

同九日上總國防人部領使少目從七位下茨田連沙彌

磨進歌十三首

一首ハ三首の誤也

同十三日兵部少輔大伴家持陳私拙懷歌一首并短歌
 同十四日常陸國防人部領使大目正七位上息長真人
 國島進歌十一首
 同日下野國防人部領使正六位上田口朝臣大戸進歌
 十一首
 同十六日下總國防人部領使少目從七位下縣犬養宿
 禰淨人進歌十一首
 同十七日兵部少輔大伴家持作歌三首
 同十九日兵部少輔大伴家持爲防人情陳思作歌一首
 并短歌

四首ハ三首の誤也

位の下に下の字を脱せり

同二十三日云々の標ハ非也
 上の陳防人悲別之情歌に風
 すへけれハ同二十三日云々
 防人悲別情歌一首并短歌四
 首あるへき也
 女ハ母の誤なり

張ハ帳の誤なり

郡ハ部の誤なり

字遅の下郡ハ部の誤なり

同二十二日信濃國防人部領使上道得病不來進歌四首
 同二十三日上野國防人部領使大目正六位上毛野君
 駿河進歌四首
 陳防人悲別之情歌一首并短歌
 同二十三日兵部少輔大伴宿禰家持三首
 上丁那珂郡檜前舍人石前之妻大伴部眞足女一首
 助丁秩父郡大伴少歳一首
 主張荏原郡物部歳徳一首
 妻棕椅郡刀自賣一首
 豊島郡上丁棕椅部荒虫之妻字遅郡黒女一首

二首ハ一首の誤なり

二十の下脱字あるへし
上の例によるに上丁那珂郡
云々さあるより已下妻物部
刀自賣さいふまで別
けすして武藏國云々三國進
歌十二首さあるへき也
三月三日の前昔年防人歌八
首さあるへきを脱せり

荏原郡上丁物部廣足一首
 橘樹郡上丁物部具根一首
 妻掠椅部弟女二首
 都筑郡上丁服部於田一首
 妻服部皆女一首
 埼玉郡上丁藤原部等母麿一首
 妻物部刀自賣一首
 二月二十日武藏國部領防人使拯正六位上安曇宿禰
 三國進歌數二十首但拙劣者不載
 三月三日檢按防人勅使并兵部使人等同集飲宴作歌

三首

昔年相替防人歌一首

先太上天皇御製霍公鳥歌一首

徑妙觀應詔奉和歌一首

冬日幸于鞆御井之時内命婦石川朝臣應詔賦雪歌

一首

上總國朝集使大掾大原真人今城向京之時郡司妻女
 等餞之歌二首

五月九日兵部少輔大伴宿禰家持之宅集飲歌四首
 同月十一日左大臣橘卿宴右大辨丹比國人真人之宅

卿の下姓氏を脱せり一首ハ
三首の誤なり

歌三首

十八日左大臣宴於兵部卿奈良麿朝臣宅歌一首

八月十三日在内南安殿肆宴歌二首

十一月二十八日左大臣集於兵部卿橘奈良麿朝臣宅

宴歌一首

天平元年班田之時使葛城王從山背國贈陸妙觀命婦

等所哥一首

陸妙觀命婦報贈歌一首

天平勝寶八歲丙申二月朔乙酉二十四日戊申太上天

皇太后幸行於河内離宮經信以壬子傳幸於難波宮也

太右ハ太後の誤にて太の上
皇の字を脱せり孝謙紀によ
れハ天皇太上天皇皇太后と
あるへし

三月七日云々原本に前標と
ついでたるハ誤也今ハ改め
つ馬の下史の字を脱せり

三月七日於河内國伎人鄉馬國人之家宴歌三首

二十日大伴宿禰家持依與作歌五首

喻族歌一首并短歌

大伴宿禰家持臥病悲無常欲修道作歌二首

同家持願壽作歌一首

冬十一月五日少雪夜兵部少輔大伴宿禰家持作歌一首

八日讚岐守安宿王等集於出雲掾安宿奈杼麿之家宴

歌二首

兵部少輔大伴宿禰家持後日追和出雲守山背王作歌

一首

三首ハ二首の誤なり

二十三日集於式部少丞大伴宿禰池主之宅飲宴歌三首
 智努女王卒後圓方女王悲傷作歌一首
 大原櫻井真人行佐保川邊之時作歌一首
 藤原夫人歌一首
 作者未詳歌一首
 三月四日於兵部大丞大原真人今城之宅宴歌一首
 播磨介藤原朝臣執弓赴任悲別歌一首
 勝寶九歲六月二十三日於大監物三形王之宅宴歌一首
 大伴宿禰家持歌一首
 天平寶字元年十一月十八日於內裏肆宴二首

此間本文に大伴宿禰家持悲
 恰物色變化作歌一首あり此
 目脱せり

年月未詳歌ハ本文によるに
 藤原宿禰麻呂之妻石川女耶
 瀬愛離別悲恨作歌一首と有
 へし

二首ハ誤なり二年云々一首
 として次に七日侍宴右中辨
 大伴宿禰家持預作歌一首と
 標目を分ちあへし
 以の下の字を脱す惟ハ帷
 の誤なり

田守朝臣ハ朝臣田守とある
 へき例なり

十二月十八日於大監物三形王之宅宴歌三首
 年月未詳歌一首
 二十三日於治部少輔大原今城真人之宅宴歌一首
 二年正月三日王臣等應詔肯各陳心緒歌二首
 六日內庭假植樹木以林惟而爲肆宴歌一首
 二月於式部大輔中臣清麿朝臣之宅宴歌十首
 依興各思高圓離宮處作歌五首
 屬目山齋作歌三首
 二月十日於內相宅餞渤海大使小野守田朝臣等宴歌
 一首

七月五日於治部少輔大原今城真人宅餞因幡守大伴宿禰家持宴歌一首

三年春正月一日於因幡國應賜饗國郡司等之宴歌一首

山村ハ添上郡山村あり
先太上天皇ハ元正天皇を申

和歌ハ答歌の意にて先太上天皇の御歌に和へ奉れと詔
冷ひしをいふ
御の上目録に天皇とあり即
先太上天皇を申す
夜麻部刀曾許禮ハ花紅葉ふ
さを折らせて贈らせ給ひて
山陵の奉れるよしにまませ
給へるか木居翁ハ即此御歌
なして山麓のたまへる
也さいばれき

夜麻部等能の山人ハ即天皇
を申せり結句の山人ハ御製
にのたまへる山人也さて御
歌の意をまらすして君か御
事そ山人の御意ハいかなる
へる山人ハ誰にかさいへる
也木居翁いばれきさいへる
るへし

請問之の下問ハ問の誤あり

幸行於山村之時歌二首

先太上天皇詔陪從王臣曰夫諸王卿等宜賦和歌而奏

即御口號曰

アシビキノヤマエキシカバヤマビトノラレニエシメシヤママ
安之比奇能山行之可婆山人乃和禮爾依志米之夜麻都
トソコレ
刀曾許禮

舍人親王應詔奉和歌一首

アシビキノヤマニユキケムヤマビトノコロモシラズヤマビト
安之比奇能山爾由伎家牟夜麻部等能情母之良受山人
ヤタレ
夜多禮

右天平勝寶五年五月在於大納言藤原朝臣之家時

依奏事而請問之間少主鈴山田史土麿語少約言大

伴宿禰家持曰昔聞此言即誦此歌也

八月十二日二三大夫等各提壺酒登高圓野聊述所心

作哥三首

多太奈良受等母ハたにお
らんよりハさ也衣の紐さき
て涼みせんさの意なるへし

多可麻刀乎平婆奈布伎故酒秋風爾比毛等伎安氣奈多
太奈良受等母

右一首左京少進大伴宿禰池主

毛美知安倍率ハあへぬのう
らにて俗言にもみちまはほ
せんかさいふ也

安麻久母爾可里曾奈久奈流多加麻刀能波疑乃之多婆
波毛美知安久牟可聞

右二首左中辨中臣清麿朝臣

之努藝ハ凌くにてまけき中
な分け通るさまなふ

平美奈弊之安伎波疑之努藝左乎之可能都由和氣奈加

牟多加麻刀能野曾

右一首少納言大伴宿禰家持

六年正月四日氏族人等賀集于少納言大伴宿禰家持

之宅宴飲歌三首

霜上爾安良禮多婆之里伊夜麻之爾安禮婆麻爲許牟年
緒奈我久

古今未詳

右一首左兵衛督大伴宿禰千里

年月波安多良安多良爾安比美禮騰安我毛布伎美波安
伎太良奴可母

多婆之里ハたハ穢語にて走
なり俗言にさはしるさ云り
霜の上ハ露のふるハいやま
しなる事なれハ序させり
麻爲許牟ハ吾ハ參來ん也
古今未詳ハ古歌を誦した
るハ今作りたるハ詳ならず
さいふぶるへし

年月波云々新しき年月を重
れて相見れ飽足らぬ君そ
さ也元暦本安良多安良多
あり久老云すへて新をあた
らしさいふハ後にてあらた

しき也さいへりさもあるへ
しあたらしハ惜む意也され
と新をあたらしさいふも久
しき事なるへし

春能初乎云々いつまでも今
日の如く新年を重ねて相見
んと思ふか樂しき也
波元曆本に婆さあるそよき

七日ハ正月七日也天皇ハ孝
謙天皇太上ハ元正天皇皇太
后ハ光明皇后也
伊奈美野ハ播磨國也作者其
國なれハこの野を取らたり
安可其我之波色つきたる柏
すいふ供供料の子解にあら

古今未詳

右一首民部少丞大伴宿禰村上

カスミミタツハルノハシメサケフノゴトミムトオモハバタヌジ
可須美多都春能初乎家布其等見牟登於毛倍波多努之
トゾモフ
等曾毛布

右一首左京少進大伴宿禰池主

七日天皇太上天皇皇太后於東常宮南大殿肆宴歌一首
イナミヌノアカラガシハトキハアレドキミサアガ
伊奈美野乃安可良我之波波等伎波安禮騰伎美乎安我
モフトキハサナシ
毛布登伎波佐禰奈之

右一首播磨國守安宿王奏 古今未詳

三月十九日家持之庄門槻樹下宴飲歌二首

夜麻夫伎波云々次の歌の左
註を付けて見るに置始連の
家の山吹を折して家持卿の
庄園へ来てさて前々此花
の在る故に君か我方へも
てかさし給つれハ山吹ハ
てうつくしみて生したて
物そさいふ意也

夜麻夫伎波奈埜都都於保佐牟安里都都母伎美伎麻之
都都射之多里家利

右一首置始連長谷

ワガセコガヤドノヤマアキサキテアラバヤマズカヨ
和我勢故我夜度乃也麻夫伎佐吉豆安良婆也麻受可欲
ハムイヤトシノハニ
波牟伊夜登之能波爾

右一首長谷攀花提壺到來因是大伴宿禰家持作此

歌和之

同月二十五日左大臣橘卿宴于山田御母之宅歌一首

夜麻夫伎乃花能左香利爾可久乃其等伎美乎見麻久波
知登世爾母我母

山田御母ハ天皇の御乳母と
見
伎美乎ハ諸兄卿をさせるか
は山田御母をさせるか定
かならず

御の擧の誤なるへし而の下
選字ふと脱しかと契沖いハ
れき

伊麻之のしハ助辞なり今典
山より來るらしと也

波都秋風云々ハ奉牛にな
りてよめる意あり

宇多豆家爾ハ博異にの意也
此歌一四五三二と句を次第

右一首少納言大伴宿禰家持
大臣罷宴而不攀誦耳

詠霍公鳥歌一首

許乃久禮能之氣伎乎乃倍乎保等登藝須奈伎豆故由奈
里伊麻之久良之母

右一首四月大伴宿禰家持作

七夕歌八首

波都秋風須受之伎由布弊等香武等曾比毛波牟須妣之
伊母爾安波牟多米

秋等伊弊婆許已呂曾伊多伎宇多豆家爾花爾奈蘇倍豆

して解へし

波名爾ハ集中多くあたる
事によめれは是ハしからず
花の如くにの意にてめつら
なく見んといふ也初句ハは
なさいはん爲のみ

秋風爾云々上ハにこよかと
いはん爲の序のみ

伊之奈爾於可婆ハ山川なご
に石をならへてきて渡るな
いは橋さもいへり

字真麻知ハ下待さいふに同
し心の中にまつ意也

見麻久保里香聞

波都乎婆奈波名爾見牟登之安麻乃可波弊奈里爾家良
之年緒奈我久

秋風爾奈妣久可波備能爾故具左能爾古餘可爾之母於

毛保由流香母

安吉佐禮婆奇里多知和多流安麻能河波伊之奈爾於可
婆都藝豆見牟可母

秋風爾伊麻香伊麻可等比母等伎豆宇良麻知乎流爾月

可多夫伎奴

秋草爾於久之良都由能安可受能未安比見流毛乃乎月

月乎之の月ハ月次の月にて
七月をまたんかもと歎く也
安乎奈美爾背き浪をいふ
可之布流ハかしハ舟を繋ぎ
さむる水ないふそをふりた
て、綱を結ふによりてふる
さいへり

蘇泥都氣其呂母宿服ハ皆端
袖を着れハいへり
須蘇未みハひに通ひてへミ
いふに同じす方也

乎之麻多牟
安乎奈美爾蘇豆佐閉奴禮豆許具布禰乃可之布流保刀
爾左欲布氣奈武可

右大伴宿禰家持獨仰天漢作之

八千種爾久佐奇乎宇惠豆等伎其等爾左加牟波奈乎之
見都追思努波奈

右一首同月二十八日大伴宿禰家持作之

宮人乃蘇泥都氣其呂母安伎波疑爾仁保比與呂之伎多
加麻刀能美夜
多可麻刀能宮乃須蘇未乃努都可佐爾伊麻左家流良武

野都可佐ハ野可にて野の高
所をいふ

乎名古ハ秋中抄にをさこハ
をさこへしさいふハほこ
ちさてをみなしハのやうに
て花の白き也さあり賀茂翁
ハ花を男花さいふへしさい
はれつれさ強音ふるへしさい
解にハ草の名ハあらし界
男女打交りて行事也秋野に
千種の花の覽見ハ男女打交
りて今こそ行かめさ也一五
三四二さ句を次第して解く
へしさいへり

欲妣多天思加婆ハ鹿笛さ
へるものを吹て鹿を呼出す
亦音もありけん

乎美奈弊之波母

秋野爾波伊麻已會由可米母能乃布能乎等古乎美奈能

波奈爾保比見爾

安伎能野爾都由於弊流波疑乎多乎良受豆安多良佐可

里乎須具之豆牟登香

多可麻刀能秋野乃字倍能安佐疑里爾都麻欲夫乎之可

伊泥多都良武可

麻須良男乃欲妣多天思加婆左乎之加能牟奈和氣由可

牟安伎野波疑波良

右歌六首兵部少輔大伴宿禰家持獨憶秋野聊述拙

懷作之

天平勝寶七歲乙未二月相替遣筑紫諸國防人等歌
 カシコキヤミコトカガフリアスユリヤカエガイムタ
 可之古伎夜美許等加我布理阿須由利也加曳我伊牟多
 彌乎伊牟奈之爾志豆
 子ヲイムナシニシテ

右一首國造丁長下郡物部秋持

和我都麻波伊多古比良之乃牟美豆爾加其佐倍美曳
 豆余爾和須良禮受
 テヨニロスラレズ

右一首主張丁龜玉郡若倭部身麿

等伎騰吉乃波奈波佐家登母奈爾須禮會波波登布波奈
 乃佐吉低己受那牟
 ノサキテヨズケム

加曳我伊牟多彌云々
 地名カシコキヤミコトカガフリアスユリヤカエガイムタ
 可之古伎夜美許等加我布理阿須由利也加曳我伊牟多
 彌乎伊牟奈之爾志豆
 子ヲイムナシニシテ
 國造丁長下郡物部秋持
 和我都麻波伊多古比良之乃牟美豆爾加其佐倍美曳
 豆余爾和須良禮受
 テヨニロスラレズ
 主張丁龜玉郡若倭部身麿
 等伎騰吉乃波奈波佐家登母奈爾須禮會波波登布波奈
 乃佐吉低己受那牟
 ノサキテヨズケム

まさりさまにおほ
 山名郡も遠江なり
 等倍多保美志留波乃伊宗等爾閑乃宇良等安比豆之阿
 良婆已等母加由波牟
 ラバコトモカユハム

右一首同郡丈部川相

知知波々母波奈爾母我毛夜久佐麻久良多妣波由久等
 母佐佐己豆由加牟
 モサハゴテユカム

右一首佐野郡丈部黒當

父母我等能志利弊乃母母余具佐母母與伊豆麻勢和
 我伎多流麻豆
 ガキタルマデ

右一首同郡生玉部足國

佐々巳豆ハさくくるを詠り
 てさいこさいへるなるへし
 佐野郡是も遠江國也
 等能志利弊ハ父母の住所
 の後へ也母々余具佐知られ
 ナ伊豆麻勢ハいませ也

伊豆麻母加ハ暇もあれかし
頼ふなり
阿禮の下波元曆本に可に作
る之の意あるへし

古元曆本に等に作れり

伊蘇爾布理ハ石に觸てふり
宇乃波良ハ海原なり

助丁の上郡名を脱せしなる

夜蘇久爾波云々多くの國々
より防人の出行て難波に集
りて舟よそひするをいへり
比呂ハる少助辭にて日あり
美毛ハ見ん也本居翁云舟か

ワカツマロエニカキトラムイヅマモガタビユクアレ
和我都麻母畫爾可伎等良無伊豆麻母加多比由久阿禮
ハミツシマバム
波美都都志努波牟

右一首長下郡物部古曆

二月六日防人部領使遠江國史生坂本朝臣人上進

歌數十八首但有拙劣歌十一首不取載之

於保吉美能美許等可之古美伊蘇爾布理宇乃波良和多
流知知波波乎於伎豆

右一首助丁丈部造人曆

夜蘇久爾波那爾波爾都度比布奈可射里安我世武比呂
乎美毛比等母我母

さりにいふなして見れハ舟
を見事に飾りたるよそひな
人に見せまほしといふる
足下郡ハ相模國あり
余會比ハ舟よそひ也

鎌倉郡また相模也

安多麻毛流云々ハ異國の賊
な守り押へ防く城といふ也

安豆麻乎能故波云々横絶景
雲三年十月の詔に東人波常

右一首足下郡上丁丹比部國人

奈爾波都爾余會比余會比豆氣布能日夜伊田豆麻可良
武美流波波奈之爾

右一首鎌倉郡上丁九子連多曆

二月七日相模國防人部領使守從五位下藤原朝臣

宿奈曆進歌數八首但有拙劣歌五首者不取載之

追痛防人悲別之心作歌一首並短歌

天皇乃等保能朝廷等之良奴日筑紫國波安多麻毛流於
佐倍乃城會等聞食四方國爾波比等佐波爾美知豆波安
禮杼登利我奈久安豆麻乎能故波伊田牟可比加弊里見

爾云久願爾方箭波立止毛背
波箭方不立止云天君乎一心
乎以天護物曾云々なきあり
年卒いくさの射合する箭さ
いふ事にて矢射る人をいふ
つはもの兵器なるを其器
さる人をもつはものさいふ
か如し
爾多麻比の勢ひ給ひたり
都麻乎母麻可受ハ不頼也
可故ハ水手也

可知比伎乎里ハ引たわむる
なにいふ
伎美波ハ防くなさせり

安里米具里ハ在々て行廻り
の意也
乎波良の下の波ハ元曆本に
婆に作れるそよき
都々麻波受ハ恙なくさいふ
に同し
伊波比倍ハ齊也
等許敵爾ハ床の方也旅立る
跡の床を寄ふハ古の常也卷
十七に旅行君ハさきくあれ
と齊懸するつあか床の方に

セクタイイサミタルタケイサトチギタマヒマケノマ
世受豆伊佐美多流多家吉軍卒等爾疑多麻比麻氣乃麻
ニマニタラチ子ノハ、ガメカレテワカクサノツマチモマ
爾麻爾多良知爾乃波波我目可禮豆若草能都麻乎母麻
カズアラタマノツキヒヨミツ、アシガチルナニハノミツ
可受安良多麻能月日餘美都都安之我知流難波能美津
ニオホア子ニマカイシ、マキアサナギニカゴト、ノヘユ
爾大船爾末加伊之自奴伎安佐奈藝爾可故等登能倍由
フシホニカガヒキチリアトモヒテコギユクキミハナ
布思保爾可知比伎乎里安騰母比豆許藝由久伎美波奈
ミノマチイユキサグ、ミマサキクモハヤクイタリテ
美乃間乎伊由伎佐具久美麻佐吉久母波夜久伊多里豆
オホキミノミコトノマニマヌラチノコ、ロチモチテア
大王乃美許等能麻爾末麻須良男乃許已呂乎母知豆安
リメグリコトシチハラバツ、マハズカヘリキマセトイ
里米具里事之乎波良波都都麻波受可敵理伎麻勢登伊
ハヒベチナトコベニスエテシロタヘノソチナリカヘシ
波比倍乎等許敵爾須惠豆之路多倍能蘇田遠利加敵之
ヌバタマノクロカミシキチナガキケチマチカモゴヒム
奴婆多麻乃久路加美之伎豆奈我伎氣遠麻知可母戀牟

さしめりさて須惠豆さい
ふより末の麻知可母さいふ
へかゝる意あり

波之伎都麻良波

反歌

麻須良男能由伎等里於比豆伊田豆伊氣婆和可禮乎平
シミナガキケムツマ
之美奈氣伎家牟都麻
トリガナクアヅマチトコノツマ、ロカレカナシクアリ
等里我奈久安豆麻乎等故能都麻和可禮可奈之久安里
ケムトシノチナガミ
家牟等之能乎奈我美

右二月八日兵部少輔大伴宿禰家持

ウナバラチトホクワタリテトシフトモコラガムスベルヒ
海原乎等保久和多里豆等之布等母兒良我牟須敵流比
モトクナユメ
毛等久奈由米
イマカハルニヒサキモリガフナテスルウナバラノウヘニナ
今替爾比佐伎母利我布奈豆須流宇奈波良乃宇倍爾奈

比毛等久奈由米ハ防人にい
ひかしふる意あり

るへしそなほむるさいふ也
さてほめてつくれる殿の世
に久しく在る如くも也
於米の面也

和呂多比波云々心得たし
賀茂翁も強ていはれ和呂多
比波ハ吾旅者也於米保等ハ
思へさ也古米知ハ顔面の約
轉せるからん夜須良幸ハ瘦
のらん也さて旅のうきのみ
にあらす故郷を戀ふる悲し
みを重ねて顔面の瘦やすら
んさいふかさいはれきなほ
考へし

廣目の廣元曆本に度さあり
和須良幸砥ハ忘れんさて也
和伎米故ハ我妹子也彌良ハ
織らにてらハ助辞なり苦不
志久米阿流可ハ戀しくもあ
るか米もしハ毛の誤か父ハ
東語にてまかいふか

自於米加波利勢受

右一首坂田部首磨

和呂多比波多比等於米保等已比爾志豆古米知夜須良
牟和可美可奈志母

右一首玉作部廣目

和須良牟砥努由伎夜麻由伎和例久禮等和我知知波波
波和須例勢努加毛

右一首商長首磨

和伎米故等不多利和我見之字知江須流須流河乃彌良
波苦不志久米阿流可

右一首春日部磨

知知波波我可之良加伎奈豆佐久安禮天伊比之古度婆
曾和須禮加彌津流

右一首丈部稻磨

二月七日、駿河國防人部領使守從五位下布勢朝臣

人主實進九日歌數二十首但拙劣歌者不取載之

伊閉爾之豆古非都都安良受波奈我波氣流多知爾奈里
豆母伊波非豆之加母

右一首國造丁早部使主三中之文歌

多良知彌乃波々乎和加例豆麻許等和例多非乃加里保

奈我波氣流云々汝ハ佩る太
刀になりても汝を齎はんも
のなと防人の親のよめる也
早ハ元曆本に目下さあるそ
いさ文ハ母の誤なるへし父
の字文ハ近けれさ答歌に
も母さよめり
波々乎和加例豆ハ母に別れ
てさり

佐久安禮天ハ幸くわれささ
いふなり

早また元曆本に目下とある
に從ふへし
毛母久麻能ハ百限也さて上
句ハ陸路をいひ下句ハ海路
をいへり

阿須波乃可美古事記に大年
神の子に庭津日神次に阿須
波神云々さありて庭津也是
ハ庭の中に小柴もて神籬を
かりそめに造るなるへしそ
をこまかさしさいへり
但元曆本に泥に作れり
帳丁ハ主帳丁也右の歌ハ親
のよめるなるへし諸人の下
字の脱たるか
夜豆伎可佐爾ハ數多着重れ
てとせ波太ハ膚也
比元曆本に妣に作り豆を
都に作れり伎一本倍に作る

爾夜須久爾牟加母

右一首國造丁早部使主三中

毛母久麻能美知波紀爾志乎麻多佐良爾夜蘇志麻須義
豆和加例加由可牟

右一首助丁刑部直三野

爾波奈加能阿須波乃可美爾古志波佐之阿例波伊波波
牟加倍理久麻但爾

右一首帳丁若麻績部諸人

多比已呂母夜豆伎可佐爾豆伊努禮等母奈保波太佐牟
志伊母爾志阿良爾婆

望陀郡上總國也

宇万良ハ荆なり宇禮ハ末也
波保麻米ハ遺ふ豆也和名抄
に菰豆和名阿知万女繼上豆
也さある也可良麻流ハ繼ハ
る也波可禮ハ離也
天羽郡も上總國なり
伊倍加是ハ音本郷の力より
吹く風をいふ伊倍其登ハ家
言にて家の妹ハ音也東風ハ
日々にふけとも妹ハ便ハふ
しこの意なり

右一首望陀郡上丁玉作部國忍

美知乃倍乃宇萬良能宇禮爾波保麻米乃可良麻流伎美
乎波可禮可由加牟

右一首天羽郡上丁丈部鳥

伊倍加是波比爾比爾布氣等和伎母古賀伊倍其登母遲
豆久流比等母奈之

右一首朝夷郡上丁九子連大歲

多知許毛乃多知乃佐和伎爾阿比美豆之伊母加己己呂
波和須禮世奴可母

右一首長狹郡上丁丈部與呂磨

長狹郡も安房國也

多知許毛乃ハ起尾也上に村
鳥の立のさわき又水鳥の立
のいそきなともよめり

朝夷郡ハ安房國なり

久毛爲爾云々家にいや違
さかりゆくを難波より西よ
見ゆる島のほるけきにつけ
て歎く意なり

武射郡の上總國也

和我可良爾わわが故にの意
なり延の元曆本に延に作れ
るそよき

山邊郡の上總國也

久麻刀の隈處也志保々々
ほまほを尋たる也母波由の
原はる也

南原郡また上總國也

和奴の我にて吾にさりつき
てといふ意也古奈の子らに
同じく妹をさしていへり
種此郡此の准の誤なるへし
上總國周准郡あり

船幸加流の舟の軸の向ふ也

久爾々の我本郷の國へも也

長柄郡は上總國也

懐の下歌の字を脱せり

天皇乃等保伎美與爾毛ハ仁
徳天皇を申し奉る也

伊麻能の下乎ハ與の誤なる
へし

ヨソニノミミテヤラモナニハガタクモ井ニミユ
余曾爾能美美豆夜和多良毛奈爾波我多久毛爲爾美由
ルシマナラナクニ
流志麻奈良奈久爾

右一首武射郡上丁丈部山代

ワガハハノソデモチナデアワガカラニナキシコハロ
和我波波能蘇豆母知奈豆氏和我可良爾奈伎之許已呂
ナワスラエヌカモ
乎和須良延努可毛

右一首山邊郡上丁物部手刀良

アシガキノクマドニタテアギモゴカソテモシホハ
阿之可伎能久麻刀爾多知豆和藝毛古我蘇豆毛志保々
ニナキシソモハユ
爾奈伎志曾母波由

右一首市原郡上丁刑部直千國

オホキミノノミコトカシコミイデアクレンバロメトリツキ
於保伎美乃美許等加志古美伊豆久禮婆和努等里都伎

テイヒシコナハモ
豆伊比之古奈波毛

右一首種泚郡上丁物部龍

ウクシベニヘムカルフチノイツシカモツカヘマツリ
都久之閉爾敵牟加流布禰乃伊都之加毛都加敵麻都里
テクニハムカモ
豆久爾爾閉牟可毛

右一首長柄郡上丁若麻績部羊

二月九日上總國防人部領使少目從七位下茨田連
沙彌廬進歌數十九首但拙劣歌者不取載之

陳私拙懷一首并短歌

オホキミノトホキミヨニモカシテルナニハノクニニアメノ
天皇乃等保伎美與爾毛於之豆流難波乃久爾爾阿米能
シタシラシメシキトイマノヨニタエズイヒツカケ
之多之良志賣之伎等伊麻能乎爾多要受伊比都都可氣

見能等母之久云々ハ見るか
珍らしく清き也

賣之多麻比云々ハ見明らか
給ふさいふを二句に分てり

伎已之米須の米元曆本に乎
に作れり

笑乎妣伎之郡々ハ水脈を舟
引のほる也

可治比伎能保里ハ櫓を引た
わめて船を登らす也

夜敵乎流我字倍爾ハ卷七に
ハ重折之於母さよめり

波其々ハ常言にばら／＼さ
いふに同じ敷すをばら／＼さ
すさといふ是也

伊射里都里家理ハいさりし
釣しけりにていさり綱引し
る事にいへり

曾伎太久ハそこはくにて下
の曰伎婆久さいふも同じ

麻久母安夜爾可之古志可武奈我良和其大王乃字知奈
妣久春初波夜知久佐爾波奈佐伎爾保比夜麻美禮婆見
能等母之久可波美禮婆見乃佐夜氣久母能其等爾佐可
由流等伎登賣之多麻比安伎良米多麻比之伎麻世流難
波宮者伎己之米須四方乃久爾欲里多豆麻都流美都奇
能船者保理江欲里美乎妣伎之都安佐奈藝爾可治比
伎能保里由布之保爾佐平佐之久太理安治牟良能佐和
伎々保比豆波麻爾伊泥豆海原見禮婆之良奈美乃夜敵
乎流我字倍爾安麻乎夫禰波良爾宇伎豆於保美氣爾
都加倍麻都流等乎知許知爾伊射里都利家里曾伎太久

於藝呂ハ願の字を訓り願ハ
深也さておきろなきハ奥な
きなり物語文にわうなきさ
いふ願の詞なり
神代由ハ上代よりにて仁徳
天皇の始めたまひを云り
櫻花云々花ハこの宮も並て
盛ふる意にてなへさいへり
於之豆流宮ハ難波の枕詞な
るを上に難波さいひて語を
上下に置たり家持卿の頃ハ
既にいひ馴て用をにさり
ふしていへり

於呂須惠ハ下し居みなり
夜蘇加奴伎ハ八十歳貫にて
多くの櫓をたつるをいふ
許伎奴ハ消出さぬ也
佐伎牟理ハさきもりにて防
人也伊毛元曆本に伊牟に作
れるハまかるへし
奈流敵伎已等ハ産業にすへ

毛於藝呂奈伎可毛己伎婆久母由多氣伎可母許己見禮
婆宇倍之神代由波自米家良思母
櫻花伊麻佐可里奈里難波乃海於之豆流宮爾伎許之賣
須奈倍
海原乃由多氣伎見都々安之我知流奈爾波爾等之波倍
勢倍久於毛保由
右二月十三日兵部少輔大伴宿禰家持
奈爾波都爾美布禰於呂須惠夜蘇加奴伎伊麻波許伎奴
等伊母爾都氣許曾
佐伎牟理爾多多牟佐和伎爾伊敵能伊毛何奈流敵伎己